

PHILIPS

Signage Display 4000 Series

43BDL4150Q

50BDL4150Q

55BDL4150Q



ユーザーマニュアル (日本語)

目次

1. 安全上の注意	1	10.5. ピクセル欠陥の近接性	53
2. 開梱および設置	4	10.6. ピクセル欠陥の許容値	53
2.1. 開梱	4	10.7. ムラ	53
2.2. 梱包箱に含まれているもの	6	11. クリーニングとトラブルシューティング	54
2.3. 設置に関する注意事項	6	11.1. クリーニング	54
2.4. 壁に取り付ける	7	11.2. トラブルシューティング	55
2.5. 縦長向きでの設置	8	12. 技術仕様	57
3. 各部の名称と機能	9	フィリップスプロフェッショナルディスプレイの保証ポ リシー	59
3.1. コントロールパネル	9	索引	61
3.2. 入力 / 出力端子	10		
3.3. リモコンへの電池の取り付け	11		
3.4. リモコンの取り扱い	11		
3.5. リモコンの操作範囲	11		
3.6. リモコン	12		
4. 外部機器の接続	16		
4.1. 外部機器の接続（マルチメディアプレーヤ ー）	16		
4.2. PC の接続	16		
4.3. オーディオ機器の接続	16		
4.4. IR 接続	17		
4.5. IR パススルー接続	17		
5. 操作	18		
5.1. 接続した映像ソースを視聴する	18		
5.2. 画像フォーマットの変更	18		
5.3. 概要	18		
5.4. メディアプレーヤー	20		
5.5. ブラウザー	23		
5.6. PDF プレーヤー	27		
5.7. カスタムアプリ	29		
6. 設定	30		
6.1. 設定	30		
6.2. 補足	40		
7. OSD 画面メニュー	42		
7.1. OSD 画面メニューの操作	42		
7.2. OSD メニューの概要	42		
8. サポートされているメディアフォーマット	48		
9. 入力モード	50		
10. ピクセル欠陥ポリシー	52		
10.1. ピクセルとサブピクセル	52		
10.2. ピクセル欠陥の種類 + ドットの定義	52		
10.3. 輝点欠陥	52		
10.4. 黒点欠陥	53		

1. 安全上の注意

安全のための注意事項とメンテナンス



警告：本書で指定していない制御、調整または手順を使用すると、感電、電氣的障害、機械的災害につながる可能性があります。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。

この製品は、ビジネス環境における専門的な設置での使用のみを目的としており、家庭での使用には適していません。

このデバイスが意図されている以外の使用は、保証を無効にする可能性があります。

操作時：

- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- ディスプレイを油に近づけないでください。プラスチックカバーが損傷する可能性があります。
- ディスプレイは十分に換気されている場所に設置してください。
- 屋外で使用する場合は、紫外線フィルターが必要です。
- 温度が高い、湿度が高い、表示頻度が高い、動作時間が長いなど、極端な条件下でディスプレイを使用する場合は、Philips のアプリケーションエンジニアにご相談ください。ご相談いただかなかった場合、ディスプレイの信頼性と機能への保証が損なわれる可能性があります。極端な条件は、空港、乗換駅、銀行、証券取引所、制御システムになどでよく見受けられます。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- 電源コードを取り外すことでディスプレイの電源をオフにする場合、6 秒待ってから電源コードを再び取り付けて通常操作を行ってください。
- Philips が提供する認可された電源コードを使用してください。電源コードが入っていない場合、カスタマサポートにお問い合わせください。
- 操作中、ディスプレイを強い振動や高い衝撃条件にさらさないでください。
- ディスプレイの操作中あるいは運搬中に、モニターを叩いたり落としたりしないでください。
- アイボルトはメンテナンスや設置の際に短期間使用するためのものです。1 時間以上にわたりアイボルトを使用し続けなことを推奨します。長期にわたっての使用は禁止されています。アイボルトを使用する際には、ディスプレイの下に障害物を置かないようにして安全エリアを確保してください。

メンテナンス：

- ディスプレイを損傷するおそれがあるため、LCD パネルに過剰な圧力をかけないでください。ディスプレイを移動する際は、必ずフレームを持って持ち上げてください。LCD パネルに手や指を当ててディスプレイを持ち上げないでください。
- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。落ちにくい場合は少量の水をしめらせた布でふき取ってください。ただし、アルコール、アンモニアベースの液体などの有機溶剤を使用してディスプレイを洗浄することは絶対におやめください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを埃、雨、水、湿気の多い環境にさらさないでください。
- ディスプレイが濡れたら、できるだけ速やかに乾いた布で拭いてください。
- ディスプレイに異物や水が入ったら、直ちに電源をオフにし、電源コードを抜いてください。それから、異物や水を取り除き、メンテナンスセンターに送ってください。
- 熱、直射日光、極端な低温にさらされる場所でディスプレイを保管したり、使用したりしないでください。
- ディスプレイ最高のパフォーマンスを維持し長く使用するために、次の温度および湿度範囲に入る場所でディスプレイを使用することを強くお勧めします。

環境的絶対定格

項目	最小	最大	単位
保管温度	-20	60	° C
動作温度	0	40	° C
ガラス面温度 (動作時)	0	65	° C
保管湿度	5	95	% RH
動作湿度	20	80	% RH

- 輝度の性能を向上させるため、LCD パネルの温度は常に摂氏 25 度に保つ必要があります。
- 適切な動作条件でディスプレイが使用された場合にのみ、本仕様に記載されているディスプレイの寿命が保証されます。

重要: ディスプレイの前を離れるときは、常にスクリーンセーバーをオンにしてください。装置が変化しない静止コンテンツを表示している場合、常に定期的にスクリーンリフレッシュアプリケーションを起動してください。長時間静止画像を表示すると、画面に「残像」または「ゴースト像」として知られる「焼き付き」が表示される原因となります。これは LCD パネル技術ではよく知られた現象です。ほとんどの場合、電源をオフにすると「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」は時間とともに徐々に消えます。

警告:「焼き付き」、「残像」、「ゴースト像」症状はひどくなり、消えることも修理することもできなくなります。これは、保証には含まれません。

サービス:

- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- 修理または統合が必要な場合、最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。
- ディスプレイを直射日光にさらさないでください。



本書で設定した指示に従っても本製品が正常に動作しない場合は、修理スタッフまたは最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。

安定性上の危険性。

ディスプレイが落下すると、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。怪我を防止するため、設置説明書に従って、床 / 壁にディスプレイをしっかり固定してください。

ディスプレイを接続し使用しているときは、これらの指示を読んで従ってください。



- 長時間使用する予定がない場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。
- わずかに湿らせた布で洗浄する必要がある場合、ディスプレイのプラグを抜いてください。電源をオフにしているとき、画面を乾いた布で拭くことができます。ただし、アルコール、溶剤、またはアンモニアベースの液体は絶対に使用しないでください。
- 本書の指示に従っているときにディスプレイが正常に作動しない場合、修理スタッフにお問い合わせください。
- ケースカバーは専門の修理技術者以外は絶対に開けないでください。
- ディスプレイを直射日光にさらしたりせず、他の熱源から離れた位置に設置してください。
- 通気口に落下する可能性のある物体を取り除き、ディスプレイの電子機器の適切な冷却を妨げないようにしてください。
- キャビネットの通気口を塞がないでください。
- ディスプレイは乾燥した状態を保つようにしてください。感電の原因となるため、雨や過度の湿気にさらさないでください。
- 電源ケーブルや DC 電源コードを取り外してディスプレイの電源をオフにする場合は、6 秒間待ってから電源ケーブルや DC 電源コードを再接続し、通常操作を行ってください。
- 感電や装置の永久的な損傷の原因となるため、ディスプレイを雨や過度の湿気にさらさないでください。
- ディスプレイの位置を定めているとき、電源プラグとコンセントに容易に手が届くことを確認してください。
- **重要:** ディスプレイを使用しない場合は、常にスクリーンセーバーを有効にしてください。コントラストの高い静止画像を長時間表示した場合、画面に「残像」または「ゴースト像」として知られる焼き付きが発生する可能性があります。これは LCD パネル技術においてよく知られた現象であり、その原因は LCD 技術に内在する特性に起因します。ほとんどの場合、電源をオフにすることで、焼き付き、残像、ゴースト像は時間とともに徐々に消失します。ただし、これらの症状は修理不可能であり、保証の対象外となることにご注意ください。
- 電源コードに 3 ピン取り付けプラグが付属している場合は、接地 (アース) された 3 ピンコンセントにコードを接続してください。2 ピンアダプターを取り付けるなどして、電源コードの接地ピンを無効にしないでください。接地ピンは重要な安全機能です。

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このような場合、使用者が適切な対策を講じるよう要求されることがあります。

VCCI-A

<アプリのインストールについての注意事項>

●アプリのインストールは安全であることを確認の上、自己責任において実施してください。

ウイルスへの感染や各種データの破壊などが発生する可能性があります。

●万が一、お客様がインストールを行ったアプリなどにより各種動作不良が生じた場合、当社では責任を負いかねます。この場合、保証期間内であっても有償修理となります。

●お客様がインストールを行ったアプリなどにより自己または第三者への不利益が生じた場合、当社では責任を負いかねます。

●アプリによっては、自動的にパケット通信を行うものがあります。パケット通信は、切断するかタイムアウトにならない限り、接続されたままです。

●アプリによっては、自動的にアップデートが実行される場合があります。

●Android OS のバージョンダウンもバージョンアップも行わないで下さい。

●Android OS のバージョンに合わせたアプリをインストールしてください。

粗分類		化学物質表					
		Pb	Hg	Cd	Cr6+	PBBs	PBDEs
前面ベゼル		○	○	○	○	○	○
背面カバー		○	○	○	○	○	○
パネル		除外項目	○	○	○	○	○
LCD ディスプレイ	WLED	除外項目	○	○	○	○	○
	CCFL	除外項目	除外項目	○	○	○	○
PCBA*		除外項目	○	○	○	○	○
ケーブル & ワイヤ		除外項目	○	○	○	○	○
リモコン		除外項目	○	○	○	○	○
*：PCBA はベア印刷回路基板で構成され、はんだ付けされた抵抗器、コンデンサ、アレー、コネクタ、チップなどの表面実装部品を含みます。							
注 1：「○」は、算出された物質の含有率が基準含有率を超えていないことを示します。							
注 2：「除外項目」とは、特定の化学物質が JIS C 0950:2021 の規定に基づき除外対象とされている項目を意味します。							
JIS C 0950: 2021							

2. 開梱および設置

2.1. 開梱

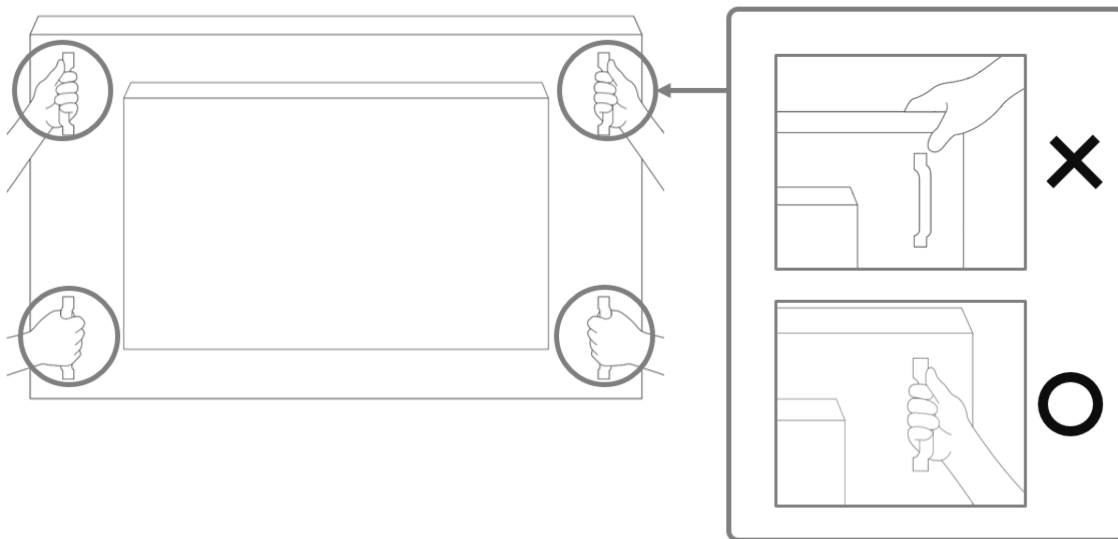
- 本製品は段ボール箱に標準付属品とともに梱包されています。
- その他のオプション付属品は別途梱包されています。
- 本製品は高く重いので、移動する際には2人の技術者が作業を行うことを推奨します。
- 開梱後、内容物に不足がなく、状態に問題がないことをご確認ください

■ 開梱する前に

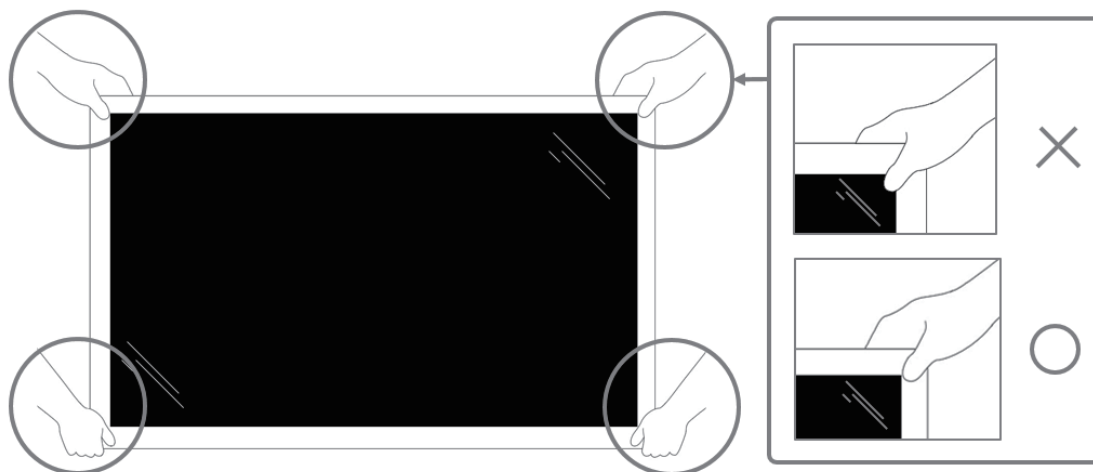
- 設置前に、開梱に関する注意事項をよく読み、十分に理解してください。
- 包を確認し、きしみ、へこみ等の異常がないことを確認してください。
- ディスプレイを段ボールから取り出す前に、必要な検査を行ってください。
- 損傷を防ぐために、常に経験豊富な技術者がディスプレイを取り付けるようにしてください。

■ 通知

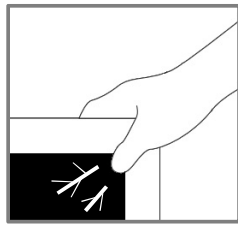
- ハンドル付きディスプレイの場合：
 - 大人2人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。
 - ディスプレイを移動するときは、ハンドルを持ってください。



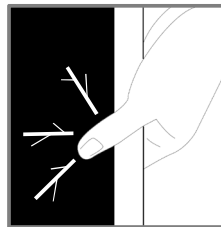
- ハンドルなしディスプレイの場合：
 - 大人2人が両手を使って段ボールからディスプレイを取り出してください。
 - ディスプレイのガラスをつかんだり触れたりしないようにしてください。
 - ディスプレイのベゼル面（プラスチックまたは金属の部分）をつかむようにしてください。



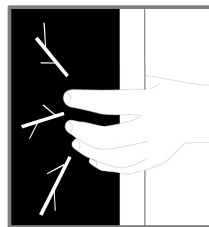
- 箱からディスプレイを取り出す際、保護バッグを内部に残し、損傷さないようディスプレイのガラス面に触れないように注意してください。



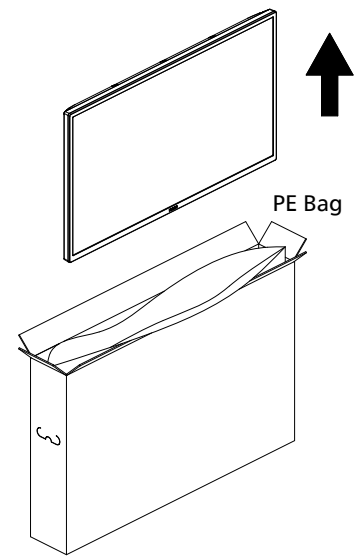
×



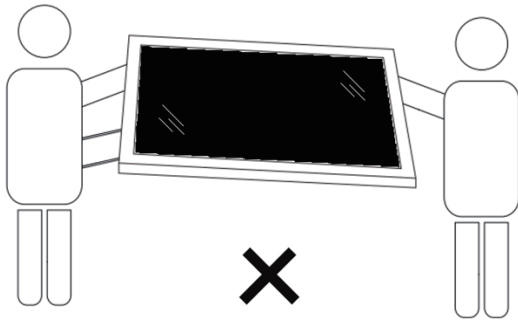
×



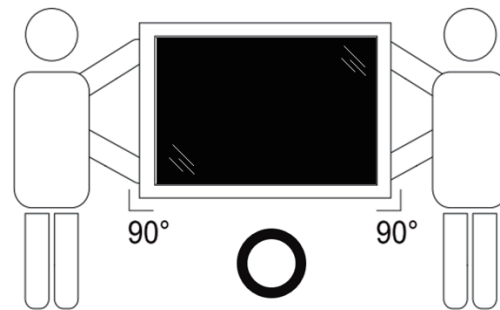
×



- ディスプレイを移動するときは、ディスプレイを垂直に維持してください。

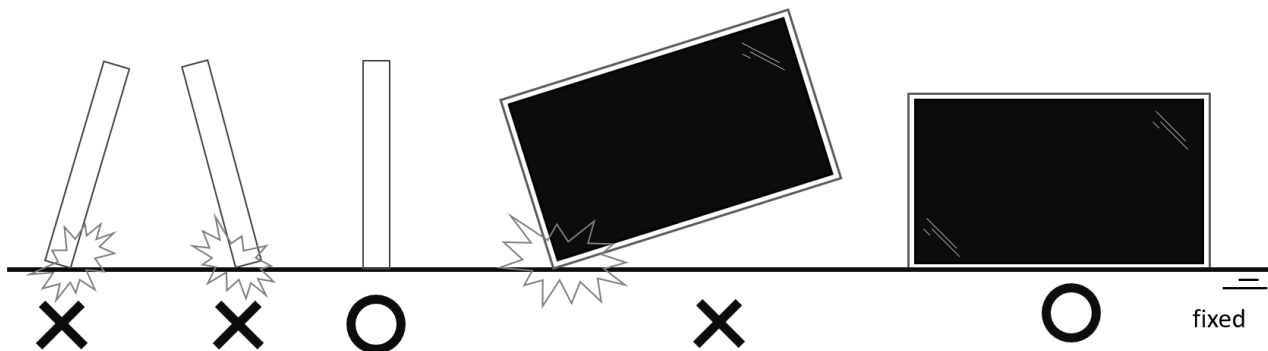


×



○

- ディスプレイを垂直にすることで、ディスプレイの重量が表面に均等に分散します。



×

×

○

×

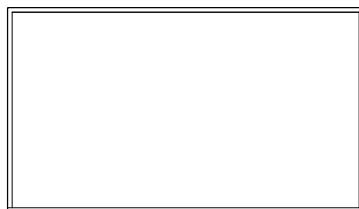
○

fixed

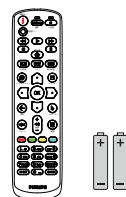
2.2. 梱包箱に含まれているもの

パッケージに次の品目が揃っていることを確認してください：

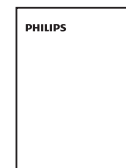
- LCD ディスプレイ
- リモコンとリモコン用単 4 乾電池
- 保証書
- クイックスタートガイド
- 電源ケーブル
- RS232 ケーブル
- RS232 デイジーチェーンケーブル
- IR センサーケーブル
- HDMI ケーブル
- フィリップスロゴ



LCD ディスプレイ



リモコンとリモコン用単4乾電池



保証書

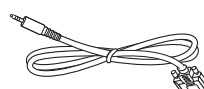


クイックスタートガイド

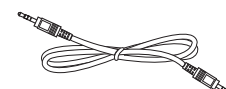
* 付属電源コードは目的地によって異なります。



電源ケーブル



RS232 ケーブル



RS232 デイジーチェーンケーブル



IRセンサーケーブル



HDMI ケーブル



フィリップスロゴ

* 項目は地域によって異なる場合があります

* ディスプレイのデザインおよび付属品は、表示されている画像と異なる場合があります。

注記：

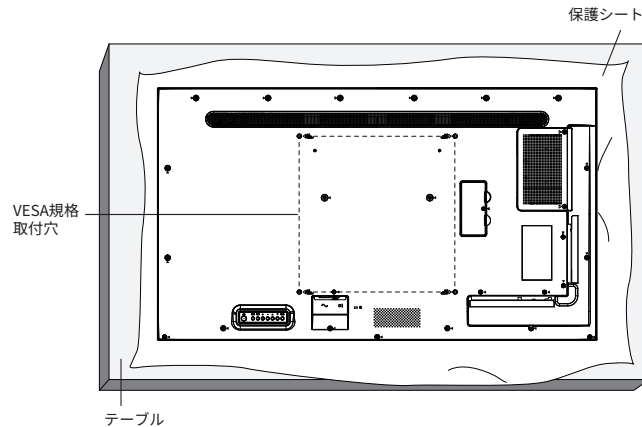
- 他の地域の場合は、その地域のコンセントの AC 電圧と一致し、その国の安全規定で承認されている適合する電源コードを使用してください。（H05W-F タイプ、2G または 3G、0.75 または 1mm² を使用します）。
- 製品を開梱した後は、梱包材を適切に保管してください。

2.3. 設置に関する注意事項

- 本ディスプレイに付属する電源ケーブルのみを使用してください。延長コードが必要な場合は、代理店にお問い合わせください。
- 本ディスプレイは、倒れる可能性を考慮して、平らな面に設置してください。ディスプレイの背面と壁の間には、適切な換気が保てるようにスペースを確保してください。台所、浴室など、湿気のある場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、内部部品の寿命が短くなる可能性があります。
- 高度が 5000m 以上の場所に本ディスプレイを設置しないでください。こういった場所では、誤動作する可能性があります。

2.4. 壁に取り付ける

壁に本ディスプレイを取り付ける場合は、標準の壁取り付けキット（市販品）が必要です。北米では TUV-GS および / または UL1678 規格に準拠した取り付け用インタ - フェイスを使用してください。



1. ディスプレイよりも大きい平らで水平な面を用意し、その上に厚い保護シートを広げて、画面を傷つけずに操作できるようにしてください。
2. すべてのタイプの取り付け（壁掛け、天上取り付け、テーブルスタンドなど）に対応するアクセサリがあることを確認してください。
3. 壁取り付けキットに同梱の説明書をよくお読みください。取り付け手順を誤ると、機器が損傷したり、ユーザーまたは設置作業者が怪我をする恐れがあります。誤った取り付け方法により生じた損傷は、製品保証の対象外となります。
4. 壁取り付けキットには、M6 取り付けねじ（取り付けブラケットの厚さより 10 mm 以上長いもの）を使用し、しっかりと締め付けてください。

2.4.1. VESA 規格取付穴

43BDL4150Q	200(横) x 200(縦) mm
50BDL4150Q	400(横) x 400(縦) mm
55BDL4150Q	400(横) x 400(縦) mm

注意：

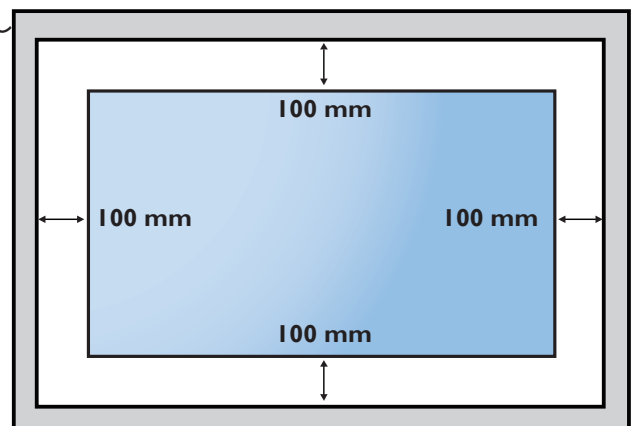
ディスプレイの落下を防止するため：

- 本製品を壁または天井へ設置する場合は、市販の金属製ブラケットを使用して設置することを推奨します。設置に関する詳細な手順については、ブラケットに付属の取扱説明書を参照してください。
- 地震または他の自然災害が発生した場合に本ディスプレイが落下することがないように、取り付ける位置については、ブラケットのメーカーにお問い合わせください。
- 本ディスプレイは背が高く重いので、設置は 4 人の技術者が行うようにしてください。

換気のために必要なスペース

換気のために、上部、背面、左右に 100mm のスペースを空けてください。

注記： ディスプレイを壁に取り付ける場合は、専門技術者にご相談されることを推奨します。取り付けを専門技術者が行っていない場合、ディスプレイに損傷が発生した場合はお客様の責任となります。

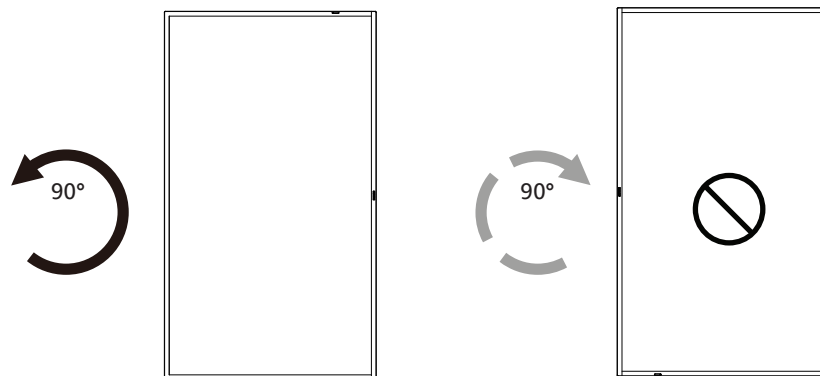


2.5. 縦長向きでの設置

本ディスプレイは縦長方向に設置できます。

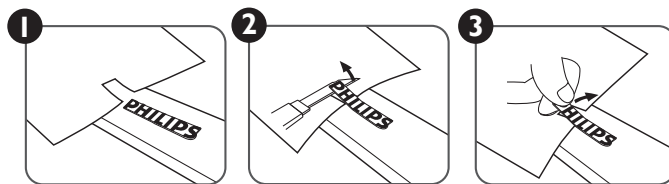
ディスプレイを反時計回りに 90 度回転させます。ディスプレイに向かったとき、「**PHILIPS**」ロゴが右側になるようにしてください。

注意： 縦長モードでの動作時間は 1 日あたり 24 小时です。



2.5.1. ロゴプレートの取り外し方法

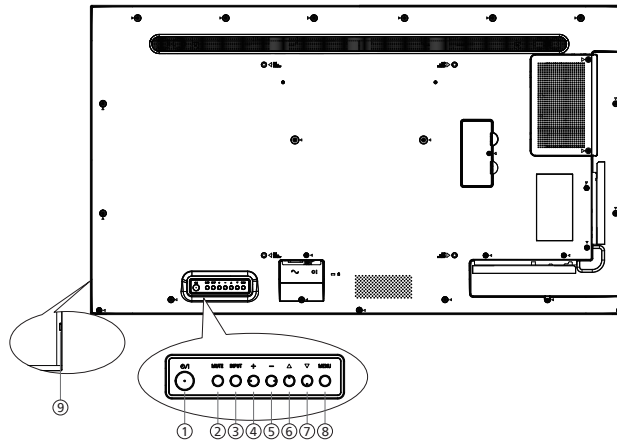
1. フロントベゼルに傷が付くのを防ぐため、ロゴの切り抜き部分を保護材として使用できる紙を用意してください。
2. ナイフを使用し、下に紙を敷いた状態でロゴステッカーを慎重に取り外してください。
3. ロゴステッカーをはがします。



注意： ディスプレイを壁に取り付ける際は、専門技術者に依頼することをお勧めします。専門技術者による設置が行われなかった場合の製品の損傷について、当社は一切責任を負いません。

3. 各部の名称と機能

3.1. コントロールパネル



① [⏻] ボタン

このボタンを押すと、ディスプレイの電源をオンにするか、スタンバイモードにします。

② [ミュート] ボタン

このボタンを押して、サウンドをミュートまたはミュート解除してください。

③ [入力] ボタン

入力ソースを選択してください。

④ [+] ボタン

OSD メニューがオンの場合は調整値を上げ、OSD メニューがオフの場合はオーディオ出力レベルを上げてください。

⑤ [-] ボタン

OSD メニューがオンの場合は調整値を下げ、OSD メニューがオフの場合はオーディオ出力レベルを下げてください。

⑥ [▲] ボタン

OSD メニューがオンの場合、選択した項目を 1 つ上の階層に移動してください。

⑦ [▼] ボタン

OSD メニューがオンの場合、選択した項目を 1 つ下の階層に移動してください。

⑧ [MENU] ボタン

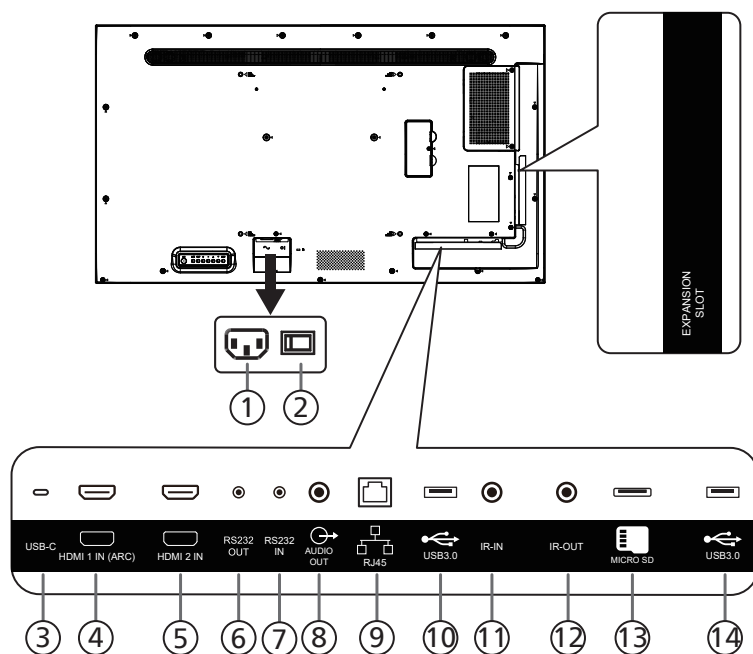
OSD メニューがオンの場合、前のメニューに戻ります。このボタンは、OSD メニューがオフのときに OSD メニューを起動するためにも使用できます。

⑨ リモコンセンサーおよび電源状態インジケータ

- リモコンからのコマンド信号を受信します。
- ディスプレイの動作状態を示します：
 - ディスプレイがオンになると緑色に点灯します
 - ディスプレイがスタンバイモードのときは赤色に点灯します
 - ランプが赤色に点滅する場合、障害が検出されたことを示します
 - ディスプレイの主電源がオフになると、ライトもオフになります。

* リモコンの性能を向上させるために、IR センサーケーブル（オプション）を使用してください。

3.2. 入力 / 出力端子



① AC 入力

壁面コンセントからの AC 電源入力です。

② 主電源スイッチ

主電源をオンとオフに切り替えます。

③ USB-C

ディスプレイ機能およびタッチ機能をサポートします。

④ HDMI 1 入力 (ARC)

HDMI ケーブルを使用してソースデバイスに接続します。

⑤ HDMI 2 入力

HDMI ケーブルを使用してソースデバイスに接続します。

⑥ RS232 出力 / ⑦ RS232 入力

ループスルー機能用の RS232 ネットワーク出力 / 入力です。

⑧ オーディオ出力

外部 AV デバイス用のオーディオ出力です。

⑨ RJ-45 入力

LAN 制御機能は、コントロールセンターからリモコン信号を送信するために使用されます。

⑩ USB 3.0

USB ストレージデバイスに接続します。

⑪ IR 入力 / ⑫ IR 出力

ループスルー機能用の IR 信号の入力 / 出力です。

注記：

- ジャック [IR 入力] が接続されている場合、本ディスプレイのリモコンセンサーは動作しなくなります。
- 本ディスプレイを介して A/V デバイスをリモート制御するには、「IR パススルー接続」を参照してください。

⑬ microSD

microSD カードを挿入します。

⑭ USB 3.0

USB ストレージデバイスに接続する

3.3. リモコンへの電池の取り付け

リモコンは、単 4 形 1.5V 電池 2 本で動作します。

電池を取り付ける、または交換するには：

1. カバーを押してからスライドさせて開きます。
2. 正しい極性 (+) と (-) で電池を挿入します。
3. カバーを元に戻します。

注意：

電池の誤った使用は、液漏れや破裂を引き起こす可能性があります。必ず以下の指示に従ってください：

- 「単 4 形」電池を正しい極性 (+ と -) で挿入してください。
- 異なる種類の電池を混ぜて使用しないでください。
- 新しい電池と使用済みの電池を一緒に使用しないでください。漏液の原因となったり、電池の寿命が短くなったりするおそれがあります。
- 電池ボックス内での電池の液漏れを防ぐため、使い切った電池は直に取り出してください。皮膚に損傷を与えるおそれがあるため、漏れた電池の液には触れないでください。
- 電池を火中または高温のオープンに廃棄すること、あるいは機械的に圧碎または切断することは、爆発を引き起こす可能性があります。また、電池を極めて温度の高い周囲環境に放置すると、爆発や可燃性の液体またはガスの漏洩を引き起こす可能性があります。さらに、電池を極めて低い気圧にさらすと、爆発や可燃性の液体またはガスの漏洩を引き起こす可能性があります。

注意：長期間使用しない場合は、電池ボックスから電池を取り出してください。

3.4. リモコンの取り扱い

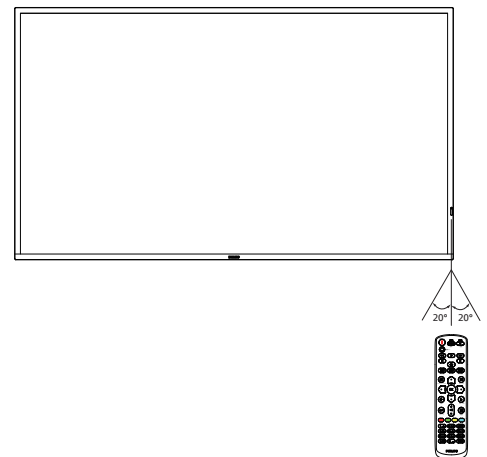
- リモコンを落したり、衝撃を与えたりしないでください。
- リモコンの内部に液体が入らないようにしてください。リモコンに水が入った場合は、直ちに乾いた布でリモコンを拭いてください。
- リモコンを熱源や蒸気の発生源の近くに置かないでください。
- リモコンに電池を入れる場合を除き、リモコンを分解しないでください。

3.5. リモコンの操作範囲

ボタンを押す際は、リモコンの先端をディスプレイのリモートセンサーに向けてください。

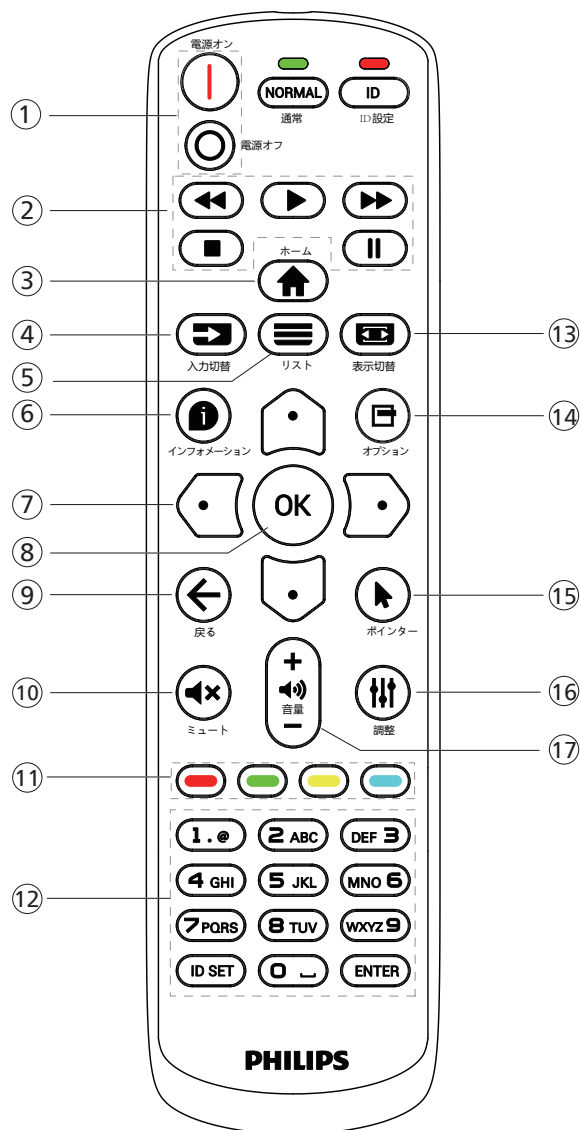
リモコンは、ディスプレイのセンサーから 4m/16ft 以内の距離、かつ水平・垂直 20° 以内の角度で使用してください。

注記：ディスプレイのリモートセンサーが直射日光や強い照明の下にある場合、またはリモコンとディスプレイのリモートセンサーの間に障害物がある場合は、リモコンが正常に動作しないことがあります。



3.6. リモコン

3.6.1. 基本機能



① [I/O] 電源ボタン

[I] 電源をオンにします。
[O] 電源をオフにします。

② [PLAY] ボタン

メディアファイルの再生を制御します（メディア入力のみ）。

フリーズ機能

Pause（一時停止）：すべての入力コンテンツをフリーズさせるホットキーです。

Play（再生）：すべての入力コンテンツのフリーズを解除するホットキーです。

③ [HOME] ホームボタン

ルートメニュー：OSD メニューを開きます。
その他：OSD メニューを終了します。

④ [SOURCE] ソースボタン

ルートメニュー：入力ソースを選択します。

⑤ [≡] リストボタン

予約済み。

⑥ [i] 情報ボタン

インフォメーション OSD を表示します。

⑦ ナビゲーションボタン

[△]

ルートメニュー：スマートピクチャーの OSD に移動します。
メインメニュー：選択した項目を上に移動して調整します。
IR デイジーチェーンメニュー：制御対象のグループ ID 番号を増加させます。

[▽]

ルートメニュー：オーディオソースの OSD に移動します。
メインメニュー：選択した項目を下に移動して調整を行います。
IR デイジーチェーンメニュー：制御されるグループ ID 番号を減らします。

[◀]

メインメニュー：前のレベルのメニューに戻ります。
ソースメニュー：ソースメニューを終了します。
音量メニュー：音量を下げます。

[▶]

メインメニュー：次のレベルのメニューに進むか、選択したオプションを設定します。
ソースメニュー：選択したソースに切り替えます。
音量メニュー：音量を上げます。

⑧ [OK] ボタン

ルートメニュー：プライマリ / セカンダリモードで IR デイジーチェーンの OSD に移動します。
メインメニュー：入力または選択を確定します。

⑨ [←] 戻るボタン

前のページに戻るか、前の機能を終了します。

⑩ [M] ミュートボタン

音声をミュートにするか、ミュートを解除します。

⑪ [R][G][Y][B] 色 (彩度) ボタン

[B] バックライトをオンおよびオフにするホットキー。

⑫ [数字 / ID SET/ENTER] ボタン

ネットワーク設定用のテキストを入力してください。
ディスプレイ ID を設定するには押してください。詳細については、ID リモコンを参照してください。

⑬ [F] FORMAT ボタン

画像のズームモードを選択してください。

⑭ [O] OPTIONS ボタン

予約済み。

⑮ [P] POINTER ボタン

予約済み。

⑯ [A] ADJUST ボタン

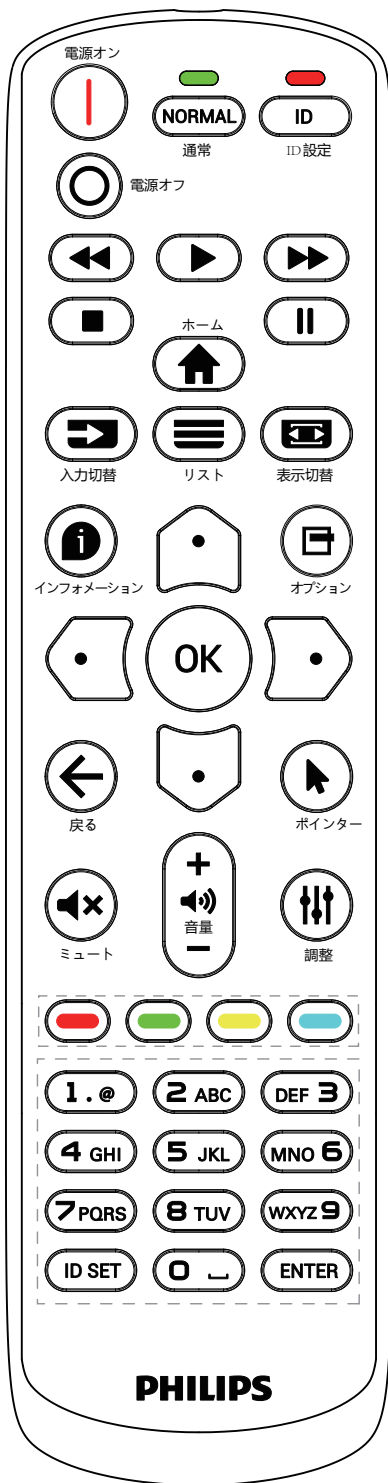
予約済み。

⑰ [−][+] 音量ボタン

音量を調整してください。

3.6.2. ID リモコン

複数のディスプレイを使用する場合は、リモコンの ID 番号を設定してください。



[ID] ボタンを押すと、赤色 LED が 2 回点滅します。

1. [ID SET] ボタンを 1 秒以上押すと、ID モードに入ります。
赤色 LED が点灯します。
[ID SET] ボタンをもう一度押すと、ID モードを終了します。
赤色 LED が消灯します。

数字ボタン [0] ~ [9] を押して、制御するディスプレイを選択してください。

例：ディスプレイ No.1 の場合は [0] と [1] を押し、ディスプレイ No.11 の場合は [1] と [1] を押します。

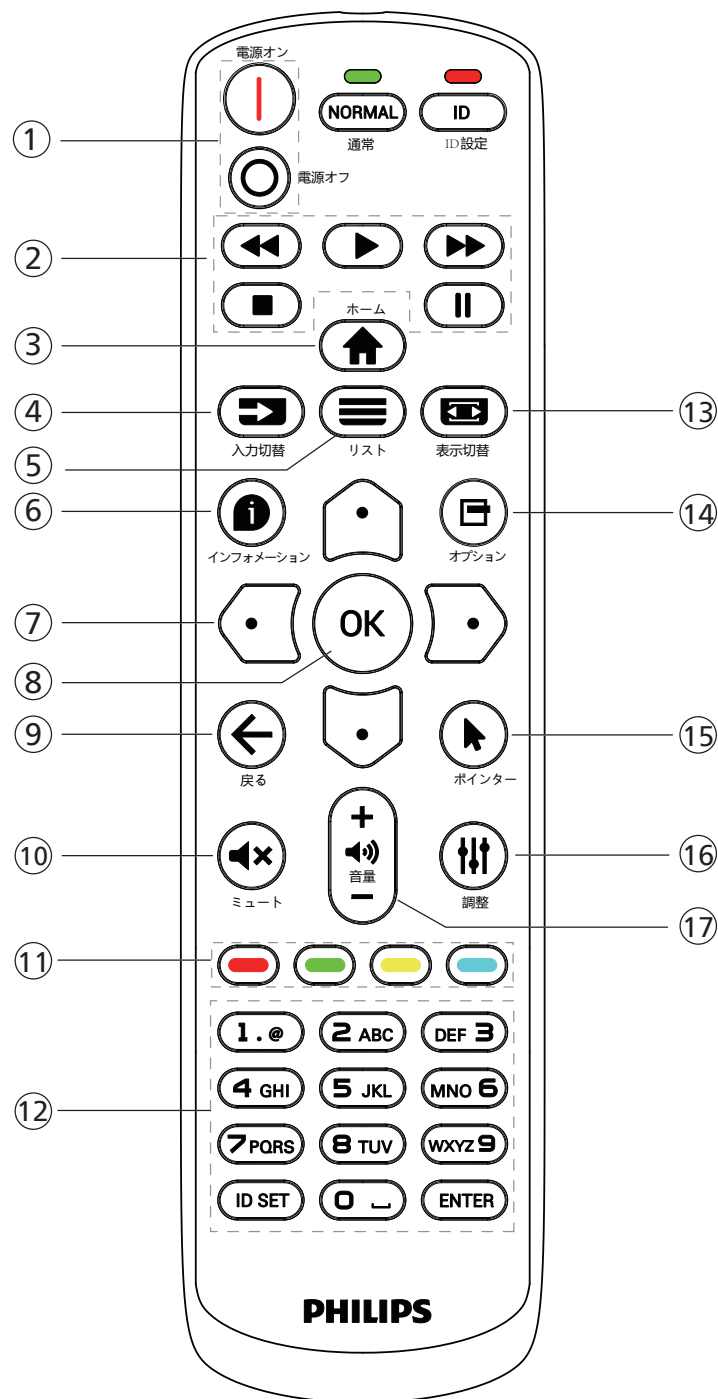
使用可能な番号は [01] ~ [255] です。

2. 10 秒以内にボタンが押されない場合、ID モードを終了します。
3. 誤ったボタンを押した場合は、赤色 LED が消灯して再び点灯するまで 1 秒間待ち、その後正しい数字を押してください。
4. [ENTER] ボタンを押して選択を確定します。赤色 LED が 2 回点滅した後、消灯します。

注意：

- [NORMAL] ボタンを押します。緑色 LED が 2 回点滅し、ディスプレイが通常動作中であることを示します。
- 各ディスプレイの ID 番号を選択する前に、その ID 番号を設定する必要があります。

3.6.3. Android ソースでのリモコンボタン



① [I/O] 電源ボタン

- [I] 電源をオンにします。
- [O] 電源をオフにします。

② [PLAY] ボタン

- メディアファイルの再生を制御します（メディア入力のみ）。
- [▶] メディアファイルを直接再生します。
- [||] 再生を一時停止します。
- [■] メディアファイルの再生を停止します。

[■] ボタンで再生を停止した後、再度 [▶] を押すと、ファイルの先頭から再生が開始されます。

③ [HOME] ホームボタン

OSD メニューにアクセスします。

④ [→] ソースボタン

入力ソースを選択します。

⑤ [=] リストボタン

1. Web ページのコンテンツ内で、次のクリック可能な項目へ上方向にフォーカスを移動します。
2. ボタンなどの次のコントロールまたはウィジェットへ上方向にフォーカスを移動します。

⑥ [i] 情報ボタン

現在の入力信号に関する情報を表示します。

1. メディアプレーヤー -> 作成 -> 再生一覧の編集または新規追加 -> メディアファイルを選択 -> [i] を押して、選択したメディアファイルの情報を表示します。

⑦ [△][▽][◀][▶] ナビゲーションボタン

1. メニュー内を移動し、項目を選択します。
2. Web ページのコンテンツ内では、これらのボタンは画面メニューのスクロールバーを操作するために使用します。[△] または [▽] を押すと、垂直スクロールバーを上下に移動します。[◀] または [▶] を押すと、水平スクロールバーを左右に移動します。

⑧ [OK] ボタン

入力または選択を確定します。

⑨ [←] 戻るボタン

前のページに戻るか、前の機能を終了します。

⑩ [M] ミュートボタン

押してミュート機能をオン / オフに切り替えます。

⑪ [●][■][■][■] 色 (彩度) ボタン

予約済み。

⑫ [番号 / ID SET/ENTER] ボタン

1. Android ソースでは、ID SET および ENTER の機能は使用できません。
2. PDF ファイルの場合、数字ボタンを押してページ番号を入力し、[OK] ボタンを押して指定したページへジャンプします。

⑬ [FORMAT] ボタン

画像形式を変更します。

⑭ [OPTIONS] ボタン

メディアプレーヤーおよび PDF プレーヤーでツールボックスを開きます。

1. メディアプレーヤーまたは PDF プレーヤー -> 構成 -> 再生一覧の編集または新規追加 -> [OPTIONS] を押してツールボックスを開きます。ツールボックスは画面メニューの左側からスライド表示されます。

⑮ [POINTER] ボタン

ポインターモードの開始または終了を行います。

ユーザーがリモコンの POINTER キーを押すと、システムはポインターモードに移行します。このモードでは、マウス操作をシミュレートするために以下の動作が変更されます：

- ポインターモードの動作：

リモコンキー	機能
上	マウスカーソルを上に移動します
下	マウスカーソルを下に移動します
左	マウスカーソルを左に移動します
右	マウスカーソルを右に移動します
OK	マウスの左クリックをシミュレートします
リスト	マウスホイールの上方向スクロールをシミュレートします
調整	マウスホイールの下方向スクロールをシミュレートします

これにより、リモコンの方向キーおよびファンクションキーを使用して、マウスを直感的に操作できます。

- ポインターモードの終了：

POINTER キーをもう一度押すと、ポインターモードが終了します。

終了後、すべてのキーは元のリモコンの動作に戻ります。

注意：

ポインターモードは、システムの再起動後または入力ソースの切り替え時に自動的に無効になります。

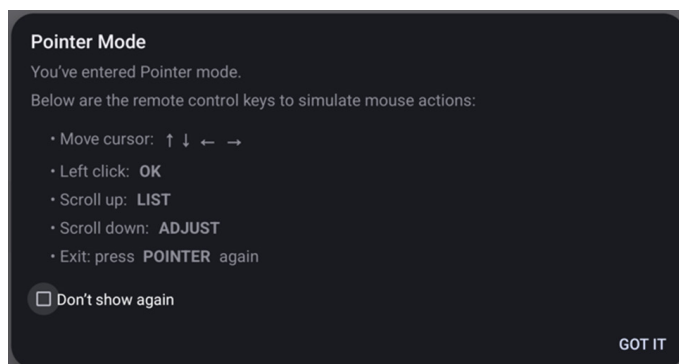
モードを再度有効にするには、POINTER ボタンをもう一度押す必要があります。

- ポインターモードのポップアップダイアログ

ユーザーがポインターモードに入ると、画面の中央にポップアップダイアログが表示されます。このダイアログには、リモコンのキーを使用してマウスのアクションをシミュレートする方法に関するクイックガイドが表示されます。

左下隅にある「次回から表示しない」チェックボックスが選択されていない場合、ユーザーがポインターモードに入るたびにポップアップが表示されます。

「了解」を押すか、ポインターモードを終了すると、ダイアログは自動的に閉じます。



⑩ [卐] ADJUST ボタン

1. Web ページのコンテンツ内で、次のクリック可能な項目へフォーカスを下に移動します。
2. ボタンなどの次のコントロールまたはウィジェットへフォーカスを下に移動します。

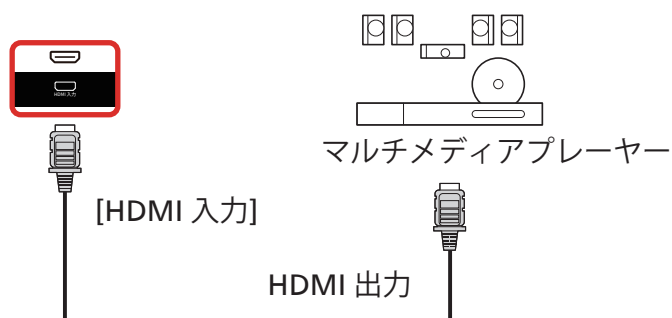
⑪ [-] [+] 音量ボタン

音量を調整してください。

4. 外部機器の接続

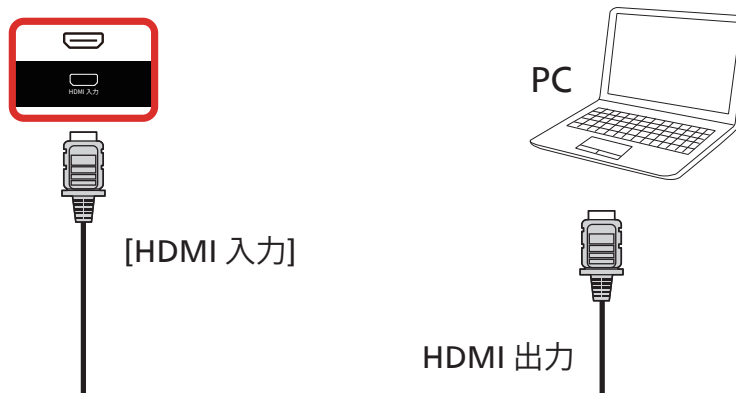
4.1. 外部機器の接続（マルチメディアプレーヤー）

4.1.1. HDMI ビデオ入力を使用する



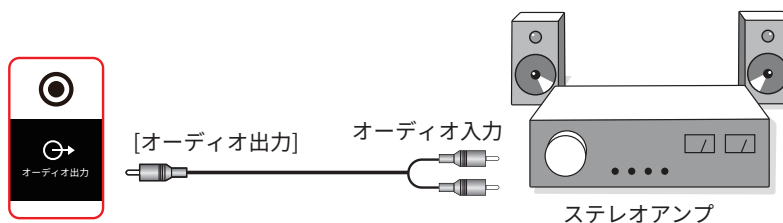
4.2. PC の接続

4.2.1. HDMI 入力を使用する

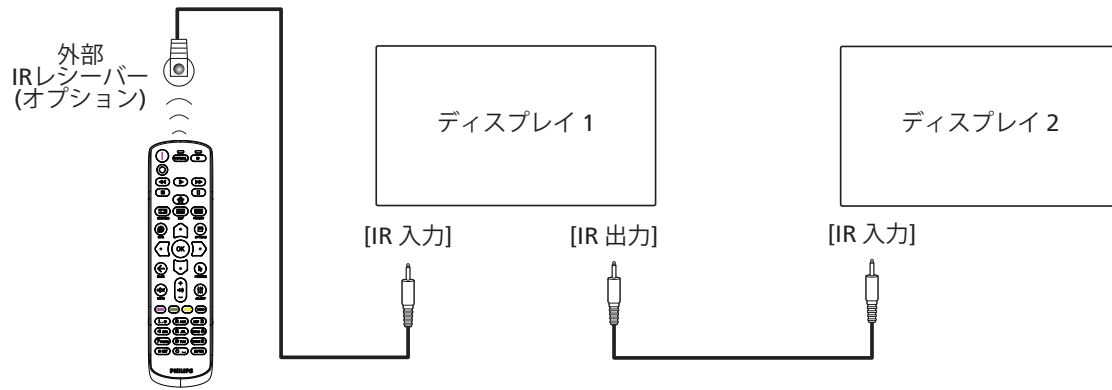


4.3. オーディオ機器の接続

4.3.1. 外部オーディオデバイスの接続



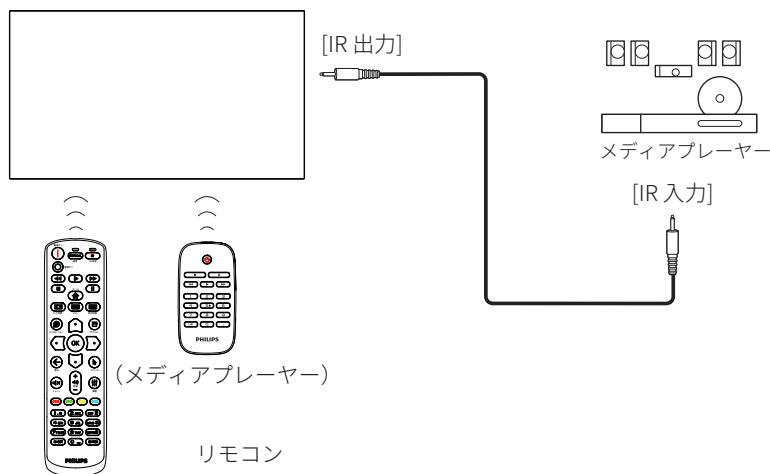
4.4. IR 接続



注意：

1. [IR 入力] が接続されている場合、本ディスプレイのリモコンセンサーは動作しなくなります。
2. IR ループスルー接続は、最大 9 台のディスプレイをサポートできます。

4.5. IR パススルー接続



5. 操作

注意：特に指定がない限り、本項で説明する操作ボタンは主にリモコン上のものです。

5.1. 接続した映像ソースを視聴する

1. [] SOURCE ボタンを押します。
2. [] ボタンまたは [] ボタンを押してデバイスを選択し、次に [OK] ボタンを押してください。

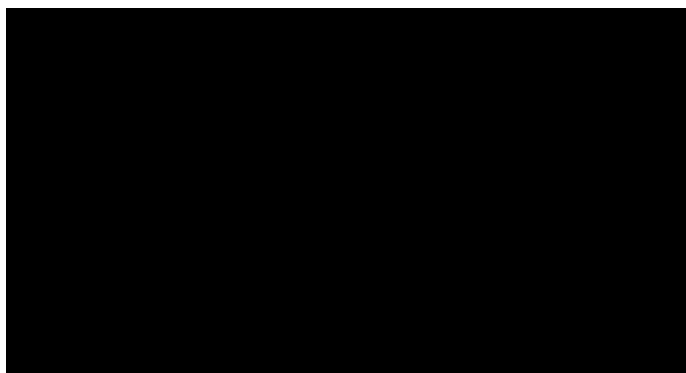
5.2. 画像フォーマットの変更

映像ソースに合わせて画像フォーマットを変更できます。各映像ソースには、それぞれ使用可能な画像フォーマットがあります。使用可能な画像フォーマットは映像ソースによって異なります：

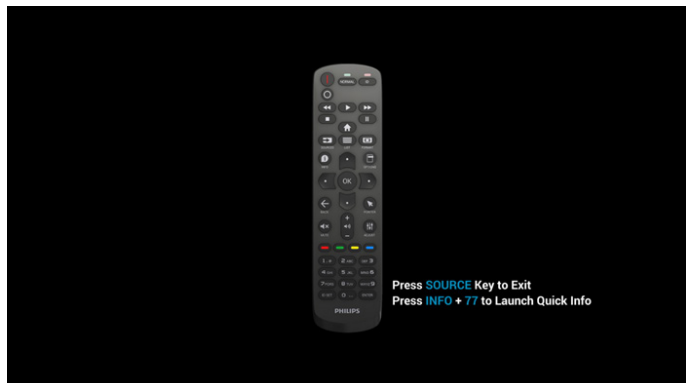
1. [] FORMAT ボタンを押して、画像フォーマットを選択してください。
 - PC モード：{ フル } / { 4:3 } / { 1:1 } / { 16:9 } / { 21:9 }。
 - ビデオモード：{ フル } / { 4:3 } / { 1:1 } / { 16:9 } / { 21:9 }。

5.3. 概要

1. Android PD ランチャー：
 - Android PD ランチャーは、下図のような黒のページです：



- 「戻る」キーを押してアプリを終了すると、画面メニューは Android PD ランチャーに移行します。
- Android PD ランチャーに戻ると、ヒント画像が画面メニューに 5 ～ 10 秒間表示されます。
- ヒント画像は、ソースキーを押して入力ソースを変更できることを示しています。



2. 管理者モード：

- 「Home + 1888」を押すか、ランチャー内の「More Apps」アイコンをクリックして、管理者モードに入ります。「Home」を押した後にホーム OSD メニューが表示されることを確認し、続けて 1888 を順番に押してください。「Home」キーを 2 回連続で押しても、有効なホットキーとしては機能しません。
- 管理者モードは、以下のアプリで構成されています：「設定」、「アプリ」、「ネットワーク」、「ストレージ」、および「ヘルプ」。
- 管理者モードを終了すると、システムは直前のソースに戻ります。

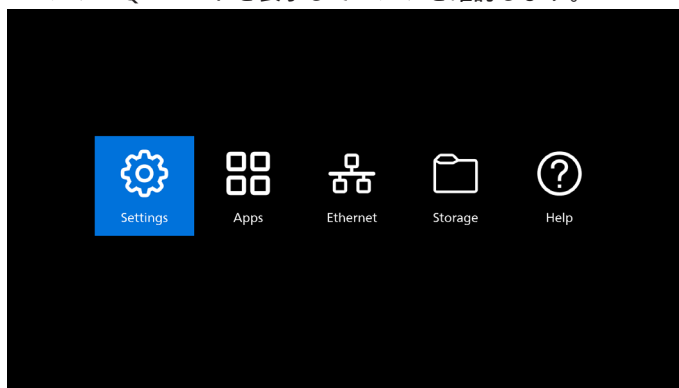
設定：設定ページに移動します。

アプリケーション：すべてのアプリを表示します。

ネットワーク：Wi-Fi、イーサネット、およびモバイルネットワーク（オプション）を設定します。

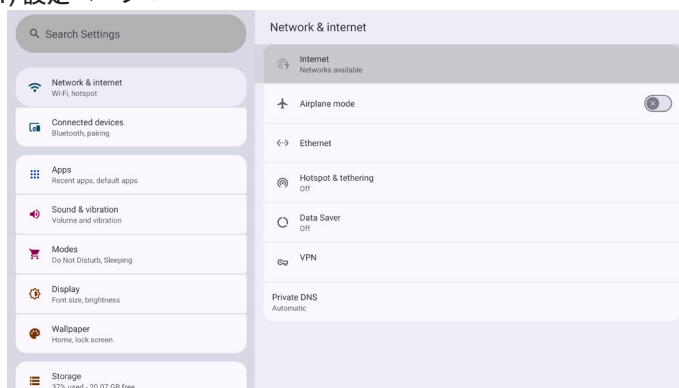
ストレージ：「ストレージ」ページに移動します。

ヘルプ：QR コードを表示してヘルプを確認します。

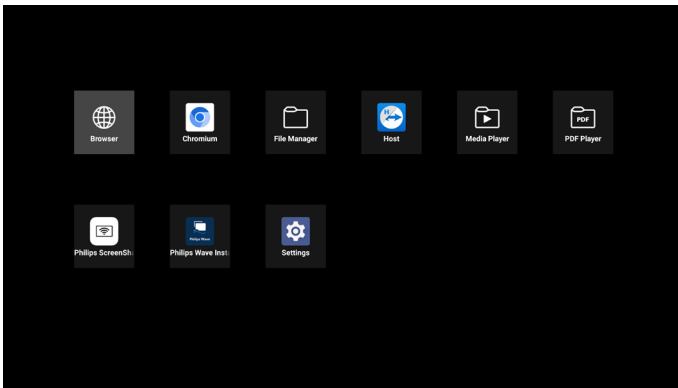


注：内部ストレージの残量が 20MB 未満になった場合、システムの安定性を確保するため、「ストレージ」アプリのみ実行が許可されます。

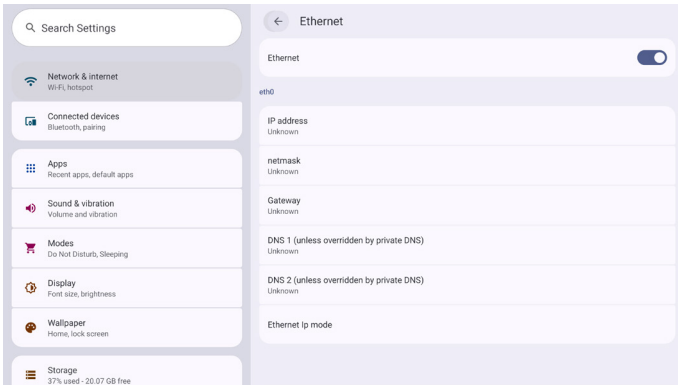
1) 設定ページ：



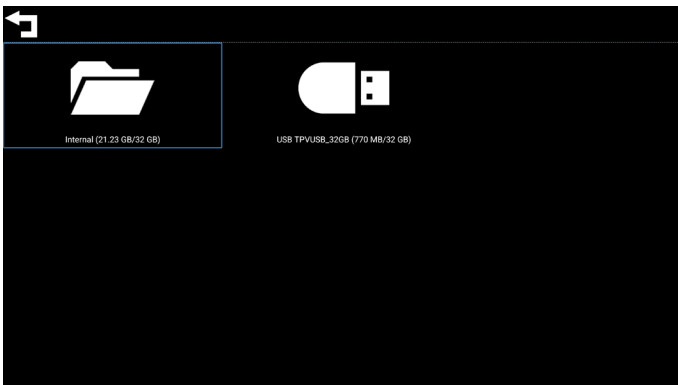
2) アプリケーションページ：



3) イーサネットページ：

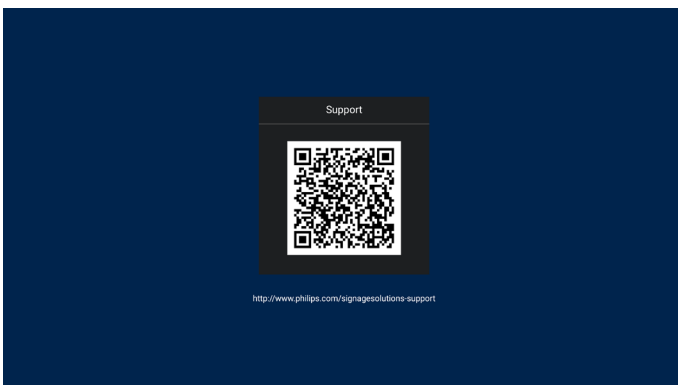


4) ストレージページ



5) ヘルプページ

QR コードを表示して、フィリップスのサポートウェブサイト
にアクセスします。



5.4. メディアプレーヤー

5.4.1. メディアプレーヤーでのOSDメニュー操作：

1. ソース起動：

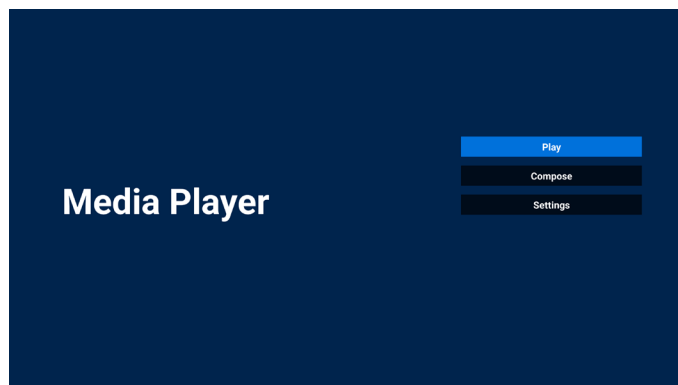
- 入力：
 - ソースとしてメディアプレーヤーを選択した場合、起動処理が完了すると、システムは自動的にメディアプレーヤーに移行します。
- 再生一覧：
 - 再生一覧 0：メディアプレーヤーのメインページに移動します。
 - 再生一覧 1～再生一覧 7：メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1～ファイル 7 を自動的に再生します。
 - 再生一覧 8：メディアプレーヤーに移動し、USB ファイルを自動的に再生します。

2. スケジュール：

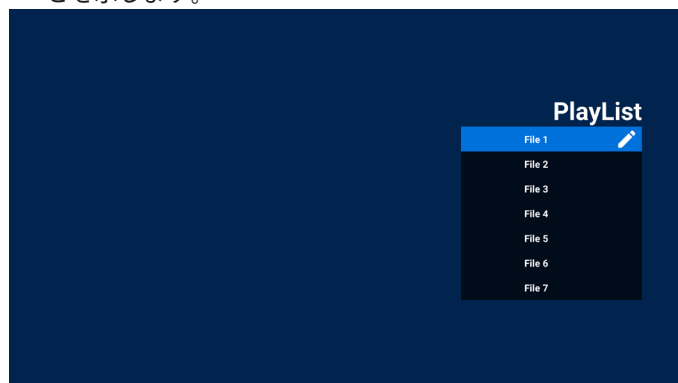
- 今日：
 - 日時を表示します。
- 1 - 7:
 - 最大 7 つのスケジュールを設定できます。
- オン／オフ：
 - 開始時間と終了時間を設定します。
- 入力：
 - ソースとしてメディアプレーヤーを選択すると、終了時間に PD がメディアプレーヤーを自動的に起動します。
- 月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日、毎週：
 - ライフサイクルを設定します。
- 再生一覧：
 - 0：メディアプレーヤーのメインページに移動します。
 - 1～7：メディアプレーヤーに移動し、再生一覧の File1～File7 を自動的に再生します。

5.4.2. メディアプレーヤーの概要：

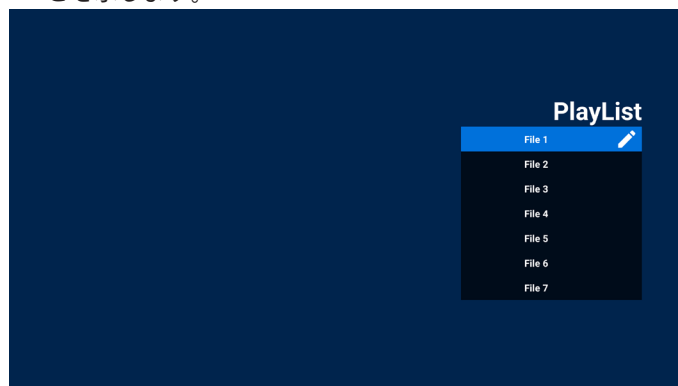
1. メディアプレーヤーのメインページです。このページは「Play」、「Compose」、「Settings」の 3 つのオプションで構成されています。
 Play：再生する再生一覧を選択します。
 Compose：再生一覧を編集します。
 Settings：メディアプレーヤーのプロパティを設定します。



2. メインページで「Play」を選択した場合、まず FILE 1～FILE 7の中から再生する再生一覧を 1つ選択してください。鉛筆アイコンは、再生一覧にコンテンツが含まれていることを示します。



3. メインページで「Compose」を選択し、まず FILE 1 から FILE 7の中から編集する再生一覧を 1つ選択してください。鉛筆アイコンは、再生一覧にコンテンツが含まれていることを示します。

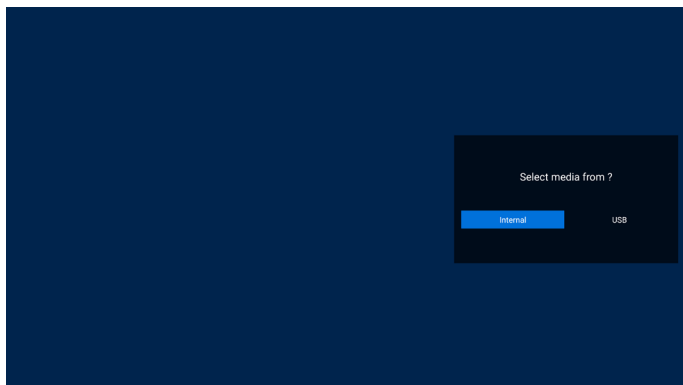


4. 空の再生一覧を選択すると、アプリがメディアソースの選択をご案内します。

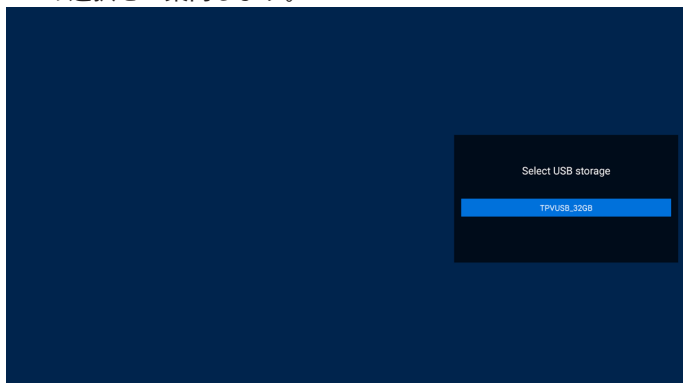
すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの / philips/ に保存してください。

例：

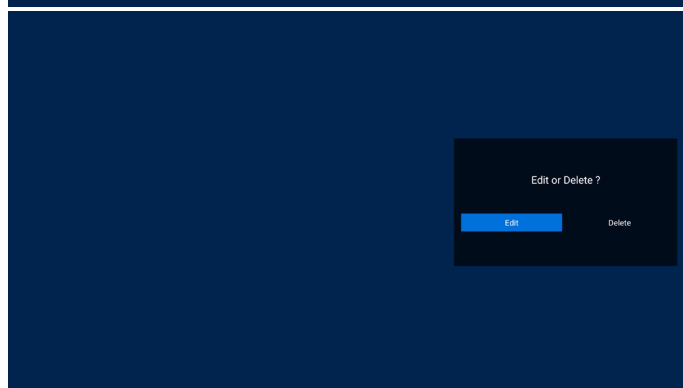
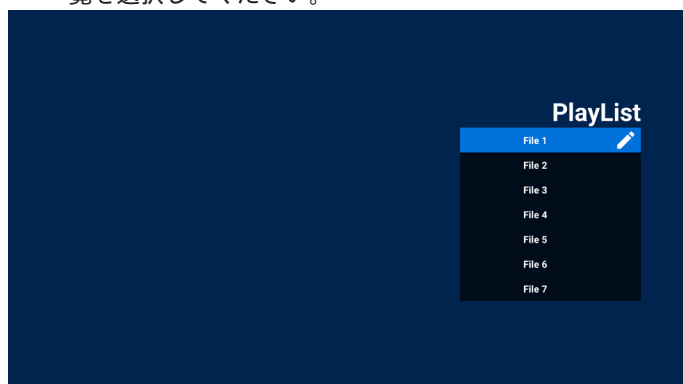
動画：{root dir of storage}/philips/video/
 写真：{root dir of storage}/philips/photo/
 音楽：{root dir of storage}/philips/music/



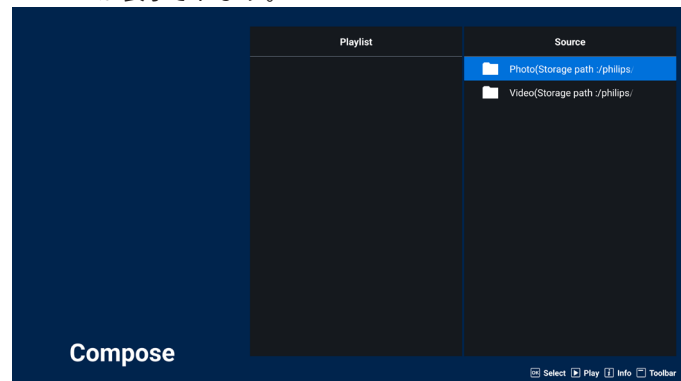
5. 「USB」ストレージを選択すると、アプリがUSB デバイスの選択をご案内します。



6. 空でない再生一覧を編集または削除するには、選択したファイルの右側に鉛筆アイコンが表示されている目的の再生一覧を選択してください。

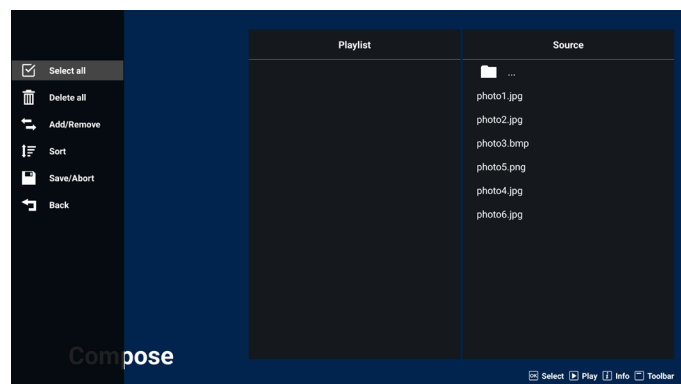


7. 再生一覧の編集を開始すると、以下の画面メニューが表示されます。
 ソース - ストレージ内のファイル。
 再生一覧 - 再生一覧内のファイル。
 オプション - サイドメニューバーを起動します。
 再生キー - メディアファイルを再生します。
 情報キー - メディア情報を表示します。
 注：
 ソース内のいずれかのディレクトリを長押しすると、フルパスが表示されます。

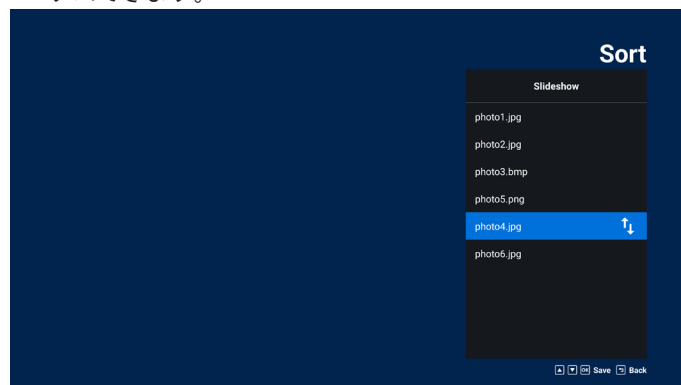


7-1 サイドメニューバーから、以下の機能が利用可能です。

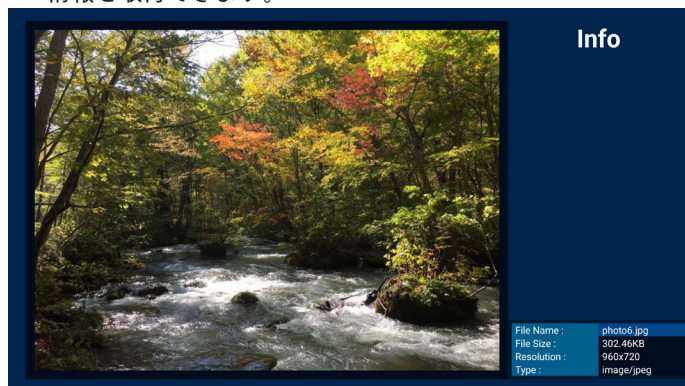
- すべてを選択：すべてのストレージファイルを選択します。
- すべて削除：すべての再生一覧ファイルを削除します。
- 追加 / 削除：ソースから再生一覧を更新します。
- 並べ替え：再生一覧を並べ替えます。
- 保存 / 中止：再生一覧を保存または中止します。
- 戻る：前のメニューに戻ります。



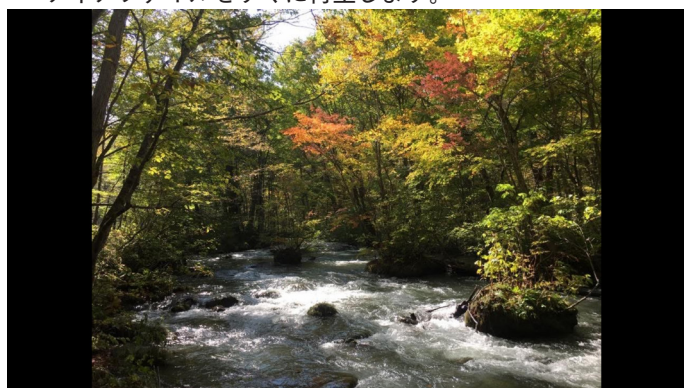
8. 「並べ替え」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタムできます。



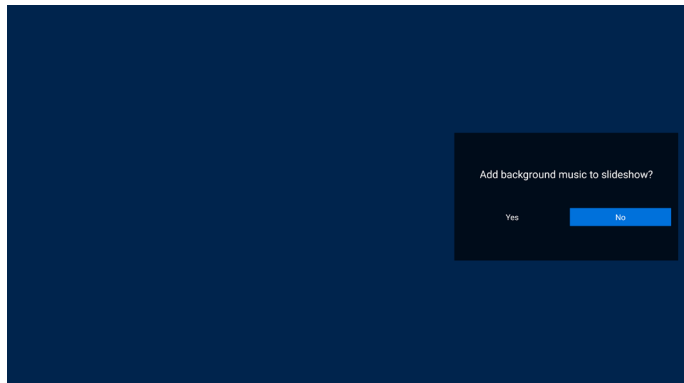
9. 目的のファイルを選択した後、「Info」キーを押すと詳細情報を取得できます。



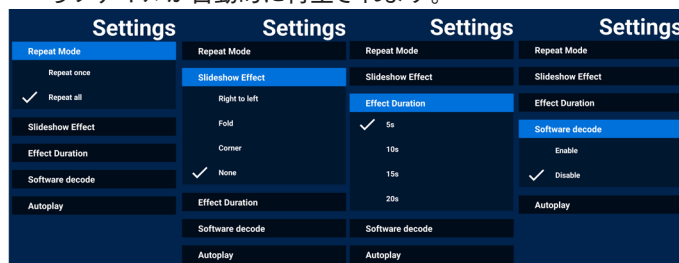
10. 目的のファイルを選択した後、「Play」キーを押すと、メディアファイルをすぐに再生します。



11. すべての画像ファイルで再生一覧を作成した場合、保存前にスライドショーにBGMを追加するかどうかの確認メッセージが表示されます。



12. メインページで「Settings」を選択すると、次の5つのオプションが利用可能です：「Repeat Mode」、「Slideshow Effect」、「Effect Duration」、「Software Decode」、および「USB 自動再生」。
- リピートモード：リピートモードを設定します。
- スライドショー効果：写真のスライドショー効果を設定します。
- 効果時間：写真効果の持続時間を設定します。
- ソフトウェアデコード：動画再生間の黒画面をなくします。
- 自動再生：USB デバイスを接続すると、USB ルートパスからファイルが自動的に再生されます。



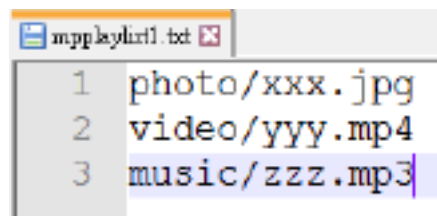
13. メディアプレーヤー インポートテキストファイル

手順 1. メディアプレーヤーのテキストファイルを作成します。

- ファイル名：mpplaylistX.txt、「X」は再生一覧番号（1,2,3,4,5,6,7）を意味します。

例：mpplaylist1.txt、mpplaylist2.txt

- 内容：



注記：再生一覧にビデオファイルと音楽ファイルが含まれている場合、音楽ファイルを再生する際に画面メニューが黒になります。

手順 2. 「mpplaylistX.txt」を内部ストレージの「philips」フォルダーにコピーします。この操作には SFTP を使用できます。

- ファイルパス：/storage/emulated/0/philips (DL、PL 用)
例：/storage/emulated/0/philips/mpplaylist1.txt

手順 3. 内部ストレージ限定で、「philips」フォルダー配下の「photo」、「video」、および「music」フォルダーにメディアファイルを準備します。

- 例：/storage/emulated/0/philips/photo/xxx.jpg
/storage/emulated/0/philips/video/yyy.mp4
/storage/emulated/0/philips/photo/zzz.mp3

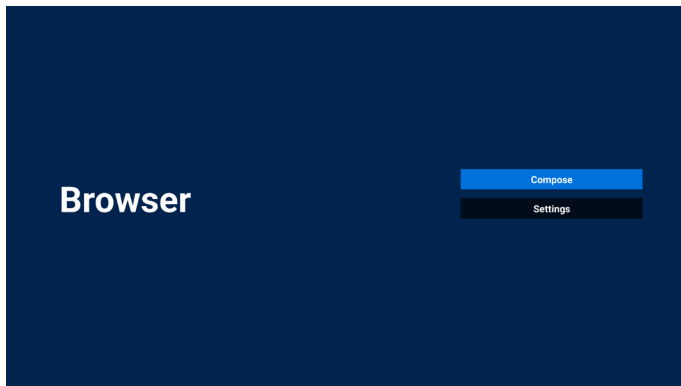
手順 4. メディアプレーヤーアプリを起動すると、メディアプレーヤーのテキストファイルが自動的にインポートされます。

注記：ユーザーが UI で再生一覧を更新した場合、mpplaylistX.txt ファイルも同様に更新されます。

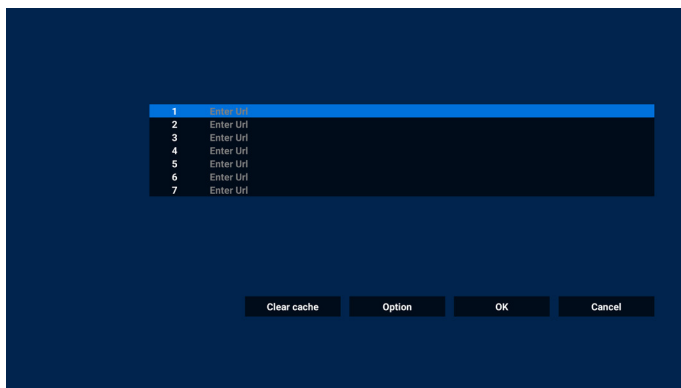
5.5. ブラウザー

この機能を使用する前に、システムがネットワークに正常に接続されていることを確認してください。

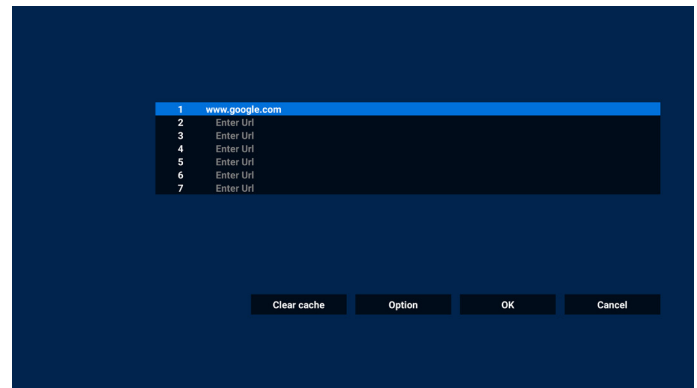
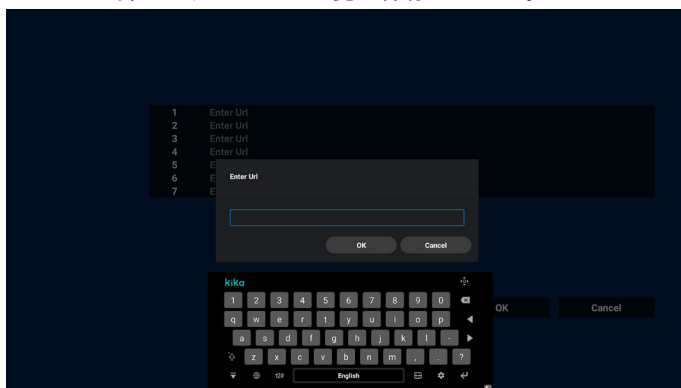
1. 「ブラウザー」アプリのメインページでは、関連する設定を行うことができます。



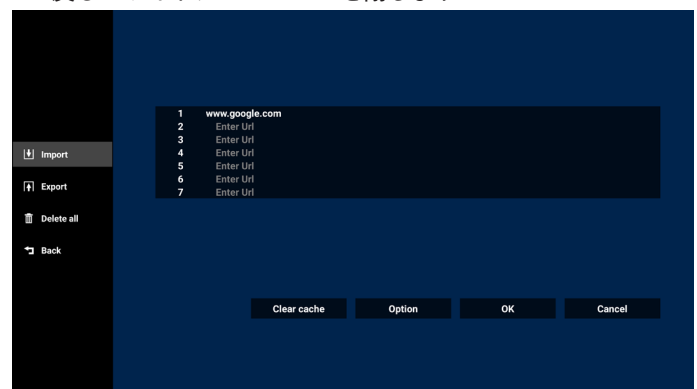
2. 「作成」を押して、次のページに進みます。
ユーザーは 1 ～ 7 から選択できます。
選択を行うと、ダイアログボックスが表示されます。



3. 画面メニューキーボードを使用して URL を入力し、OK タンを押すと、データが一覧に保存されます。

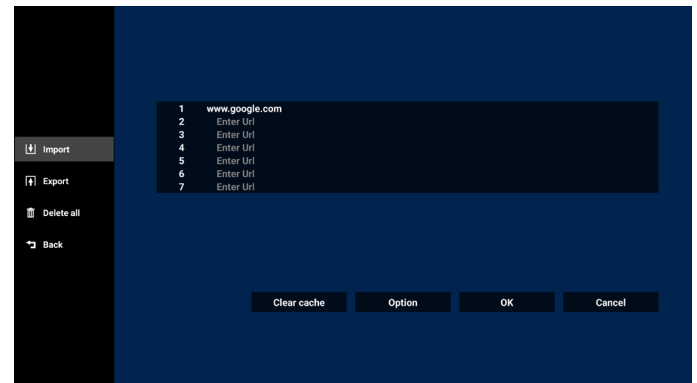


4. 「オプション」を押すと、左側に一覧が表示されます。
インポート：URL 一覧のファイルをインポートします
エクスポート：URL 一覧のファイルをエクスポートします
すべて削除：メイン画面からすべての URL 記録を削除します
戻る：サイドメニューバーを閉じます

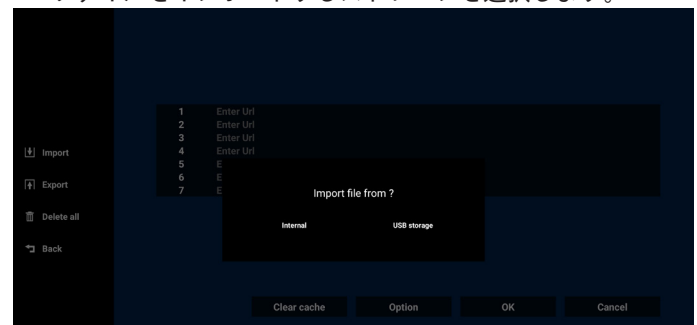


4.1 インポート

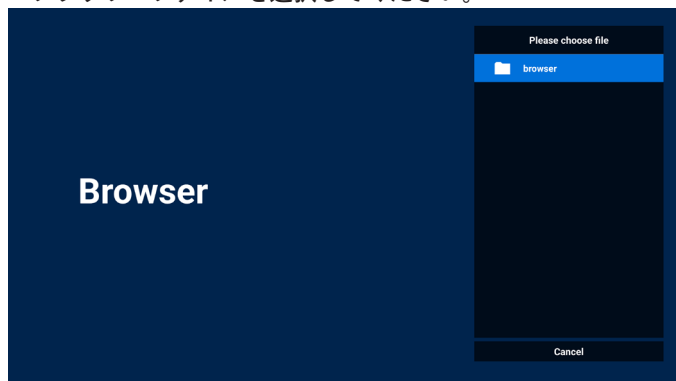
- インポートを選択します。



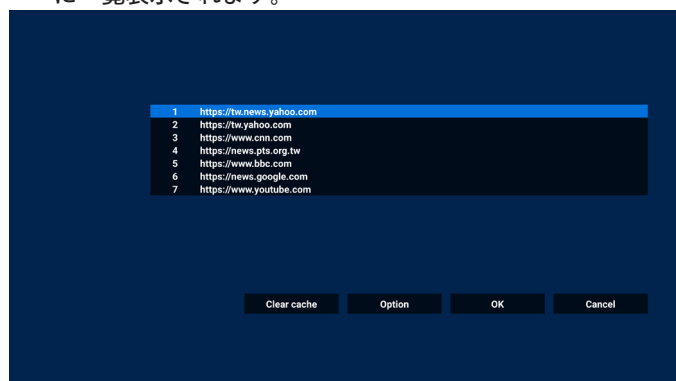
- ファイルをインポートするストレージを選択します。



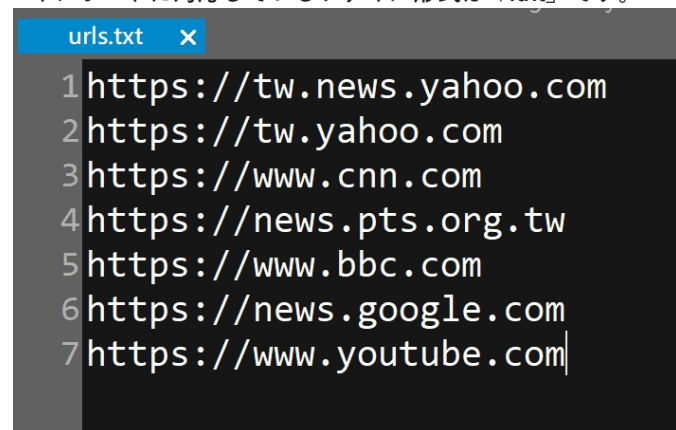
- ブラウザーファイルを選択してください。



- ブラウザーファイルをインポートすると、URL が画面メニューに一覧表示されます。

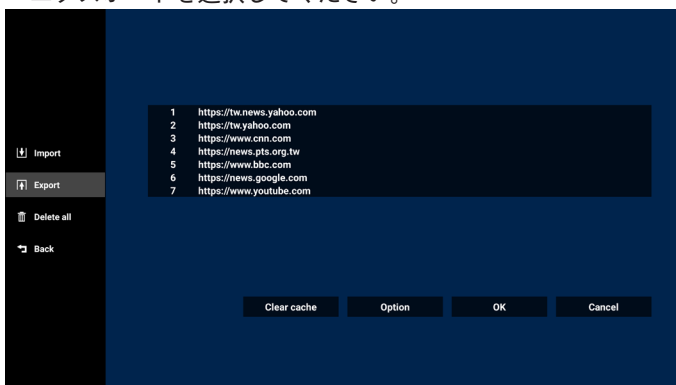


- インポートに対応しているファイル形式は「.txt」です。

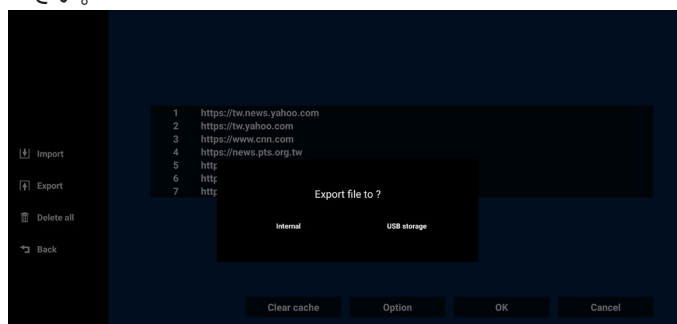


4.2 エクスポート :

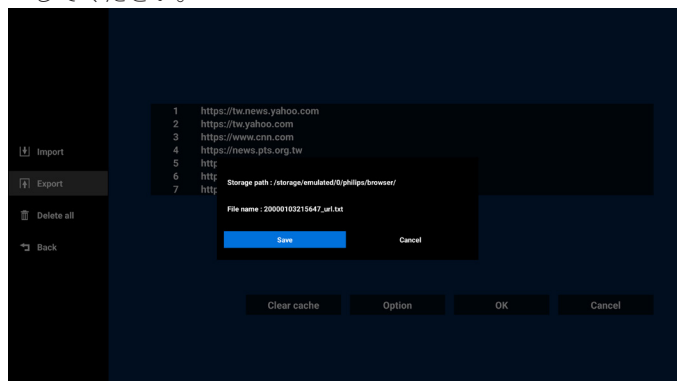
- エクスポートを選択してください。



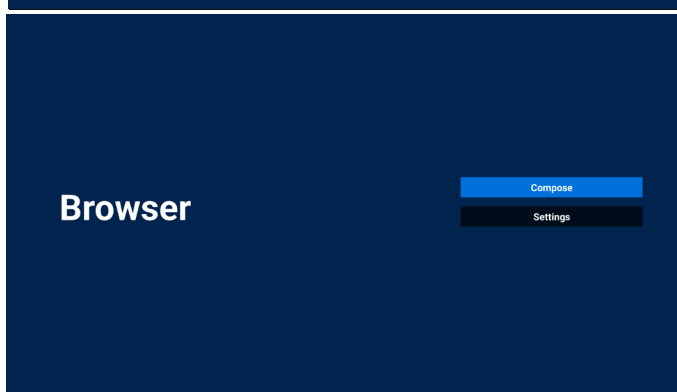
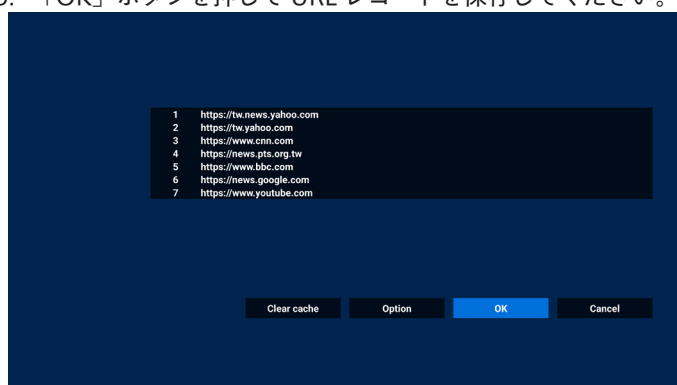
- ファイルのエクスポート先となるストレージを選択してください。



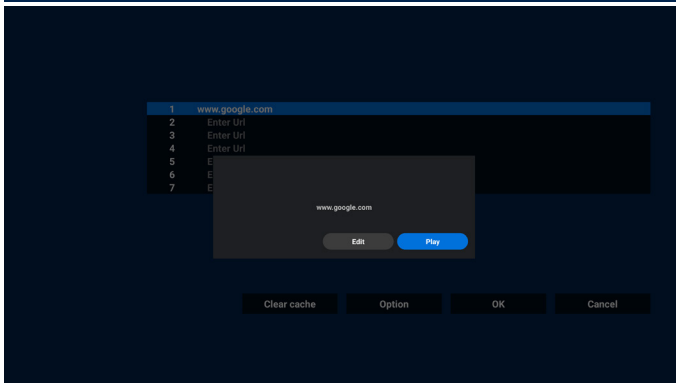
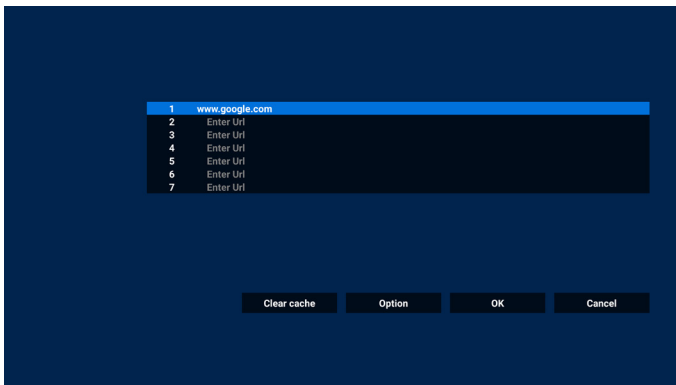
- ダイアログボックスに、保存するファイルのパスおよびファイル名が表示されます。「保存」ボタンを押して URL を保存してください。



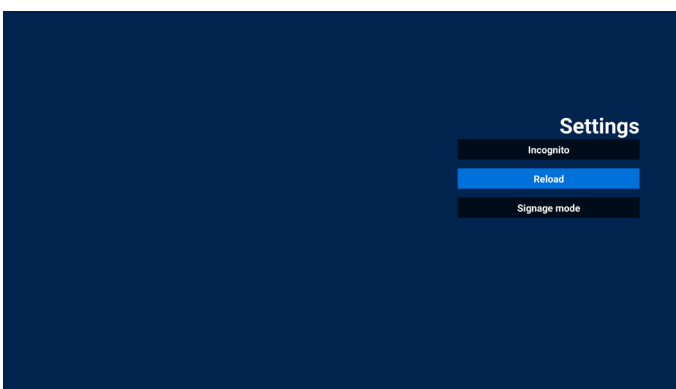
- 5. 「OK」ボタンを押して URL レコードを保存してください。



- 6. URL リストから空でない項目を選択すると、URL を編集するか再生するかを確認するメッセージが表示されます。「編集」を選択すると、ダイアログボックスで URL を編集できます。「再生」を選択すると、選択した URL の Web ページが表示されます。

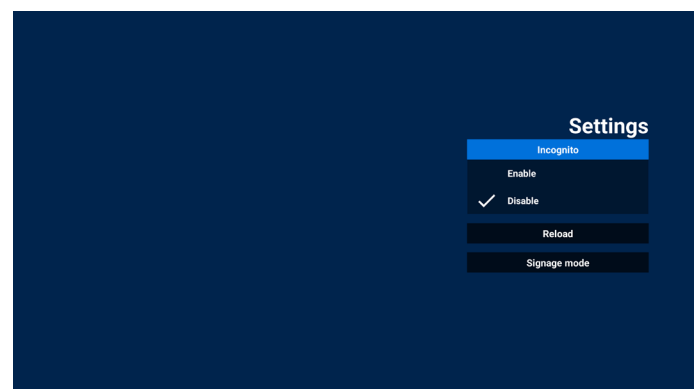


7. 「設定」を押して、次のページへ進んでください。



7.1 シークレットモード

- 有効：シークレットモードを使用して Web ページを表示します。
- 無効：シークレットモードを使用せずに Web ページを表示します。



7.2 リロード

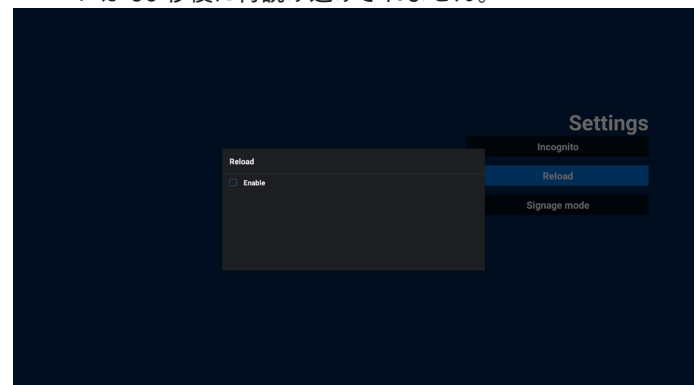
ユーザーが Web ページのリロード時間を設定できるようにします。

- 有効チェックボックスがオフの場合、デフォルトの再読み込み時間は 60 秒です。

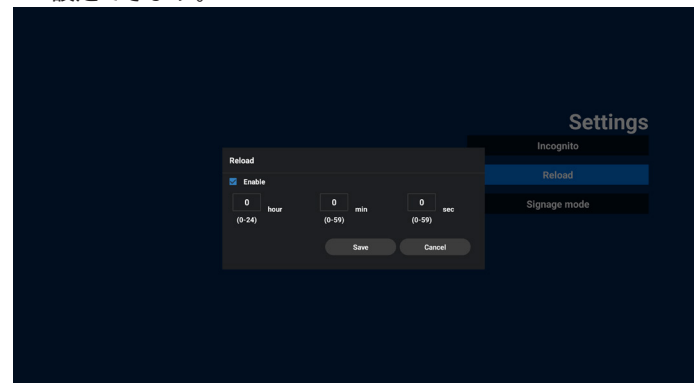
注意：

この場合、ウェブページはネットワークの状態が変化したときにのみ再読み込みされます。

ネットワークの状態が常に接続されている場合、ウェブページは 60 秒後に再読み込みされません。



- 有効チェックボックスがオンの場合、再読み込み時間を設定できます。

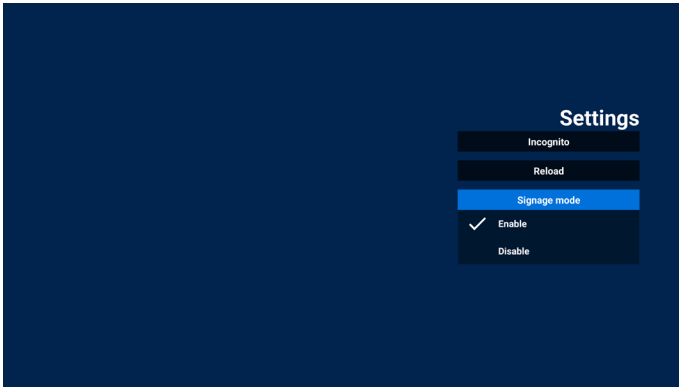


7.3 サイネージモード

ユーザーが別のアプリのアクティビティから戻ったときにブラウザー作成ページに戻る機能を有効にします。ブラウザー画面を最新のウェブページに表示したままにする機能を無効にします。このオプションはデフォルトで有効になっています。

www.google.com を開き、「PDF demo file」を検索します。検索結果の PDF ファイルを 1 つクリックすると、その PDF ファイルがダウンロードされて開かれます。ユーザーが「戻る」ボタンを押すと、このオプションが有効な場

合は画面がブラウザー作成ページに戻ります。無効な場合は、画面が検索結果に戻ります。



8. ブラウザーとの OSD メニュー操作

8.1 ソース起動

- OSD メニュー > 設定 1 > ソース起動 > BROWSER 再生一覧を 0 に設定します。
再起動後、PD はブラウザーを表示します。
- OSD メニュー > 設定 1 > ソース起動 > 入力を BROWSER に、再生一覧を 1 に設定してください。
その後、PD はブラウザーアプリで最初の URL の Web ページを表示します。

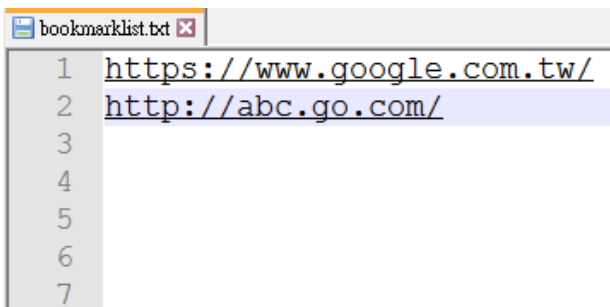
8.2 スケジュール

OSD メニュー > アドバンスドオプションメニュー > スケジュール >
オン時間 1、オフ時間 2、入力としてブラウザー、任意の曜日、および再生一覧を設定してください。
その後、PD は時間 1 にブラウザーアプリで URL の Web ページを表示し、時間 2 に終了します。

9. SFTP 経由で URL リストを編集する方法

ステップ 1. ブラウザーのテキストファイルを作成してください。

- ファイル名 : bookmarklist.txt。
- 内容 :



ステップ 2. bookmarklist.txt を内部ストレージの「philips」フォルダーにコピーしてください。この操作には SFTP を使用できます。

- ファイルパス : /storage/emulated/0/philips (DL、PL 用)

例 : /storage/emulated/0/philips/bookmarklist.txt

ステップ 3. ブラウザーアプリを起動すると、ブラウザーのテキストファイルが自動的にインポートされます。

追記 : ユーザーが UI で再生一覧を更新した場合、bookmarklist.txt ファイルも同様に更新されます。

10. オフラインブラウジング

URL1 にアドレスが設定され、OSD スケジュールを使用して URL1 の Web ページを開く場合、ブラウザーアプリは Url1 のホーム Web ページデータをローカルストレージに自動的に保存します。

OSD スケジューラーがブラウザーアプリを開いている間にネットワークが切断された場合、ブラウザーアプリはローカルストレージから URL 1 アドレスのホームページを自動的に開きます。

注意 :

- ブラウザーアプリは Url 1 アドレスのホームページデータのみ保存でき、Url 2 から Url 7 のデータは保存できません。
- ローカルストレージ : /sdcard/Download/Browser_cache.png。
- 「キャッシュを消去」ボタンを押すと、ローカルストレージから Url 1 アドレスのホームページデータを消去できます。

5.6. PDF プレーヤー

5.6.1. PDF プレーヤーとの OSD メニューの操作：

1. ソース起動：

- 入力：
 - ソースとして「PDF プレーヤー」が選択されている場合、起動プロセスが完了した後に自動的に PDF プレーヤーページに入ります。
- 再生一覧：
 - 再生一覧 0：PDF プレーヤーのメインページに移動します。
 - 再生一覧 1～再生一覧 7：PDF プレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1～ファイル 7 を自動的に再生します。

2. スケジュール：

- 今日：
 - 日時を表示します。
- 1-7：
 - 最大 7 つのスケジュールを設定できます。
- オン／オフ：
 - 開始時間と終了時間を設定します。
- 入力：
 - ソースとして PDF プレーヤーを選択すると、PD は終了時間に PDF プレーヤーを自動的に起動します。
- 月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日、日曜日、毎週：
 - ライフサイクルを設定します。
- 再生一覧：
 - 0：PDF プレーヤーのメインページに移動します。
 - 1～7：メディアプレーヤーに移動し、再生一覧のファイル 1～ファイル 7 を自動的に再生します。

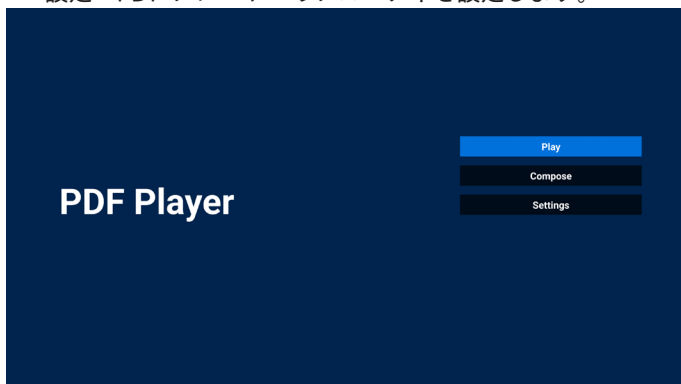
5.6.2. PDF プレーヤーの概要：

1. PDF プレーヤーのメインページです。このページは「Play」、「Compose」、「Settings」の 3 つのオプションで構成されています。

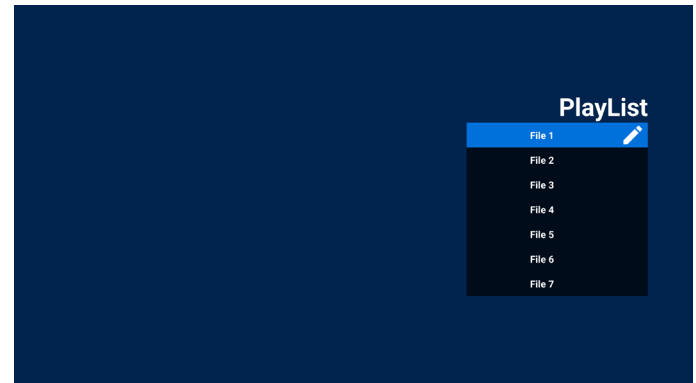
Play：再生する再生一覧を選択します。

作成：再生一覧を編集します。

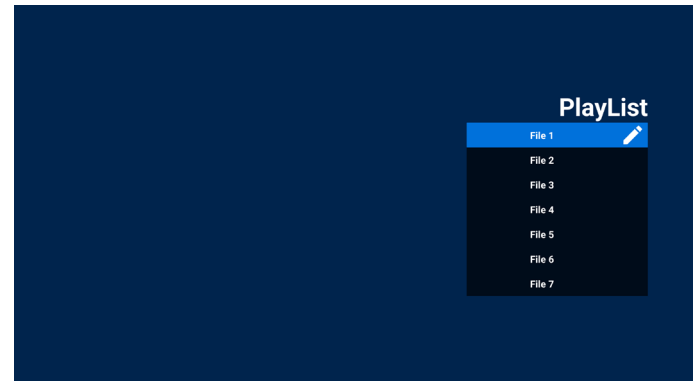
設定：PDF プレーヤーのプロパティを設定します。



2. メインページで「再生」を選択します。まず、FILE 1 から FILE 7の中から再生する再生一覧を 1 つ選択してください。鉛筆アイコンは、再生一覧にコンテンツが含まれていることを示します。



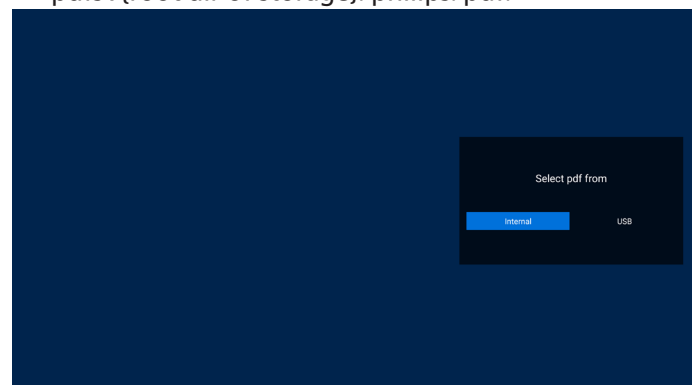
3. メインページで「Compose」を選択し、まず FILE 1 から FILE 7の中から編集する再生一覧を 1 つ選択してください。鉛筆アイコンは、再生一覧にコンテンツが含まれていることを示します。



4. 空の再生一覧を選択すると、アプリがメディアソースの選択をご案内します。

すべてのメディアファイルは、ルートディレクトリの / philips/ に保存してください。例：

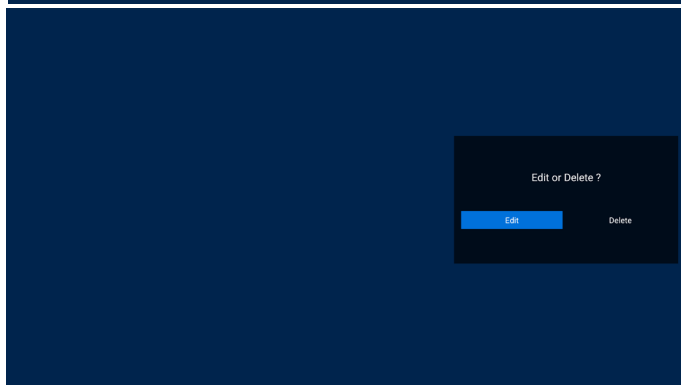
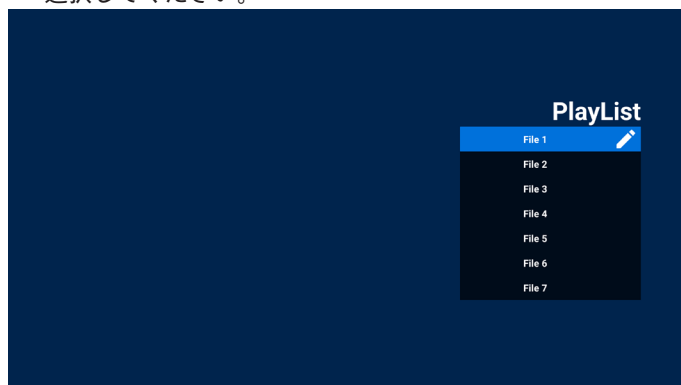
pdfs : {root dir of storage}/philips/pdf/



注意：

- USB メモリが見つからない場合、次のメッセージが表示されます：「USB ストレージを接続してください」。
- 内部ストレージは常に利用可能であるため、次のページに移動できます。

5. 空でない再生一覧を編集または削除するには、ファイル名の右側に鉛筆アイコンが表示されている対象の再生一覧を選択してください。

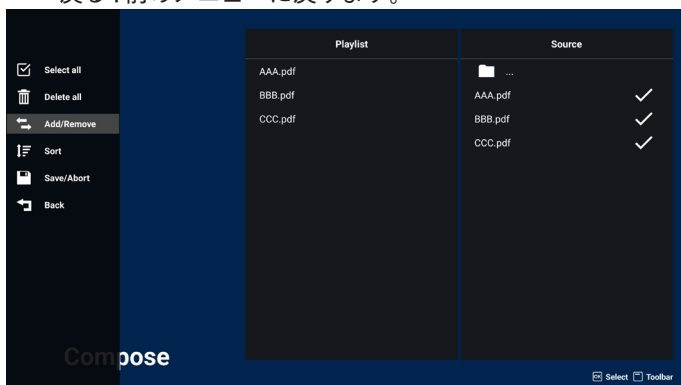


6. 再生一覧の編集を開始すると、以下のメニューが表示されます。

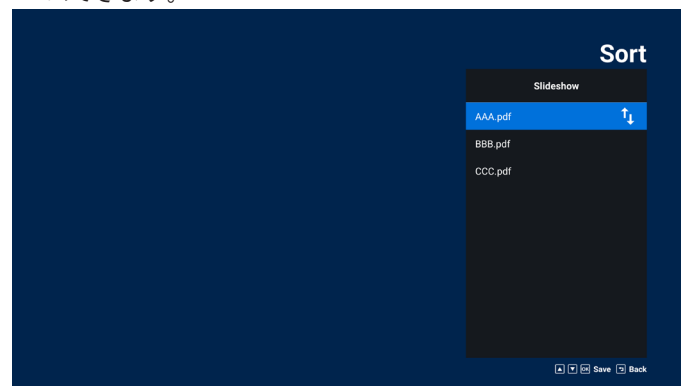
ソース - メモリストレージに保存されているファイル。
再生一覧 - 再生一覧に保存されているファイル。
以下の機能は、リモコンの対応するキーを使用して操作できます。
オプションキー - サイドメニューバーを起動します。
OK キー - ファイルを選択 / 選択解除します。

6-1. サイドメニューバーでは、以下の機能が使用できます：

- すべてを選択：ストレージに保存されているすべてのファイルを選択します。
- すべてを削除：すべての再生一覧ファイルを削除します。
- 追加 / 削除：ソースから再生一覧を追加または削除します。
- 並べ替え：再生一覧を並べ替えます。
- 保存 / 中止：再生一覧を保存または中止します。
- 戻る：前のメニューに戻ります。



7. 「並べ替え」を選択すると、ファイルの順序を個別にカスタムできます。

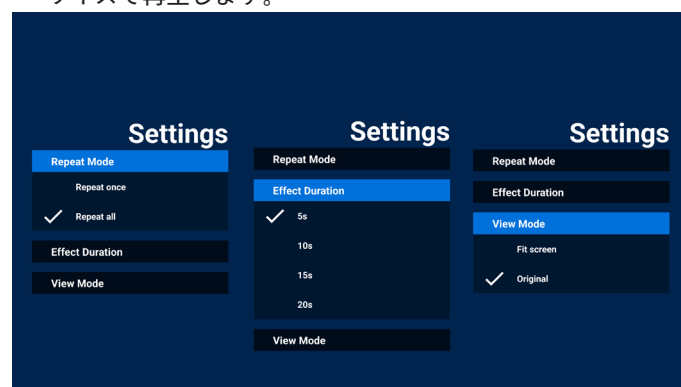


8. メインページで「Settings」を選択すると、「Repeat Mode」、「Effect Duration」、「View Mode」の3つのオプションが利用できます。

Repeat Mode: 繰り返しモードを設定します。

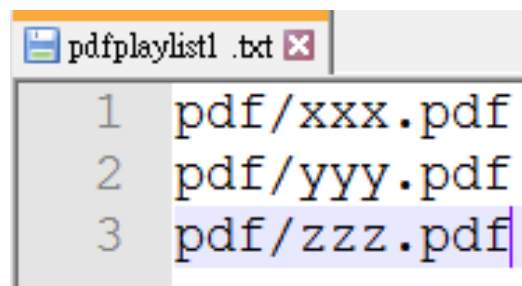
効果時間：写真効果の持続時間を設定します。

表示モード：画面にフィットさせて再生、またはオリジナルサイズで再生します。



9. SFTP を使用して PDF リストを編集する方法：
手順 1. PDF プレーヤーのテキストファイルを作成します。

- ファイル名：pdfplaylistX.txt（「X」は再生一覧番号（1,2,3,4,5,6,7）を表します）。
例：pdfplaylist1.txt、pdfplaylist2.txt
- 内容：



手順 2. pdfplaylistX.txt を内部ストレージの「philips」フォルダーにコピーします。この操作には SFTP を使用できます。

- ファイルパス：/storage/emulated/0/philips (DL、PL 用)
例：/storage/emulated/0/philips/pdfplaylist1.txt

手順 3. 内部ストレージの「philips」フォルダー内にある「PDF」フォルダーに PDF ファイルを追加します。

- 例：/storage/emulated/0/philips/pdf/xxx.pdf
/storage/emulated/0/philips/pdf/yyy.pdf
/storage/emulated/0/philips/pdf/zzz.pdf

手順 4：PDF プレーヤーアプリを起動すると、PDF プレーヤーのテキストファイルが自動的に読み込まれます。

追記：ユーザーが UI で再生一覧を更新した場合、bookmarklist.txt ファイルも同様に更新されます。

メディアホットキー：

再生：ファイルを再生します。

一時停止：一時停止します。

早送り：次のページへ移動します。ページがファイルの末尾に近い場合は、次のファイルへ移動します。

巻き戻し：前のページへ戻ります。ページがファイルの先頭に近い場合は、直前のファイルへ移動します。

停止：ファイルの先頭ページへ戻ります。

矢印キー：

上／下／左／右：ページの位置を調整します（ページがズームイン／ズームアウトされている場合）。

左：前のページへ移動します（ページがズームイン／ズームアウトされていない場合）。

右：次のページへ移動します（ページがズームイン／ズームアウトされていない場合）。

組み合わせキー：

数字キー + OK キー：目的のページ番号を入力し、OK キーを押すとそのページへ移動します。

- 数字キーを押します。

- OK キーを押すと、ページ番号が画面下部に表示されます。指定したページ番号が総ページ数を超える場合は、現在のページ番号が画面下部に表示されたままとなります。

注意：

再生一覧を編集するために 2 台以上の USB ディスクを接続した場合、電源のオン / オフ後に USB ストレージのパスが変更される可能性があるため、再生一覧からの再生は保証されません。再生一覧を編集する際は、USB ディスクを 1 台のみ使用することを強く推奨します。

5.7. カスタムアプリ

カスタマーソース用のアプリケーションを設定してください。

注意：

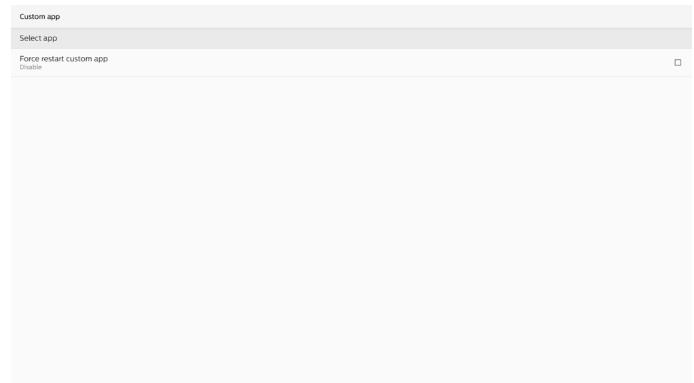
- (1) ユーザーがインストールしたアプリのみが表示されます。
- (2) システムにプリインストールされたアプリは表示されません。

5.7.1. 画面メニューの操作：

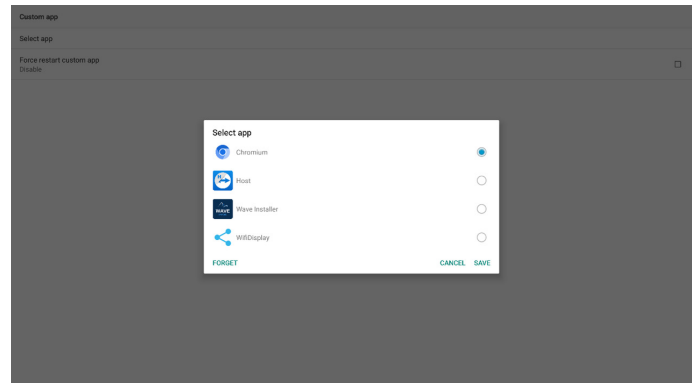
RCU: ソース > カスタム

顧客 APK が設定されている場合、ソースをカスタマーモードに切り替えると、PD は顧客アプリを開きます。

顧客 APK が設定されていない場合、ソースをカスタマーモードに切り替えると、PD は黒画面を表示します。



5.7.2. 機能の説明



保存

「保存」を押すと、保存機能が実行されます。

削除

「削除」を押すと、以前に保存された情報を削除できます。

キャンセル

ダイアログボックスをキャンセルして閉じます。

顧客がインストールした APK がない場合、リストは空白になります。

オプションが利用できない場合、「保存」キーと「切断」キーはグレーで表示されます。

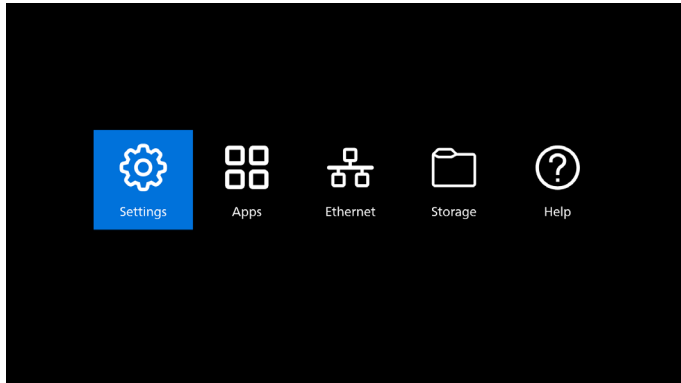
カスタムアプリの強制再起動

例外によりアプリが終了した場合、アプリは自動的に再度開かれます。

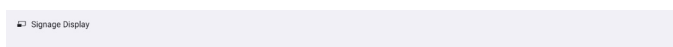
6. 設定

6.1. 設定

管理者モードで「設定」アイコンをクリックして、PD 設定画面を開きます。



設定メニューは以下の項目で構成されています：サインージディスプレイ



6.1.1. サインージディスプレイ

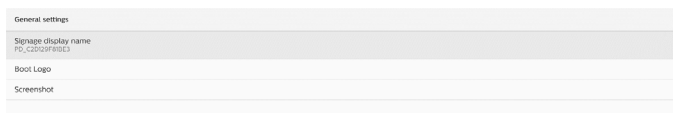
設定 -> サインージディスプレイで、サインージディスプレイのほとんどの機能を設定します。サインージディスプレイの設定に関する詳細については、以下を参照してください。



6.1.1.1. 一般設定

設定 -> サインージディスプレイ -> 一般設定

サインージディスプレイ名、ユーザーロゴ、およびスクリーンショットを設定します。



6.1.1.1.1. サインージディスプレイ名

設定 -> サインージディスプレイ -> 一般設定 -> サインージディスプレイ名

サインージディスプレイ名を設定します。デフォルトの名前は、接頭辞「PD_」が付加されたイーサネット MAC アドレスです（例：「PD_000b12223398」）。名前の最大長は UTF8 形式で 36 文字です。クリックして名前を変更してください。

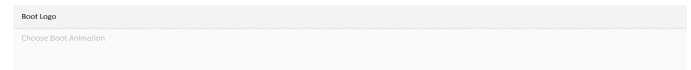


6.1.1.1.2. 起動ロゴ

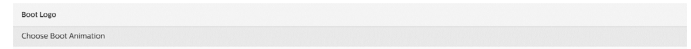
設定 -> サインージディスプレイ -> 一般設定 -> 起動ロゴ

OSD メニュー -> 設定 2 -> ロゴが「ユーザー」モードに設定されている場合、ユーザーはデバイスの起動ロゴ（起動アニメーション）を設定できます。

ロゴが「ユーザー」モードに設定されていない場合、ユーザーはカスタムの起動アニメーションを選択できません。



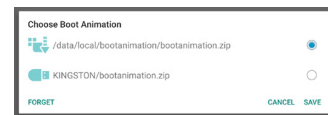
「ユーザー」モードに設定すると、「起動アニメーションの選択」が使用可能になります。



ロゴが「ユーザー」モードに設定されている場合、システムはデフォルトのフィリップスロゴを無効にし、ユーザーが選択した起動アニメーションファイルに置き換えます。ユーザーモード用の起動アニメーションファイルが設定されていない場合、起動時にデフォルトのフィリップス起動アニメーションが表示されます。

「Choose Boot Animation」をクリックすると、ユーザーが起動アニメーションファイルを選択するためのダイアログが表示されます。システムは USB ストレージ内のファイルを自動的にスキャンします。

起動アニメーションのファイル名は「bootanimation.zip」に設定する必要があります。それ以外の名前は無効です。



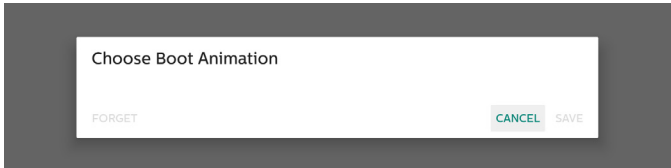
利用可能なすべての起動アニメーションファイルは、次のフォルダーにあります：

1. /data/local/bootanimation/ 内のファイル：
USB からコピーされた起動アニメーションファイル。
2. {USB_STORAGE_VOLUME_NAME}/ 内のファイル：
USB ストレージに保存されている起動アニメーションファイル。

ダイアログのオプション：

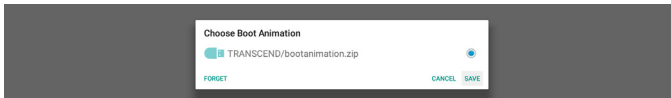
1. FORGET
/data/local/bootanimation/ 内の「bootanimation.zip」を消去します。
システムの起動時にカスタムの起動アニメーションは使用されません。
2. CANCEL
キャンセルしてダイアログボックスを閉じます。
3. SAVE
選択したファイルを /data/local/bootanimation/ にコピーします。この操作の後、ユーザーは外部ストレージ（USB）を取り外すことができます。システムは /data/local/bootanimation 内の起動アニメーションファイルを使用します。

システムが外部ストレージ（USB）および /data 内に bootanimation.zip ファイルを検出できない場合、ファイルリストは空になります。「SAVE」ボタンと「FORGET」ボタンはグレーアウトされるため、ユーザーは USB メモリーに保存されている内容を確認してください。「CANCEL」ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じ、USB メモリーを再度接続してください。

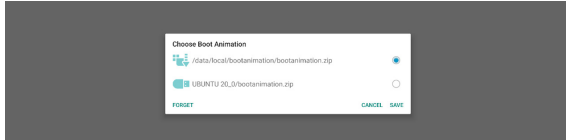


/data/local/bootanimation/ フォルダが空の場合、ユーザーが以前に「bootanimation.zip」を保存していないことを意味します。システム起動時には、デフォルトのフィリップスのロゴが表示されます。

外部ストレージで「bootanimation.zip」が見つかった場合、ファイル一覧を表示するダイアログボックスが表示されます。



「/data/local/bootanimation/」フォルダー内に「bootanimation.zip」ファイルが見つかった場合、ポップアップダイアログボックスにそのファイルが最初のオプションとして表示されます。これは、ユーザーが以前に「bootanimation.zip」ファイルをコピー（保存）しており、システムが /data/local/bootanimation/bootanimation.zip のブートアニメーションで起動することを意味します。

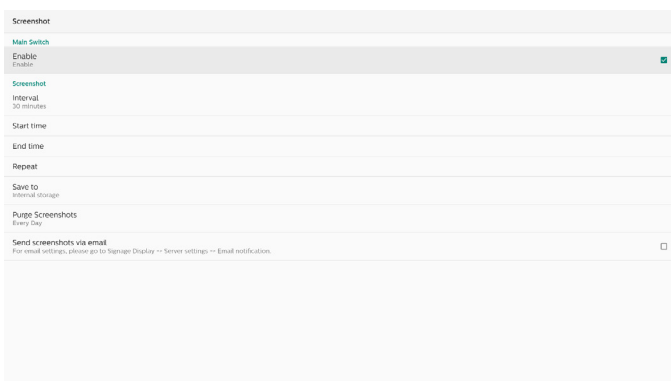


ブートアニメーションファイルは、「保存」ボタンを使用して置き換えることができます。

6.1.1.1.3.スクリーンショット

設定 -> サイネージディスプレイ -> 一般設定 -> スクリーンショット

インポートしたコンテンツからスクリーンショットを撮影するには、「有効」をクリックして自動スクリーンショット機能を有効にしてください。スクリーンショットのオプションがグレーアウトしている場合は、スクリーンショット機能がまだ有効になっていないことを意味します。



この機能を有効にすると、各スクリーンショットの間隔時間、およびキャプチャした画面が保存される保存先フォルダーを設定できます。「保存」オプションにより、スクリーンショット画像が内部ストレージに保存され、手動で変更できないことが通知されます。

注意：

1. スクリーンショット画像は、以下の条件において自動的に削除されます。

- (a). スクリーンショット機能の開始時間が 0 秒に設定されている場合。
- (b). 毎分 40 秒でスクリーンショットを開始します。
- (c). スクリーンショット写真を毎週消去するように設定した場合、写真の削除日は、スクリーンショット機能の設定を適用した日に変更されます。たとえば、消去日を毎週の月曜日に設定した後、金曜日にスクリーンショット機能の他の設定を変更した場合、消去日は金曜日（システムの現在時刻の日付）に変更されます。

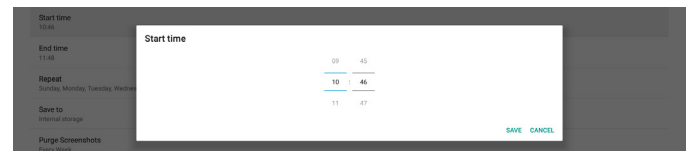
2. スリープ（システムサスペンド）とスクリーンショット機能：

システムがスリープモードに入ると、スクリーンショット機能は一時停止されます。それに伴い、スクリーンショットをメール送信する機能も一時停止されます。スクリーンショット関連の機能は、システムがアクティブモードになった際に再開されます。

- (1). 間隔
各スクリーンショットの間の間隔時間を設定します。選択できるオプションは 30 分および 60 分です。



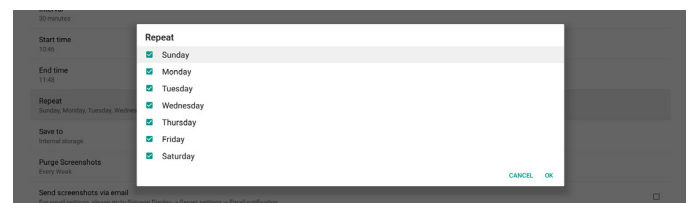
- (2). 開始時間
スクリーンショット機能を有効にする 1 日の開始時間を設定します。
ダイアログボックスを閉じる前に、「保存」ボタンをクリックしてください。クリックしない場合、設定は保存されません。
開始時間は終了時間より前に設定する必要があります。無効な値を入力した場合は、通知用のトーストメッセージが表示されます。



- (3). 終了時間
スクリーンショット機能を無効にする 1 日の終了時間を設定します。
ダイアログボックスを閉じる前に、「保存」ボタンをクリックしてください。クリックしない場合、設定は保存されません。
開始時間は終了時間より前に設定する必要があります。無効な値を入力した場合は、通知用のトーストメッセージが表示されます。



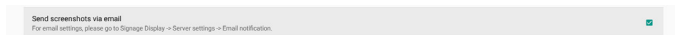
- (4). 繰り返し
自動スクリーンショットの繰り返しモードを設定します。



- (5). 保存先
画面メニューの画像は、内部ストレージの「philips/screenshot」フォルダーに保存されます。
- (6). スクリーンショットの消去
スクリーンショット画像を削除する間隔時間を設定します。使用可能なオプションは「毎日」と「毎週」です。

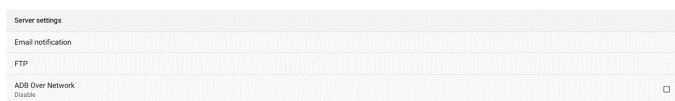


- (7). メールでスクリーンショットを送信
各スクリーンショット画像をメールの添付ファイルとして送信できます。ユーザーはまず、「設定 -> サイネージディスプレイ -> サーバー設定 -> メール通知」でメール情報を設定する必要があります。



サーバー設定

設定 -> サイネージディスプレイ -> サーバー設定



6.1.1.1.4. メール通知

設定 -> サイネージディスプレイ -> サーバー設定 -> メール通知
チェックボックスをクリックして、メール通知機能を有効または無効にします。メール通知機能を有効にした後、SMTP および管理者のメールアドレスを設定してください。



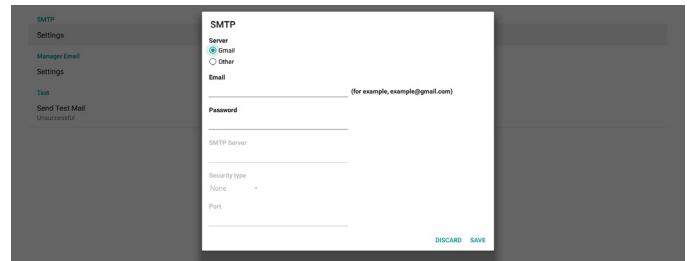
SMTP

送信者のメールアドレスと SMTP サーバー情報を設定します。ユーザーが設定できる SMTP サーバーには「Gmail」と「その他」の 2 種類があります。「その他」オプションを使用すると、ユーザーは SMTP サーバー、セキュリティタイプ、およびサーバーポートを手動で設定できます。

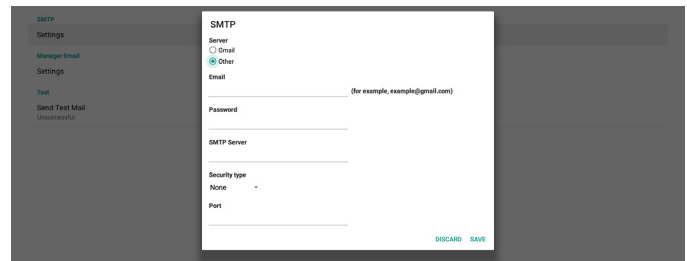
注意：

- パスワードは UTF8 形式で、6 ～ 20 文字である必要があります。
- ユーザーはポート 5000 (SICP デフォルトポート) および 2121 (SFTP サーバーデフォルトポート) を設定できません。
SICP ネットワークポートの設定は、「設定 -> サイネージディスプレイ -> ネットワークアプリケーション -> SICP ネットワークポート」で行います。
SFTP ネットワークポートの設定は、「設定 -> サイネージディスプレイ -> サーバー設定 -> SFTP -> ポート」で行います。

Gmail：(SMTP サーバー、セキュリティタイプ、およびポートはグレーアウトされています)

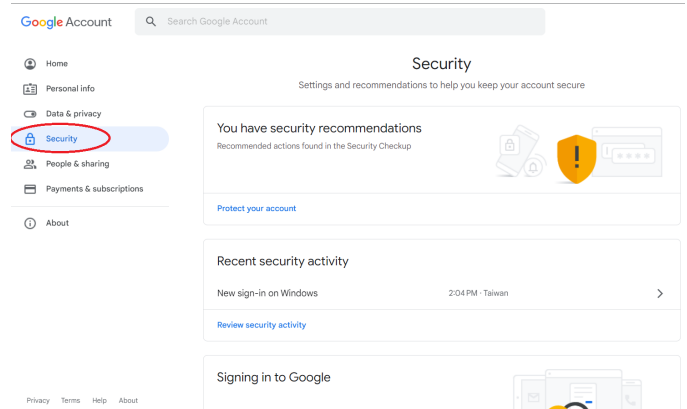


その他：

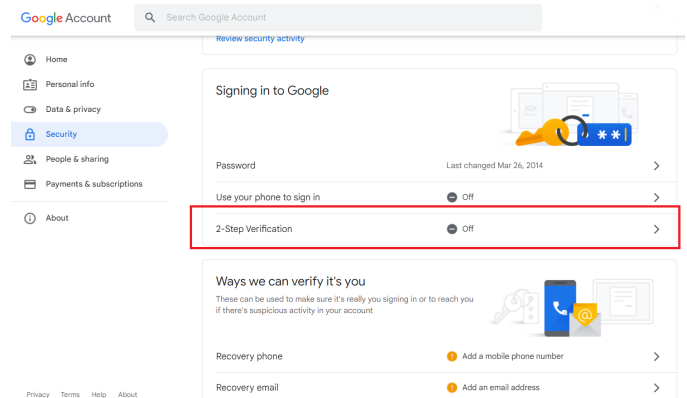


Gmail セキュリティ設定

Web ブラウザーを開き、Google アカウントにログインします。Web ページの左側または上部にある「セキュリティ」メニューをクリックします。



ステップ 1 - 「2 段階認証プロセス」を選択します
2 段階認証プロセスがオフの場合、クリックして有効にします。



ステップ 2 - 2 段階認証プロセスを設定します
「GET STARTED」ボタンをクリックして、2 段階認証オプションの設定を開始してください。

Google Account

← 2-Step Verification

Protect your account with 2-Step verification

Prevent hackers from accessing your account with an additional layer of security. When you sign in, 2-Step verification helps make sure your personal information stays private, safe and secure.

Security made easy
In addition to your password, 2-Step verification adds a quick second step to verify that it's you.

Use 2-Step verification for all your online accounts
2-Step verification is a proven way to prevent widespread cyberattacks. Turn it on wherever it's offered to protect all your online accounts.

Safer with Google

GET STARTED

Privacy Terms Help About

本人確認のため、Google アカウントに再度ログインするよう求められる場合があります。

Google

Hi TPVSW

[Profile Picture] @gmail.com

To continue, first verify it's you

Enter your password

☐ Show password

Forgot password?

Next

English (United States)

Help

Privacy

Terms

ステップ 3 - 携帯電話を使用して設定を完了する
画面の指示と利用可能なオプションに従って、携帯電話を使用した 2 段階認証を完了してください。

Google Account

← 2-Step Verification

Let's set up your phone

What phone number do you want to use?

[Country Code] [Phone Number]

Google will only use this number for account security.
Don't use a Google Voice number.
Message and data rates may apply.

How do you want to get codes?
☒ Text message ☐ Phone call

[Show more options](#)

Step 1 of 3

NEXT

Google Account

← 2-Step Verification

Confirm that it works

Google just sent a text message with a verification code to [Redacted]

[Enter the code](#)Didn't get it? [Resend](#)

BACK

NEXT

Privacy Terms Help About

Google Account

← 2-Step Verification

It worked! Turn on 2-Step Verification?

Now that you've seen how it works, do you want to turn on 2-Step Verification for your Google Account [Redacted]@gmail.com?

Step 3 of 3

TURN ON

ステップ 4 - アプリパスワードの作成

「アプリパスワード」オプションをクリックして、新しいアプリケーションパスワードを作成してください：

Google Account

Search Google Account

Home
Personal info
Data & privacy
Security
People & sharing
Payments & subscriptions
About

New sign-in on Windows 2:04 PM - Taiwan
[Review security activity](#)

Signing in to Google

Password Last changed Mar 26, 2014
2-Step Verification On
App passwords None

ステップ 5 - 新しいアプリ名の追加

まず、デバイス（例：Windows コンピューター）を選択し、「アプリを選択」メニューをクリックして「その他（カスタム名）」を選択してください：

Google Account

← App passwords

App passwords let you sign in to your Google Account from apps on devices that don't support 2-Step Verification. You'll only need to enter it once so you don't need to remember it. [Learn more](#)

You don't have any app passwords.

Select the app and device for which you want to generate the app password.

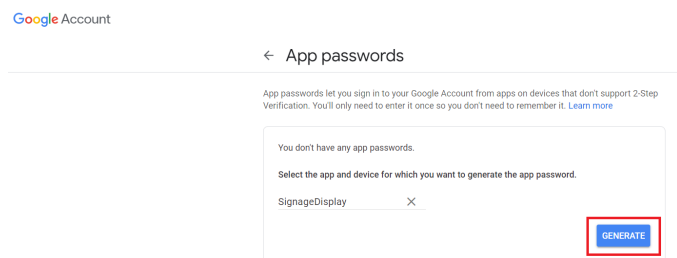
Select app

Select device

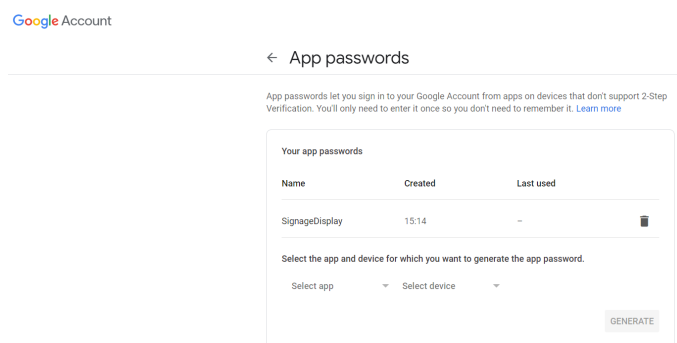
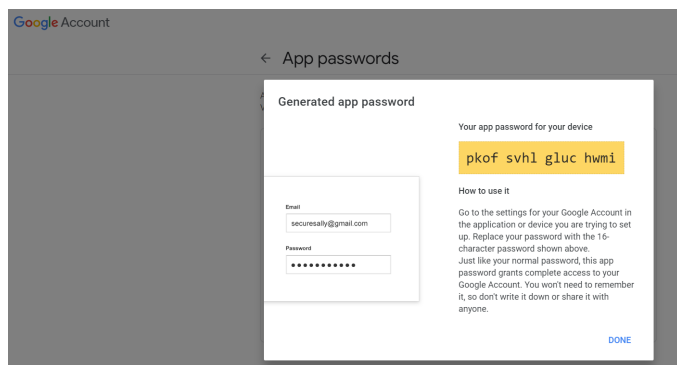
GENERATE

カスタムのアプリケーション名を入力してください（このフィールドで使用する名前は問いません）。「生成」ボタンをクリックしてください：

(例：アプリ名として「SignageDisplay」と入力)

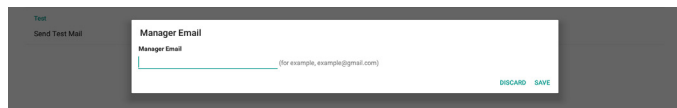


自動生成されたアプリパスワードを記録するか、選択してクリップボードにコピーし、後で使えるようにしてください。



管理者メール

メールを受信する宛先アドレスを指定してください。



テスト

メール設定が正しいかどうかを確認するには、「テストメールを送信」を選択してテストメールを送信してください。

6.1.1.1.5.FTP

設定 -> サイネージディスプレイ -> サーバー設定 -> FTP



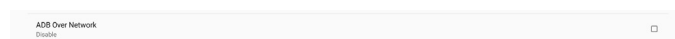
チェックボックスをクリックして、FTP サーバー機能を有効または無効にしてください。この機能を有効にすると、ユーザーはアカウント、パスワード、およびポート番号を設定できます。

- (1). アカウント：FTP サーバーにログインするためのユーザー名は 4 ～ 20 文字の長さにする必要があります、英数字（a-z、A-Z、0-9）のみを使用できます。
- (2). パスワード：FTP サーバーにログインするためのパスワードは 6 ～ 20 文字の長さにする必要があります、[a-z]、[A-Z]、および [0-9] の文字のみを使用できます。パスワードを設定すると、アスタリスクで表示されます。
- (3). 保存パス：FTP サーバーは内部ストレージにのみアクセスできます。保存パスは変更できません。
- (4). ポート：FTP サーバーのポート番号には 1025 ～ 65535 の範囲を使用でき、初期設定は 2121 です。以下のポート番号は使用できません。
8000 / 9988 / 15220 / 28123 / 28124 および SSCP ネットワークポート（初期設定 5000）。

最後に、FTP 設定を適用するためにシステムを手動で再起動してください。

6.1.1.1.6.ネットワーク経由の ADB

ポート 5555 のネットワーク接続を介して ADB にアクセスできます。



6.1.1.2. ソース設定

設定 -> サイネージディスプレイ -> ソース設定

Android ソース



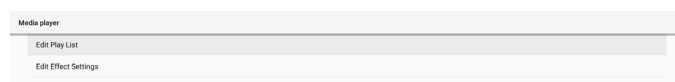
ユーザーはソース APK の詳細オプションを設定できます。



6.1.1.2.1.メディアプレーヤー

設定 -> サイネージディスプレイ -> ソース設定 -> メディアプレーヤー

メディアプレーヤー APK の再生一覧編集アクティビティおよびエフェクト設定編集アクティビティを開きます。



6.1.1.2.2. ブラウザー

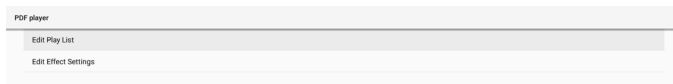
設定 -> サイネージディスプレイ -> ソース設定 -> ブラウザー
ブラウザー APK のブックマークエディターアクティビティを開きます。



6.1.1.2.3. PDF プレーヤー

設定 -> サイネージディスプレイ -> ソース設定 -> PDF プレーヤー

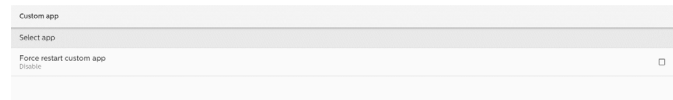
PDF プレーヤー APK の再生一覧編集アクティビティおよびエフェクト設定編集アクティビティを開きます。



6.1.1.2.4. カスタムアプリ

設定 -> サイネージディスプレイ -> ソース設定 -> カスタムアプリ

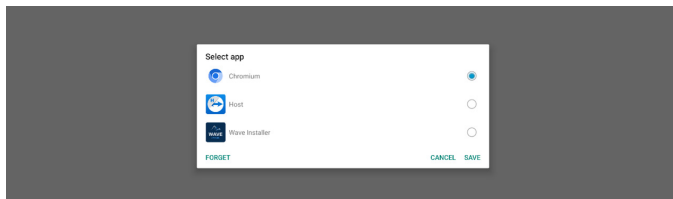
ユーザーはカスタムソース APK を設定できます。選択された APK は、カスタム入力ソースに切り替えたときに起動します。カスタムソース APK が設定されていない場合、システムはカスタム入力ソースに切り替えたときに黒画面を表示します。



カスタムソース APK が設定されている場合は、その APK 名が表示されます。それ以外の場合は、カスタムアプリが設定されていないことを意味します。

アプリの選択

カスタムアプリソース用に特定のアプリを選択します。



注意：

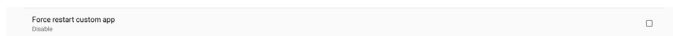
システムによってプリインストールされた APK は一覧に表示されません。手動でインストールされた APK のみが一覧表示されます。

- (1). FORGET ボタン
カスタムソースアプリケーションを消去します。カスタムソースアプリケーションが設定されていない場合はグレーアウトします。
- (2). キャンセルボタン
変更を保存せずに終了します。
- (3). 保存ボタン
「保存」ボタンをクリックして、APS をカスタムソースアプリケーションとして選択します。選択可能なアプリケーションがない場合は、グレーアウトされます。

カスタムアプリの強制再起動

この機能が有効の場合、システムはカスタムアプリの状態を監視できます。カスタムアプリが存在せず、ソース起動が「カスタムアプリ」に設定されている場合、システムはカスタムアプリの再起動を試みます。

初期設定は無効です。



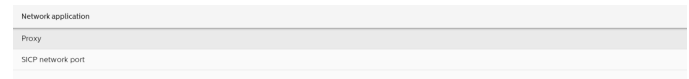
ソースラベル / 有効

ソースリストに表示されるソースラベルを変更し、ソースリスト内のソースを有効 / 無効にします。

Source	Label	Enable
HDMI1	HDMI1	☒
HDMI2	HDMI2	☒
Type-C	Type-C	☒

6.1.1.3. ネットワークアプリケーション

設定 -> サイネージディスプレイ -> ネットワークアプリケーション



6.1.1.3.1. SICP ネットワークポート

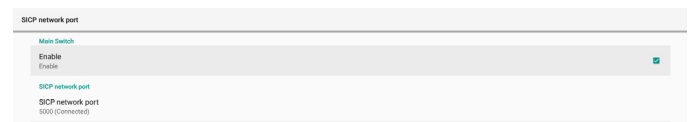
設定 -> サイネージディスプレイ -> ネットワークアプリケーション -> SICP ネットワークポート

SICP のデフォルトポートを設定し、ネットワーク SICP を有効 / 無効にします。デフォルトでは、SICP はポート 5000 で有効になっています。

注意：

ポート番号の範囲は 1025 ~ 65535 です。

次のポートはすでに使用されているため、割り当てることができません：8000, 9988, 15220, 28123, 28124。デフォルトの SFTP ポートは 2121 です。

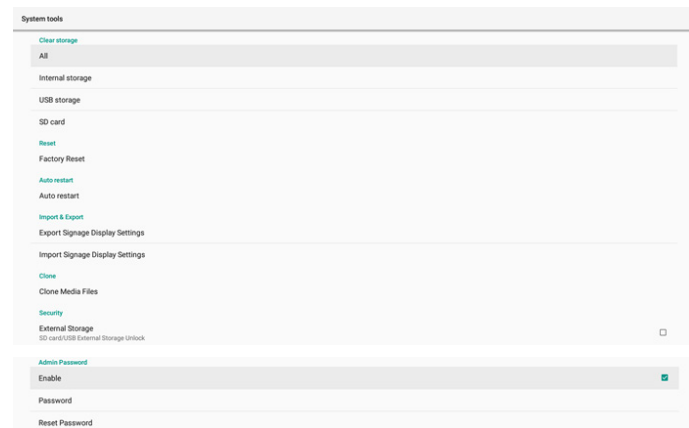


6.1.1.4. システムツール

設定 -> サイネージディスプレイ -> システムツール

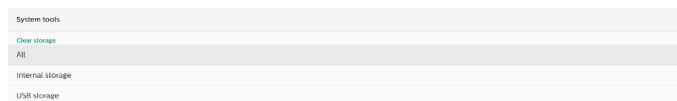
サイネージディスプレイのシステムツールには、6 つの主要な機能があります：

- (1). ストレージの消去
- (2). リセット
- (3). 自動再起動
- (4). インポート & エクスポート
- (5). クローン
- (6). セキュリティ
- (7). 管理者パスワード



6.1.1.4.1. ストレージの消去

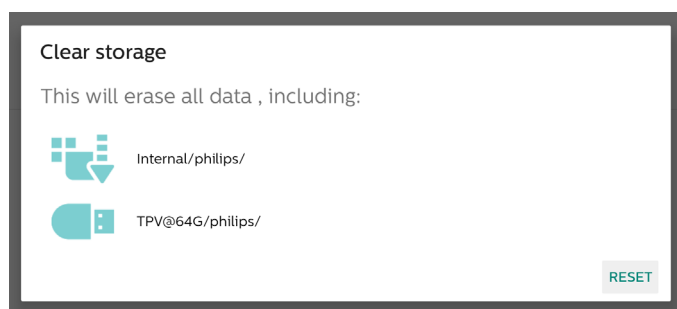
設定 -> サイネージディスプレイ -> システムツール -> ストレージの消去



内部ストレージおよび外部ストレージの {storage}/philips/ フォルダ内のデータを消去します。

- (1). すべて
内部ストレージおよび USB から「Philips」フォルダを消去します。
- (2). 内部ストレージ
内部ストレージのみから「Philips」フォルダを消去します。
- (3). USB ストレージ
USB ストレージのみから「Philips」フォルダを消去します。

ダイアログボックスに、システムが消去するすべてのフォルダが一覧表示されます。一覧表示されたフォルダ内のすべてのデータを消去するには「リセット」を押すか、保存せずに終了するには戻るキーを押してください。



6.1.1.4.2. リセット

設定 -> サイネージディスプレイ -> システムツール -> リセット



工場出荷時の設定にリセット

この機能を使用すると、すべてのユーザーデータと設定を消去できます。システムは自動的に再起動し、再起動後に OOBЕ に移行します。

重要な注意：

1. 内部ストレージに保存されているデータのみが消去され、復元することはできません。データには、デバイス設定、インストール済みアプリ、アプリのデータ、ダウンロードしたファイル、音楽、写真、および「/data」内のすべてのデータが含まれます。ただし、USB に保存されているデータは消去されません。
2. 工場出荷時の設定にリセットの実行中は、AC アダプターと電源が常に接続されていることを確認してください。ユーザーは、画面メニューに OOBЕ が表示された後のみ電源オフにすることができます。

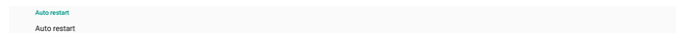


「工場出荷時の設定にリセット」をクリックして、工場出荷時の設定にリセットを実行します。ダイアログボックスが表示されたら、「OK」を押して確認します。このアクションにより内部ストレージ内のすべてのデータが消去され、復元できなくなりますのでご注意ください。

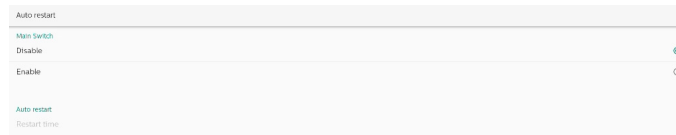


6.1.1.4.3. 自動再起動

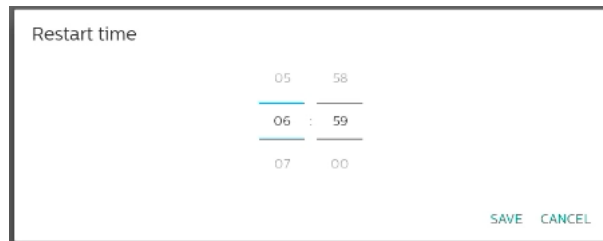
システムが毎日自動的に再起動する特定の時間を設定します。



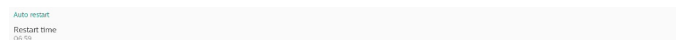
自動再起動機能を有効または無効に設定します。



タイムピッカーを使用して再起動時間を設定します。

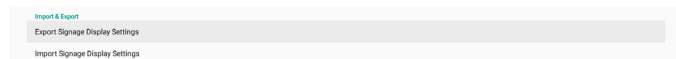


「保存」を選択すると、システムは指定した時間に再起動します。



6.1.1.4.4. インポート & エクスポート

設定 -> サイネージディスプレイ -> システムツール -> インポートとエクスポート



この機能を使用すると、他のデバイスとの間で設定やサードパーティ製 APK をインポート / エクスポートできます。次の点にご注意ください：

- (a). {storage}/philips/clone フォルダ内の BDL4150Q-clone.zip ファイルにデータをエクスポートします。
- (b). 以前のクローンファイル方式に対応しており、{storage}/philips/sys_backup にファイルを配置します：
AndroidPDMediaPlayerData.db
AndroidPDPdfData.db
menu_settings.db
settings_global.xml
settings_secure.xml
settings_system.xml
signage_settings.db
最新のエクスポートデータでは、すべてのファイルが ZIP ファイルにアーカイブされることにご注意ください。
- (c). 「サイネージディスプレイ名」はインポート / エクスポートされません。

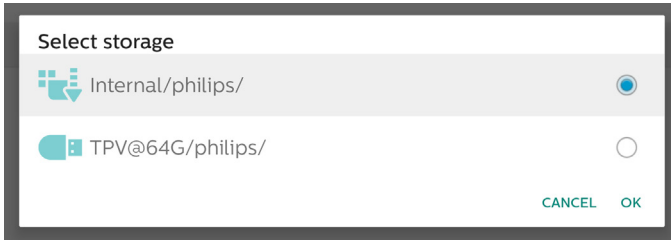
サイネージディスプレイ設定のエクスポート

システムは、データベースデータおよびサードパーティの APK を、選択したストレージ（内蔵ストレージ、USB ストレージ）の {storage}/philips/clone/BDL4150Q-clone.zip ファイルにエクスポートします。

注意：

選択したストレージ（内蔵ストレージ、USB 外部ストレージ）に Philips/ フォルダが含まれていない場合、システムが自動的に作成します。

利用可能なすべてのストレージ（内蔵ストレージおよび USB ストレージ）のリスト：

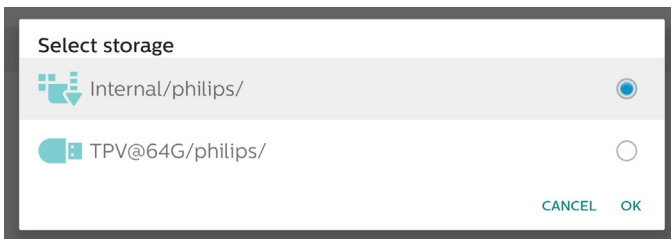


サイネージディスプレイ設定のインポート

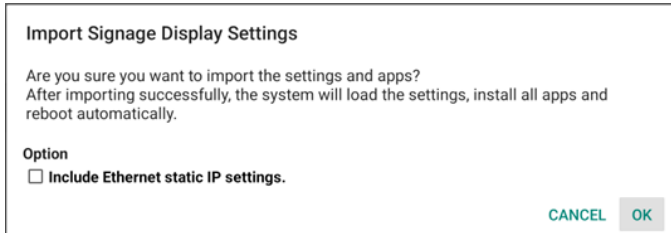
選択したストレージ（内蔵ストレージまたは USB ストレージ）の philips/clone/BDL4150Q-clone.zip ファイルからデータベースデータをインポートします。システムは ZIP ファイル内の次のデータをインポートします：

- BDL4150Q-clone.zip 内のデータベースのインポート
- BDL4150Q-clone.zip にサードパーティの APK をインポートする
- BDL4150Q-clone.zip 内のスケーラー OSD 設定のインポート

利用可能なすべてのストレージ（内蔵ストレージおよび USB ストレージ）のリスト：



設定および APK をインポートする前に、確認ダイアログボックスが表示されます。「OK」ボタンをクリックして、データのインポートを開始してください。

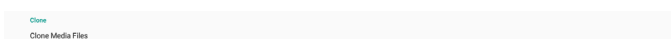


追加の注意事項：

「イーサネット固定 IP 設定を含める」にチェックを入れると、インポート後にシステムがデータベースからイーサネット固定 IP 設定を読み込みます。チェックを入れない場合、ネットワークの状態はインポート前のまま維持されます。

6.1.1.4.5. クローン

設定 -> サイネージディスプレイ -> システムツール -> クローン



メディアファイルのクローン

この機能により、選択したソースストレージからターゲットストレージへメディアファイルをコピーできます。

システムのクローンファイルは、以下のフォルダーに保存されています：

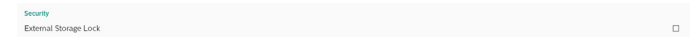
philips/photo
philips/music
philips/video
philips/pdf
philips/browser

6.1.1.4.6. セキュリティ

設定 -> サイネージディスプレイ -> システムツール -> セキュリティ

外部ストレージのロック

チェックボックスをクリックして、外部ストレージ（USB ストレージ）をロックまたはロック解除します。デフォルトはロック解除された状態です。

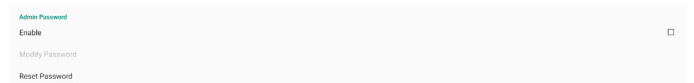


注意：

外部ストレージのロックを無効化して有効な状態に変更する場合は、外部ストレージ（USB ストレージの場合）を一度取り外してから、再度接続してください。これにより、システムが外部ストレージを再検出できるようになります。

6.1.1.4.7. 管理者パスワード

セキュリティの向上および米国・EU 規制への準拠のため、デフォルトパスワードの使用を廃止し、ユーザー自身によるパスワードの作成を必須とします。



有効

[有効] チェックボックスがオンになっていない場合、パスワードが現在空であることを意味します。

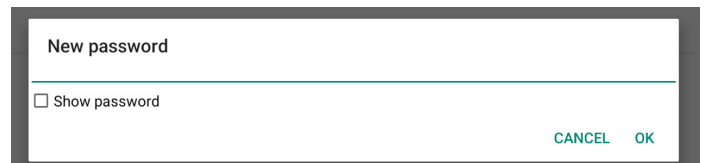
チェックボックスをクリックして、新しいパスワードを入力できます。

注意：

パスワードの規則は 6 桁で、連続した数字や繰り返しの数字は使用できません。

例：112233、123457、654322 (OK)

123456、111111、654321 (不可)



(1) オフ：無効。

(2) オン：有効。

注意：

有効にした後、管理者モードにログインするにはパスワードが必要です。

パスワードの変更

ユーザーは管理者モードにログインするためのパスワードを変更できます。以下の手順に従ってください：

- まず現在のパスワードを入力してください。

現在のパスワードが正しくない場合、「パスワードが正しくありません」というトーストメッセージが表示されます。

(2). 新しいパスワードを入力してください。

(3). 新しいパスワードをもう一度入力してください。

再入力したパスワードが新しいパスワードと一致しない場合は、もう一度やり直してください。

パスワードが正常に変更された場合、Android トーストの「成功しました」メッセージが表示されます。

パスワードのリセット：

設定 -> サイネージディスプレイ -> システムツール -> 管理者パスワード -> パスワードのリセット。

6.1.1.5. その他

TeamViewer サポート

チェックボックスをクリックして、TeamViewer サポートを有効または無効にします。TeamViewer は仮想 HOME キーを送信して管理者モードを開きます。デフォルトは有効です。

TeamViewerHost および TeamViewerQSAddOn の APK は、システムに自動的にインストールされます。また、「TeamViewer サポート」が無効の場合、システムによってこれらが削除されます。

「TeamViewer サポート」が有効の場合、以下の 2 つの APK が [設定]->[アプリ] に一覧表示されます。

ログの有効化

チェックボックスを使用して、ログ機能を有効または無効にします。

有効にすると、PD は Android logcat ログおよびカーネルメッセージの記録を開始し、それらを USB または内部ストレージに自動的に保存します。最優先は USB ストレージです。PD に USB デバイスが接続されていない場合、すべてのデータは内部ストレージに保存されます。

保存先パスは {root directory of USB storage}/ philips/Log/{モデル名}-Log-{ yyyy-MM-dd-HH-mm-ss } となります。

または

{root directory of internal storate}/ philips/Log/{モデル名}-Log-{ yyyy-MM-dd-HH-mm-ss }

ログ記録を無効にした場合、すべてのデータは {root directory of USB storage}/ philips/Log/{model name}-Log-{ yyyy-MM-dd-HH-mm-ss }.zip などの zip ファイルに保存されます。

または

{root directory of internal storate}/ philips/Log/{model name}-Log-{ yyyy-MM-dd-HH-mm-ss }.zip

6.1.1.6. システム更新

ローカル更新

設定 -> サイネージディスプレイ -> システム更新 -> ローカル更新

システムは、USB ディスクのルートディレクトリまたは内部ストレージのルートディレクトリにある「update.zip」または「combofw.zip」ファイルを自動的に検索します。「update.zip」または「combofw.zip」のいずれかが検出された場合、更新に使用するファイルをユーザーが選択できるように、選択可能なリストがポップアップ表示されます。

(1). 'update.zip'

リストからファイルを選択すると、システムが再起動し、システム更新が実行されます。Android のダウングレードには対応しておりませんので、ご注意ください。

(2). 'combofw.zip'

リストからファイルを選択すると、システムはまずスケーラー FW アップデートを開始し、再起動後に自動的に Android システムアップデートを開始します。「combofw.zip」ファイルには、次の 2 つの構造があります。

1. 「update.zip」 + 「PHL_{モデル名}.bin」。
2. 「update.zip」 + 「{multi-size scaler}.zip」または「update.zip」 + 「{multi-size scaler}.7z」。

ご注意ください：

1. アップデート処理中はシステムの電源をオンに保ち、電源アダプターを取り外さないでください。
2. 現在、システムはフル Android アップデートのみをサポートしています。
3. アップデートファイルの名前は、「update.zip」または「combofw.zip」のいずれかにする必要があります。
4. 「update.zip」または「combofw.zip」ファイルは、外部ストレージまたは内部ストレージのルートフォルダーに配置する必要があります。

6.2. 補足

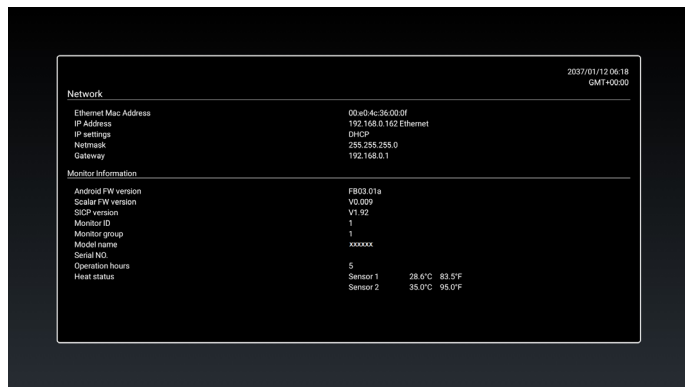
6.2.1. クイック情報

「Info + 77」を押して、クイック情報を起動してください。
クイック情報には「ネットワーク」と「モニターインフォメーション」が表示されます。

注記：

動作時間：1 分ごとに更新されます。

温度ステータス：5 秒ごとに更新されます。



6.2.2. Android の起動アニメーションをカスタマイズするにはどうすればよいですか？

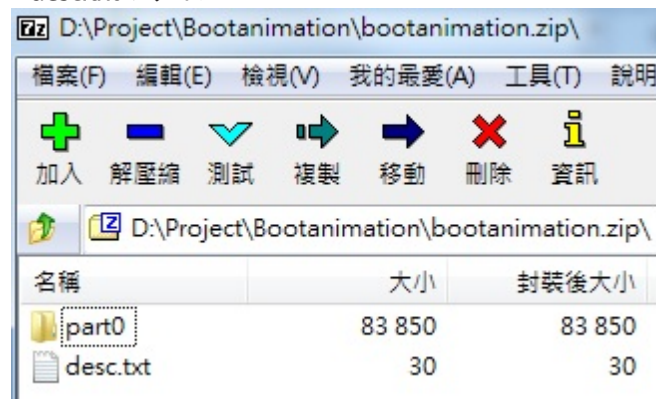
1. 概要

Android の起動アニメーションは、デバイスの起動時に PNG ファイルを読み込むために使用されるスクリプトです。これは bootanimation.zip という非圧縮の ZIP ファイルに含まれています。

2. bootanimation.zip ファイル内

bootanimation.zip の内容は次のとおりです：

- 画像フォルダ（連番で名前が付けられた PNG 画像を含む）
- desc.txt ファイル



(1) 画像フォルダ

このフォルダには、0000.png や 0001.png などのように番号で名前が付けられ、1 ずつ増加する PNG 画像が含まれています。フォルダの最小数は 1 で、最大数に制限はありません。

(2) desc.txt ファイル

このファイルは、起動アニメーション中にフォルダ内の画像がどのように表示されるかを、以下の形式で定義します：

- 幅 高さ フレームレート
- mode Loop delay-time Folder1

- mode Loop delay-time Folder2

desc.txt ファイルの例は次のとおりです：

- 1920 1080 30
- p 1 0 part0
- p 0 0 part1

a. 1 行目

1920 および 1080 は、画面解像度の幅と高さを定義します。

30 は fps (frames per second : 1 秒あたりのフレーム数) 単位のフレームレート、すなわち 1 秒間に表示する画像の枚数です。

b. 2 行目および 3 行目は同じ形式です。

最初の「p」は、起動プロセスの完了時に再生モードが直ちに停止することを意味します。

「p」の隣の数字はリピートモードを定義します。

- デバイスの起動が完了するまでパートを無制限にループさせるには、0 に設定してください。
- パートを 1 回のみ再生するには、1 に設定してください。

次の数字は遅延時間 (ms) を定義します。たとえば 10 に設定した場合、すべての画像ファイルの再生が終了したとき、システムは 10ms 遅延します。

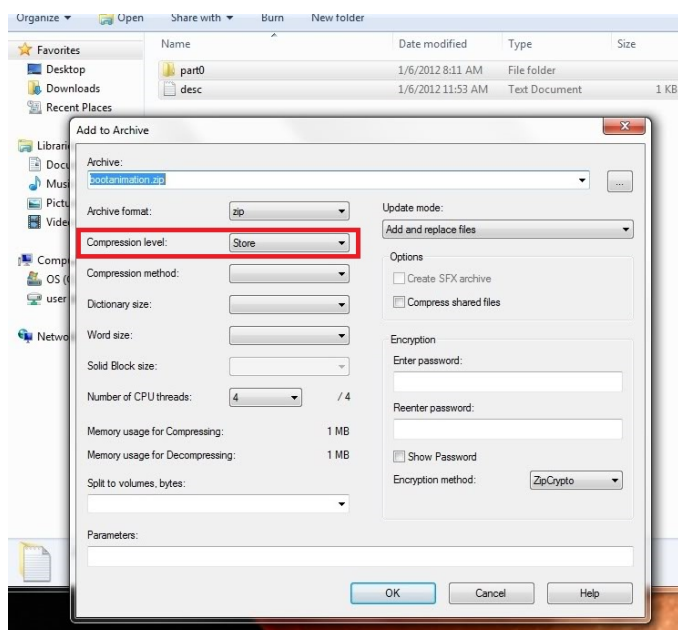
Part0 および part1 は、画像フォルダ名を指します。

上記の例では、起動アニメーションは 1920 × 1080 ピクセルの解像度、30 fps のフレームレートで再生され、part0 フォルダの内容から開始されます。それらを 1 ループ再生した後、part1 フォルダの内容に切り替わり、デバイスの起動プロセスが完了するまで連続して再生されます。

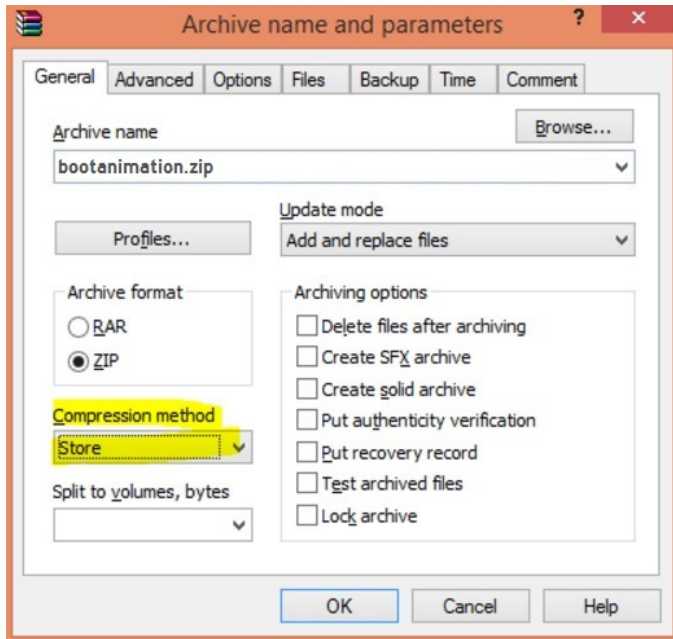
3. Zip ファイル：

Bootanimation フォルダ内のすべて（画像フォルダと desc.txt を含む）を選択し、7zip や WinRAR などのお好みの圧縮ユーティリティを使用して、新しい非圧縮の zip アーカイブに圧縮してください。

7zip を使用する場合、圧縮レベルを「Store」に設定してください。



WinRAR を使用する場合、「圧縮方式」を「Store」に設定してください。



そうしないと、bootanimation は動作しません。

4. カスタム起動アニメーションを適用する

手順：

- (1) カスタムの bootanimztion.zip ファイルを外部 USB に配置し、そのストレージデバイスをフィリップス PD プラットフォームに接続してください。
- (2) ロゴオプションが有効になっていることを確認してください。
- RCU のホームキーを押してください：OSD メニュー > 設定 2 > ロゴ > 「オン」に設定
- (3) RCU で「Home + 1888」の組み合わせキーを押して管理者モードに入るか、ランチャー内の「その他のアプリ」アイコンをクリックしてください。
- 設定 > サイネージディスプレイ > 一般設定 > ブートロゴ
- (4) システムは外部 USB 上の bootanimation.zip を自動的に検索し、/data/local にコピーします。
- (5) 手順 1 ～ 4 が完了したら、システムを再起動してください。起動時に新しいカスタム起動アニメーションが表示されます。

6.2.3. Android アプリのインストール方法は？

独自の Android アプリをインストールするには 3 つの方法があります。

(a) 管理者モードのファイルマネージャーを使用する方法

1. すでに apk をお持ちの場合

- 1.1 APK を USB ディスクにコピーし、そのストレージデバイスをフィリップス Android サイネージディスプレイに接続してください。
- 1.2 管理者モード > アプリ > ファイルマネージャーに移動してください。
- 1.3 ファイルマネージャーを使用して、インストールする APK を検索します。選択した APK で「OK」を押してください。

2. Chromium ブラウザーを使用して APK をダウンロードし、ファイルマネージャーで <internal storage path>/Download/ に移動します。

2.1 次の手順は上記と同じです。モデルごとに <internal storage path> が異なる場合がありますのでご注意ください。

(b) Adb Shell 経由

1. ご使用の PC が adb を使用してフィリップス Android サイネージディスプレイに接続できることを確認してください。
2. PC 上のフォルダー（例：C:\apkfolder）に APK を準備します。
3. コマンドラインツールを使用して、次のコマンドを実行します。

C:\apkfolder> adb install -r apk_name.apk

(c) カスタムインテント経由

1. 任意の Android アプリをダウンロードできる APK を開発した場合、その APK からカスタムインテントを発行できます。
2. APK 名とパスが保存されていれば、システムがプログラムによってインストールを実行します。

説明	インテント	パラメーター	
ソフトウェア更新	php.intent.action.UPDATE_APK	filePath	ファイル名を含む絶対ファイルパス。ファイルのアクセス権限が少なくとも 664 であることを確認してください。
		keep	更新後にファイルを保持するかどうかを指定します。デフォルト値は false です。
		packageName	更新後に自動的に起動する対象のパッケージ。
		activityName	更新後に自動的に起動する対象のアクティビティ。ただし、現在のトップアクティビティが activityName でない場合、何も実行されません。

例：

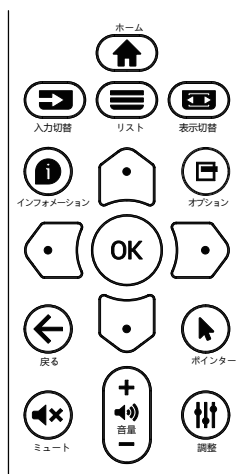
```
Intent intent = new Intent();
intent.setAction(「php.intent.action.UPDATE_APK」);
intent.putExtra(「filePath」,「/Download/sample.apk」);
intent.putExtra(「keep」, true);
intent.putExtra(「packageName」,「com.tpv.example」);
intent.putExtra(「activityName」,「com.tpv.example.MainActivity」);
intent.putExtra(「isAllowDowngrade」, true); // ダウングレードを許可
sendBroadcast(intent);
```

7. OSD 画面メニュー

オンスクリーンディスプレイ（OSD）構造の概要を以下に示します。ディスプレイをさらに調整する際の参考にしてください。

7.1. OSD 画面メニューの操作

7.1.1. リモコンを使用した OSD 画面メニューの操作



1. リモコンの [🏠] ボタンを押して、OSD 画面メニューを表示します。
2. [👉] または [👈] ボタンを押して、調整する項目を選択します。
3. [OK] または [👉] ボタンを押して、サブメニューに入ります。
4. サブメニューでは、[👉] または [👈] ボタンを押して項目間を切り替え、[👉] または [👈] ボタンを押して設定を調整します。サブメニューがある場合は、[OK] または [👉] ボタンを押してサブメニューに入ります。
5. [👈] ボタンを押して前のメニューに戻るか、[🏠] ボタンを押して OSD メニューを終了してください。

7.1.2. ディスプレイのコントロールボタンを使用した OSD メニューの操作

1. [MENU] ボタンを押して OSD メニューを表示してください。
2. [＋] または [－] ボタンを押して、調整する項目を選択してください。
3. [＋] ボタンを押してサブメニューに入ってください。
4. サブメニューでは、[▲] または [▼] ボタンを押して項目を切り替え、[＋] または [－] ボタンを押して設定を調整してください。サブメニューがある場合は、[＋] ボタンを押してサブメニューに入ってください。
5. [MENU] ボタンを押して前のメニューに戻るか、[MENU] ボタンを押して OSD メニューを終了してください。

7.2. OSD メニューの概要

7.2.1. 画像メニュー

🖼️ 画像メニュー	輝度(画像)	70
📺 画面メニュー	コントラスト	50
🔊 オーディオメニュー	シャープネス	50
⚙️ 設定1	ブラックレベル	50
⚙️ 設定2	色合い(色調)	50
⚙️ アドバンスドオプションメニュー	色(彩度)	50
	ガンマ選択	ネイティブ
	色温度	ネイティブ
	カラーコントロール	アクション
	オーバースキャン	オフ
	▼	

🖼️ 画像メニュー	画像リセット	アクション
📺 画面メニュー		
🔊 オーディオメニュー		
⚙️ 設定1		
⚙️ 設定2		
⚙️ アドバンスドオプションメニュー		
	▲	

輝度 (画像)

本ディスプレイのバックライトの輝度 (画像) を調整してください。

コントラスト

入力信号のコントラスト比を調整してください。

注記：映像ソースのみ

シャープネス

画像のディテールを改善するために、シャープネスを調整してください。

ブラックレベル

ビデオのブラックレベルとは、映像の最も暗い（黒）部分における輝度 (画像) のレベルのことです。本ディスプレイのブラックレベルを調整してください。

色合い (色調) (色相)

画面メニューの色合い (色調) を調整してください。

[👉] ボタンを押すと、色調が緑がかります。[👈] ボタンを押すと、色調が紫がかった色になります。

注記： この項目はビデオモード（YUV 色空間）にのみ適用されます。

色 (彩度) (彩度)

画像の色の強さを調整してください。

注記： この項目はビデオモード（YUV 色空間）にのみ適用されます。

ガンマ選択

ガンマは、画像の全体的な輝度を制御するものです。適切に補正されていない画像は、白っぽすぎたり暗すぎたりして見えることがあります。そのため、ガンマを適切に制御することは、ディスプレイの全体的な画質に大きな影響を与えます。

オプションは次のとおりです：{ネイティブ} / {2.2} / {2.4} / {S gamma} / {D-image}。

色温度

画像の色温度を選択します。色温度が低いと赤みがかった色合い（色調）になり、色温度が高いと青みがかった色合い（色調）になります。

オプションは次のとおりです：{3000K} / {4000K} / {5000K} / {6500K} / {7500K} / {9300K} / {10000K} / {Native} / {User 1} / {User 2}。

カラーコントロール

R/G/B ゲインおよび R/G/B オフセットの設定を個別に変更することで、画像の色（彩度）トーンを正確に調整できます。

{画像メニュー} - {色温度} - {ユーザー} 設定を [ユーザー 1] にする

または、2000K から 10000K の範囲で 100K 単位で色（彩度）トーンを調整できます。

{画像メニュー} - {色温度} - {ユーザー} 設定を [ユーザー 2] にする

スマート電源

消費電力を自動的に削減するようにディスプレイを設定してください。

オプションは次のとおりです：{オフ} / {中} / {高}。

オーバースキャン

画像の表示領域を変更します。

- {オン} - 元の画像サイズの約 95% を表示します。画像周囲の残りの領域は切り取られます。
- {オフ} - 画像を元のサイズで表示します。

画像リセット

画像メニューのすべての設定をリセットします。

7.2.2. 画面メニュー

🖼️ 画像メニュー	ズームモード	フル
🖥️ 画面メニュー	画面リセット	アクション
🔊 オーディオメニュー		
⋮ 設定1		
⋮ 設定2		
⚙️ アドバンスドオプションメニュー		

ズームモード

映像入力を 1 つ選択してください：{フル} / {4:3} / {リアル} / {21:9}。

	フル このモードでは、フル画面表示を使用して、16:9 で伝送された画像の正しい縦横比を復元します。
	4:3 画像は 4:3 形式で表示され、画像の左右に黒い帯が表示されます。
	リアル このモードでは、元の画像サイズを拡大縮小せずに、画像をピクセル単位で画面に表示します。
	21:9 画像は 21:9 形式で表示され、上下に黒い帯が表示されます。

画面リセット

画面メニューのすべての設定を工場出荷時の初期値にリセットします。

7.2.3. オーディオメニュー

🖼️ 画像メニュー	バランス	_____	50
🖥️ 画面メニュー	高音	_____	50
	低音	_____	50
🔊 オーディオメニュー	音量	_____	20
	最大音量	_____	100
	最小音量	_____	0
⋮ 設定1	音声出力 (ラインアウト)	_____	20
⋮ 設定2	ミュート	オフ	
⚙️ アドバンスドオプションメニュー	オーディオ出力	ラインアウト	
	オーディオ出力同期	オフ	
	スピーカー設定	オン	
	オーディオリセット	アクション	

バランス

左右のオーディオ出力のバランスを強調するように調整します。

高音

高音域の音を増減するように調整します。

低音

低音域の音を増減するように調整します。

音量

音量を調整してください。

最大音量

最大音量設定の独自の制限を調整します。これにより、設定した音量レベルで音量が停止します。

最小音量

最小音量設定の独自の制限を調整します。

音声出力 (ラインアウト)

ライン出力のオーディオ出力レベルを増減するように調整します。

ミュート

ミュート機能をオン / オフにします。

オーディオ出力

オーディオ出力の種類を選択してください

ARC：HDMI オーディオリターンチャンネル。追加のオーディオケーブルを使用せずに音声を逆方向に送信します。

ラインアウト：リニアオーディオ出力。外部のプロフェッショナルオーディオ機器用です。

オーディオ出力同期

ラインアウトの音量は、内蔵スピーカーの音量と同期します。

{オン}：本機能を有効にし、オーディオ出力（ラインアウト）の音量をグレースアウトします。

{オフ}：本機能を無効にします。

スピーカー設定

内蔵スピーカーをオンまたはオフに切り替えます。

オーディオリセット

オーディオメニューのすべての設定を工場出荷時のプリセット値にリセットしてください。

7.2.4. 設定1メニュー

🖼️ 画像メニュー	スイッチオン状態	最後のステータス
🖥️ 画面メニュー	パネルセーブ	アクション
🔊 オーディオメニュー	RS232ルーティング	RS232
☰ 設定1	ソース起動	アクション
☰ 設定2	WOL	オフ
☰ アドバンスドオプションメニュー	ライトセンサー	オフ
	設定1をリセット	アクション
	工場出荷時の設定にリセット	アクション

スイッチオン状態

次回電源コードを接続したときのディスプレイの状態を選択してください。

- {電源オフ}- 電源コードを接続しても、ディスプレイはオフのままになります。
- {強制オン}- 電源コードを接続すると、ディスプレイがオンになります。
- {最後のステータス}- 電源コードを接続すると、ディスプレイは直前の電源状態（オン／オフ／スタンバイモード）に復帰します。

パネルセーブ

パネルセーブ機能を有効または無効にし、「残像」または「焼き付き」のリスクを軽減してください。

- {輝度 (画像)}-{オン}を選択すると、画像の輝度が適切なレベルに低下します。選択した場合、画像メニューの輝度設定は使用できなくなります。
- {ピクセルシフト}- ディスプレイが画像サイズをわずかに拡大し、ピクセルの位置を4方向（上、下、左、右）にずらすための時間間隔（{自動} / {10 ~ 900} 秒 / {オフ}）を選択してください。ピクセルシフトを有効にすると、画面メニューの水平位置、垂直位置、およびズームモードが無効になります。

RS232 ルーティング

ネットワーク制御ポートを選択してください。

オプションは次のとおりです：{RS232} / {LAN -> RS232}。

ソース起動

起動時にソースを選択するには、この項目を選択してください。

- {入力}- 起動時に入力ソースを選択します。
- {再生一覧}- メディアプレーヤー、ブラウザーの再生一覧インデックスを選択します。0 は再生一覧がないことを示します。

WOL (Wake on LAN)

ネットワークメッセージによってディスプレイをオンにできるようにします。

注：この機能はパワーセーブモード 1 でのみ動作します。

ライトセンサー

ライトセンサー機能のオンまたはオフを選択してください。

設定1をリセット

設定メニューのすべての設定を工場出荷時の初期値にリセットしてください。

工場出荷時の設定にリセット

画像メニュー、画面メニュー、オーディオメニュー、設定、およびアドバンスドオプションメニューのすべてのカスタム設定を工場出荷時の初期値にリセットしてください。

7.2.5. 設定2メニュー

🖼️ 画像メニュー	OSDをオフにする	45
🖥️ 画面メニュー	OSD 水平位置	50
🔊 オーディオメニュー	OSD 垂直位置	50
☰ 設定1	OSDの透明度	オフ
☰ 設定2	回転	横長
☰ アドバンスドオプションメニュー	信号のない画面	黒
	インフォメーション OSD	10
	ロゴ	オン
	モニターID	アクション
	温度ステータス	81.00°C 177.80..

🖼️ 画像メニュー	モニターインフォメーション	アクション
🖥️ 画面メニュー	HDMI バージョン	1.4
🔊 オーディオメニュー	設定2をリセット	アクション
☰ 設定1		
☰ 設定2		
☰ アドバンスドオプションメニュー		

OSD をオフにする

OSD（オンスクリーンディスプレイ）メニューが画面メニューに表示される時間を設定してください。

設定可能な範囲は {5 ~ 120} 秒です。

OSD 水平位置

OSD メニューの水平位置を調整してください。

OSD 垂直位置

OSD メニューの垂直位置を調整します。

OSD の透明度

OSD の透明度を調整します。

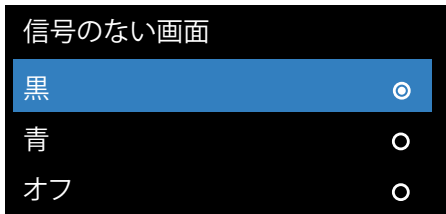
- { オフ } - 透明度オフ。
- {1-100} - 透明度レベル 1-100。

回転

画面メニューを横長 / 縦長モードに変更してください。

注意：ディスプレイ（PD）を反時計回りに 90 度回転させてください。

信号のない画面



黒: 信号が検出されない場合、背景色を黒に変更します。

青: 信号が検出されない場合、背景色を青に変更します。

オフ: 信号なしダイアログをオフにし、背景色を黒に変更します。

インフォメーション OSD

画面メニュー上のインフォメーション OSD を表示する時間を設定します。オプションは { オフ、1 ~ 60 } 秒です。

ロゴ

ディスプレイの電源をオンにするときに、ロゴの画像メニューを有効または無効にするかを選択してください。

オプションは次のとおりです：

- { オフ }
- { オン }
- { ユーザー }

注意： { ユーザー } に設定した場合、ユーザーロゴに対して回転機能はサポートされません。

モニター ID

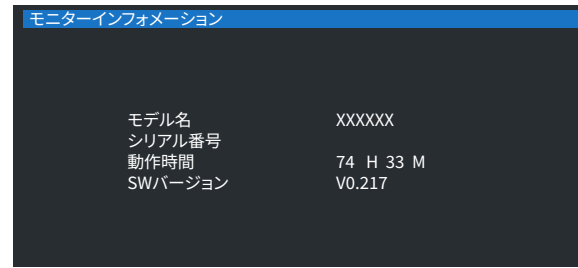
ネットワーク接続を介してディスプレイを制御するための ID 番号を設定してください。複数のディスプレイが接続されている場合、各ディスプレイには一意の ID 番号が必要です。モニター ID 番号の範囲は 1 ~ 255 です。

温度ステータス

この機能により、いつでもディスプレイの温度状態を確認できます。

モニターインフォメーション

型番、シリアル番号、動作時間、ソフトウェアバージョンなど、ディスプレイに関する情報を表示します。



HDMI バージョン

HDMI バージョンを 1.2、1.4、または 2.0 に設定します。

注：1.HDMI 入力ソースのみ。

2.32 インチモデルはバージョン 1.2 のみをサポートします。

設定 2 をリセット

設定 2 メニューのすべての設定を工場出荷時の初期値にリセットします。

7.2.6. アドバンスドオプションメニュー

画像メニュー	リモコンロック	アクション
画面メニュー	電源LEDライト	オン
オーディオメニュー	キーボード制御	アクション
設定 1	タイトル	アクション
設定 2	オフタイマー	オフ
アドバンスドオプションメニュー	スケジュール	アクション
	単線HDMI	オフ
	単線HDMI 電源オフ	オフ
	オートサーチ	オフ
	パワーセーブモード	Mode1

リモコンロック

ネットワーク接続で複数のディスプレイが接続されている場合のリモコンの動作モードを選択してください。

- { ロック解除 } - すべてのディスプレイをリモコンで正常に操作できます。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源および音量以外すべてロック } - 本ディスプレイのリモコン機能をロックします。ロックを解除するには、リモコンの INFO ボタンを 6 (6) 秒間押し続けてください。

電源 LED ライト

電源表示 LED のオンまたはオフを設定してください。

通常使用の場合は { オン } を選択してください。

キーボード制御

ディスプレイのキーボード（制御ボタン）機能を有効または無効にするかを選択してください。

- { ロック解除 } - キーボード機能を有効にします。
- { すべてロック } / { 音量以外すべてロック } / { 電源以外すべてロック } / { 電源および音量以外すべてロック } - キーボード機能を無効にします。

注：「キーボード制御ロックモード」この機能は、すべてのキーボード制御機能へのアクセスを完全に無効にします。キーボード制御ロックを有効または無効にするには、[VOL+] ボタンと [UP] ボタンの両方を同時に押し、3 秒以上連続して押し続けてください。

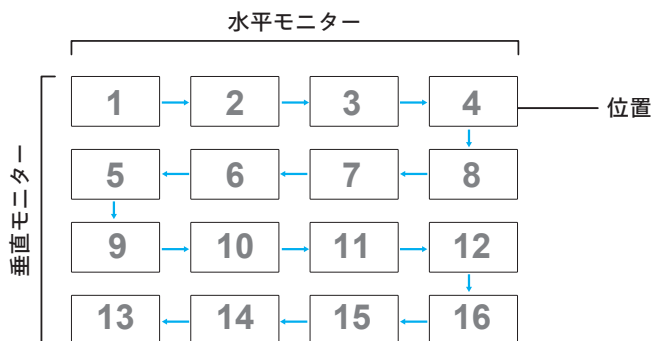
タイル

この機能を使用すると、最大 16 台の本ディスプレイ（垂直方向に最大 4 台、水平方向に最大 4 台）で構成される単一の画面マトリックス（ビデオウォール）を作成できます。この機能にはデジチェーン接続が必要です。

タイル	
水平モニター	1
垂直モニター	1
位置	1
フレームコンプトップ	0
フレームコンプ下部	0
フレームコンプ左	0
フレームコンプ右	0
フレーム補正	☐
有効	☐
パワーオンディレイ	自動
輝度(画像)	通常

戻る

例：4 x 4 の画面マトリックス（16 台のディスプレイ）
 水平モニター = 4 台のディスプレイ
 垂直モニター = 4 台のディスプレイ



- {水平モニター}- 水平方向のディスプレイ数を選択します。
- {垂直モニター}- 垂直方向のディスプレイ数を選択します。
- {位置}- 画面マトリックス内の本ディスプレイの位置を選択します。
- {フレームコンプトップ}- 上部フレーム補正のピクセル数を設定します。
- {フレームコンプ下部}- 下部フレーム補正のピクセル数を設定します。
- {フレームコンプ左}- 左フレーム補正のピクセル数を設定します。
- {フレームコンプ右}- 右フレームのピクセル数を設定します。
- {フレーム補正}- フレーム補正機能をオンまたはオフにするかを選択します。{はい}を選択した場合、画像を正確に表示するために、ディスプレイのベゼル幅を補正するように画像が調整されます。
- {有効}- タイル機能を有効または無効にするかを選択します。有効にした場合、ディスプレイは{水平モニター}、{垂直モニター}、{位置}、および{フレーム補正}の設定を適用します。

- {パワーオンディレイ}- 電源オンの遅延時間（秒単位）を設定します。デフォルトオプションの{自動}では、複数のディスプレイが接続されている場合、ID 番号に従って各ディスプレイを順次電源オンにします。オプションは次のとおりです：{オフ / 自動 / 2-255}。

- 輝度（画像）：{Normal}/{ACS}

{Normal}：OSD の輝度値（バックライト）を適用します。

{ACS}：MIC ツールによって調整された輝度値（バックライト）を適用します。調整前のデフォルト値は、OSD の輝度値と同じです（例：70）。

一部の輝度（バックライト）設定は、OSD では調整できません。画像メニューのバックライト設定の優先順位を参照してください。

オフタイマー

指定した時間内にディスプレイが自動的にオフになり、スタンバイモードに移行するように設定します。

オプションは次のとおりです：現在時刻から { オフ、1 ~ 24 } 小时。

注意： 「オフタイマー」が作動すると、「スケジュール」の設定は無効になります。

スケジュール

ユーザーがディスプレイの動作スケジュールを最大 7 つまで設定できるようにします。

スケジュール	
スケジュール一覧	1
有効	☐
開始時間	
終了時間	
入力	
再生一覧	
曜日	
毎週	☐
輝度(画像)	オフ

戻る 保存

- {スケジュール一覧}- 編集するスケジュールを 1 ~ 7 から選択します。
- {有効}- 選択したスケジュールを有効 / 無効にします。他のスケジュールと時間が競合する場合、または開始時間 / 終了時間、入力ソースが空の場合、ユーザーはこのスケジュールを有効にできません。
- {開始時間}- 開始時間を設定します。
- {終了時間}- 終了時間を設定します。
- {入力}- 入力ソースを設定します。システムは開始時間になると自動的に選択したソースに切り替わります。
- {再生一覧}- メディアプレーヤー、PDF プレーヤー、ブラウザの各ソースに対して、再生一覧 1 ~ 7 を設定します。
- {曜日}- 日曜日、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、土曜日を設定します。
- {毎週}- ライフサイクルを設定します。
- {輝度（画像）}- スケジュールソースの輝度を設定します。

- {戻る}-キャンセルし、スケジュールデータを変更しません。
- {保存}-スケジュールデータを保存します。

単線 HDMI

HDMI CEC を有効または無効にします。

単線 HDMI 電源オフ

ユーザーが電源ボタンを押すことで、複数のデバイスをスタンバイモードに設定できるようにします。この機能は、HDMI CEC が有効な場合にのみ使用できます。

オートサーチ

この機能により、システムは利用可能な信号ソースを自動的に検出し、表示します。

- {オフ}-信号が接続されたら、手動でのみ選択できます。

選択した入力に信号がない場合は、各オプションの検索順序に従って画像が自動的に表示されるようにシステムを設定してください。

オプションは次のとおりです:{すべて}/{フェールオーバー}

- {すべて}-HDMI1 -> HDMI2 -> Type-C -> メディアプレーヤー -> ブラウザー -> PDF プレーヤー -> カスタム -> 画面共有
- {フェールオーバー}-信号が接続されたら、手動でのみ選択できます。
 - デフォルト:HDMI1

パワーセーブモード

モード 1 [TCP オフ、WOL オン、自動オフ]

モード 3 [TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフ]

モード 4 [TCP オン、WOL オフ、自動オン / オフなし]

パワーセーブモード	RCU 電源ボタンオフ	信号なし	WOL	Android (ARM)
モード 1	DC オフ	DC オフ	V	ARM オフ
モード 3	バックライトオフ	バックライト オフ	X	ARM オン
モード 4	バックライトオフ	バックライトを常にオンにし、信号なしを表示する	X	ARM オン

次のテーブルは、電源モードごとの Android ボードのアクションを示しています。

電源モード	モード 1	モード 3、モード 4
DC オフ	システムのシャットダウン	1. メディアプレーヤー、ブラウザー、および PDF プレーヤーが終了します。 2. Android システムがデフォルトの黒のランチャーに切り替わります。
DC オン	システムの起動	Android システムが再起動します。ロゴの設定がオフの場合、システムは再起動せずに直接バックライトをオンにします。

エコモード

エコモードにより、ダイナミックバックライトコントロールの有効と無効を切り替えます。エコモードが有効の場合、全体的な画像パフォーマンスが向上し、消費電力が低減されます。

エコモードが無効の場合、画面メニューの輝度が最大になります。

アドバンスドオプションのリセット

アドバンスドオプションメニューで、{Date and Time} を除くすべての設定を工場出荷時のプリセット値にリセットします。

8. サポートされているメディアフォーマット

USB マルチメディアコーデックフォーマット

番号	動画			
	ファイル	コーデック		
	拡張子	ビデオ	オーディオメニュー	最大送信レート
1	.3gp/3GP2	H.263	Mpeg1/2 Layer2/3、AAC-LC、PCM	仕様：最大解像度：SQCIF(128x96)、QCIF(176x144)、CIF(352x288)、20Mbps
2		H.264		仕様：最大解像度：3840x2160@60fps、100Mbps
3	.avi	H.264	Mpeg1/2 Layer2/3、AAC-LC、PCM	仕様：最大解像度：3840x2160@60fps、100Mbps
4		MJPEG	Mpeg1 Layer3、PCM	仕様：最大解像度：960x520@60fps、4500kbps
5	.dat	mpeg1/2	Mpeg1/2 Layer 2/3	仕様：最大解像度：1920*1080@60fps
6	.flv	H.264	Mpeg1/2 Layer2/3、AAC-LC、PCM	仕様：最大解像度：3840x2160@60fps、100Mbps
7	.mkv	Mpeg-4	Mpeg1/2 Layer 2、AAC-LC、FLAC、Vorbis、Opus	仕様：最大解像度：1920*1080@60fps
8		H.264		仕様：最大解像度：3840x2160@60fps、100Mbps
9	.mov	Mpeg-4	Mpeg1/2 Layer2/3、AAC-LC、PCM	仕様：最大解像度：1920*1080@60fps
10		H.264		仕様：最大解像度：3840x2160@60fps、100Mbps
11	.mp4	Mpeg-4	Mpeg1/2 Layer2/3、AAC-LC、PCM	仕様：最大解像度：1920*1080@60fps
12		H.264		仕様：最大解像度：3840x2160@60fps、100Mbps
13		H.265		仕様：最大解像度：3840x2160@60fps、80Mbps
14	.VOB	mpeg1/2	Mpeg1/2 Layer2/3	仕様：最大解像度：1920*1080@60fps
15	.mpg/.mpeg	mpeg1/2	Mpeg1/2 Layer2/3、AAC-LC、PCM	仕様：最大解像度：1920*1080@60fps
16	.webm	vp9	opus、Vorbis	仕様：最大解像度：7680x4320@30fps、30Mbps
17		vp8		仕様：最大解像度：1920*1080@60fps、20Mbps
18		H.265		仕様：最大解像度：3840x2160@60fps、80Mbps
19	.ts	mpeg1/2	Mpeg1/2 Layer2/3、AAC-LC	仕様：最大解像度：1920*1080@60fps
20		H.264		仕様：最大解像度：3840x2160@60fps、100Mbps
オーディオメニュー				
番号	ファイル	フォーマット	オーディオコーデック	対応範囲
1	.aac/.m4a	AAC,M4A	AAC-LC	サンプルレート：8KHz~44KHz ビットレート：na
2	.mpg/ .mpeg	MP2,MP3	MPEG1/2 オーディオメニュー Layer2/3	サンプルレート：16KHz~48KHz ビットレート：48kbps~320Kbps、CBR および VBR
3	.flac	FLAC	FLAC	サンプルレート：16KHz~44KHz ビットレート：na
4	.ape	Monkey's Audio	/	/
5	.mp3	MPEG オーディオ メニュー Layer3	MPEG1/2 layer3	サンプルレート：16K~48KHz ビットレート：8~320Kbps
6	.ogg	Vorbis	Vorbis	サンプルレート：16KHz~44KHz ビットレート：na
7	.mid	MIDI	MIDI	サンプルレート：na ビットレート：na
8	.wav	Wave	PCM	サンプルレート：8KHz~48KHz ビットレート：na

写真				
番号	ファイル	フォーマット	対応範囲	備考
1	.jpeg/jpg	JPEG	32x32 ピクセル～ 16000x16000 ピクセル	YUV400/420/422/444 対応
2	.png	PNG	/	/
3	.bmp	BMP	/	/
4	.gif	GIF	/	/

注記：

- コンテンツの標準ビットレート / フレームレートが、上記のテーブルに記載されている対応フレーム / 秒を超えている場合、音声やビデオが正常に動作しないことがあります。
- ビットレートまたはフレームレートが上記のテーブルで指定された値を超えるビデオコンテンツは、再生中に映像が途切れる原因となる場合があります。

9. 入力モード

項目	解像度	リフレッシュレート (Hz)	水平周波数 (KHz)	ピクセルクロック (MHz)	標準タイプ
1	800x600	60	37.9	40.000	VESA ガイドライン VG900602
2	800x600	72	48.1	50.000	VESA 標準 VS900603A
3	800x600	75	46.9	49.500	VESA 標準 VDMT75HZ
4	800x600	85	53.7	56.250	VESA 標準 VDMTPROP
5	848x480	60	31.0	33.750	VESA 標準 AddDMT
6	1024x768	60	48.4	65.000	VESA ガイドライン VG901101A
7	1024x768	70	56.5	75.000	VESA 標準 VS910801-2
8	1024x768	75	60.0	78.750	VESA 標準 VDMT75HZ
9	1024x768	85	68.7	94.500	VESA 標準 VDMTPROP
10	1152x864	75	67.5	108.000	VESA 標準 VDMTPROP - MAC
11	1280x960	60	60.0	108.000	VESA 標準 VDMTPROP
12	1280x960	85	85.9	148.500	VESA 標準 VDMTPROP
13	1280x1024	60	64.0	108.000	VESA 標準 VDMTREV
14	1280x1024	75	80.0	135.000	VESA 標準 VDMT75HZ
15	1280x1024	85	91.1	157.500	VESA 標準 VDMTPROP
16	1360x768	60	47.7	85.500	VESA 標準 AddDMT
17	1600x1200	60	75.0	162.000	VESA 標準 VDMTREV
18	1600x1200	65	81.3	175.500	VESA 標準 VDMTREV
19	1600x1200	70	87.5	189.000	VESA 標準 VDMTREV
20	1600x1200	75	93.8	202.500	VESA 標準 VDMTREV
21	1600x1200	85	106.3	229.500	VESA 標準 VDMTREV
22	1792x1344	60	83.64	204.750	VESA 標準 VDMTREV
23	1792x1344	75	106.27	261.000	VESA 標準 VDMTREV
24	1856x1392	60	86.33	218.250	VESA 標準 VDMTREV
25	1856x1392	75	112.50	288.000	VESA 標準 VDMTREV
26	1920x1080	60	67.5	148.500	VESA 標準 VDMTREV
27	720x400	70			DOS

4K2K

項目	解像度	水平周波数 (KHz)	V.Freq. (Hz)
1	3840x2160	53.946	23.900
2	3840x2160	54	24.000
3	3840x2160	56.25	25.000
4	3840x2160	67.432	29.900
5	3840x2160	67.5	30.000
6	4096x2160	54	24.000
7	3840x2160	135	60.000

ビデオタイミングサポート (HDMI)

項目	モード	解像度	コメント
1	60Hz	480p	
2		720p	
3		1080p	
4		4Kx2K	
5	50Hz	576p	
6		720p	
7		1080p	
8		4Kx2K	

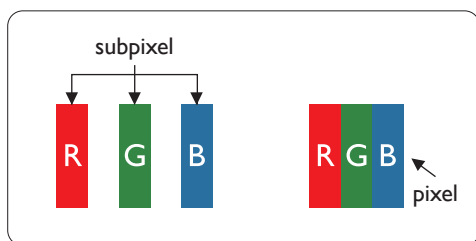
- PC のテキスト品質は、UHD 4K/2K モード（3840 x 2160、60Hz）で最適になります。
- PC の表示画面は、メーカー（およびご使用の Windows のバージョン）によって異なる場合があります。
- PC をディスプレイに接続する方法については、PC の説明書をご確認ください。
- 垂直および水平の周波数選択モードがある場合は、60Hz（垂直）および 31.5KHz（水平）を選択してください。場合によっては、PC の電源がオフになったとき（または PC が切断されたとき）に、画面に異常な信号（縞模様など）が表示されることがあります。その場合は、[INPUT] ボタンを押してビデオモードに入ってください。また、PC が接続されていることを確認してください。
- ディスプレイ設定テーブルは IBM/VESA 規格に準拠しており、アナログ入力に基づいています。
- 各モードにおける垂直周波数の最適なタイミングは 60Hz です。
- 解像度 3840x2160 50/60Hz には、HDMI 認証ケーブル（Premium High Speed HDMI Cables）が必要です。

10. ピクセル欠陥ポリシー

当社は最高品質の製品をお届けできるよう努めており、業界で最も先進的な製造工程の一部を使用するとともに、厳格な品質管理を実施しています。しかしながら、プラズマディスプレイおよび LCD ディスプレイに使用される PDP/TFT パネルにおけるピクセルまたはサブピクセルの欠陥は、避けられない場合があります。すべてのパネルにピクセル欠陥がないことを保証できるメーカーはありませんが、フィリップスのプロフェッショナルディスプレイでは、許容できない数の欠陥があるプラズマディスプレイおよび LCD ディスプレイについて、お客様の地域の保証条件に従い、保証期間中に修理を行うことを保証いたします。

本書では、各種ピクセル欠陥について説明し、液晶画面における許容欠陥レベルを定義しています。保証に基づく修理の対象となるためには、参照テーブルに示す通り、ピクセル欠陥の数が一定レベルを超えている必要があります。液晶画面が仕様範囲内である場合、保証交換／クレームバックはお断りいたします。さらに、特定の種類または組み合わせのピクセル欠陥は他よりも目立ちやすいため、フィリップスではそれらに対してさらに厳しい品質基準を設定しています。

10.1. ピクセルとサブピクセル



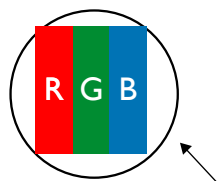
ピクセル（画素）は、赤、緑、青のプライマリの色を持つ3つのサブピクセルで構成されています。多数のピクセルが集まって画像を形成します。あるピクセルのすべてのサブピクセルが点灯すると、3つの色付きサブピクセルが合わさって1つの白ピクセルとして表示されます。すべてが消灯すると、3つの色付きサブピクセルが合わさって1つの黒いピクセルとして表示されます。点灯と消灯のサブピクセルのその他の組み合わせにより、他の色の単一ピクセルとして表示されます。

10.2. ピクセル欠陥の種類+ドットの定義

ピクセルおよびサブピクセルの欠陥は、画面上にさまざまな形で現れます。ピクセル欠陥には3つのカテゴリがあり、各カテゴリ内に複数の種類のサブピクセル欠陥が存在します。

ドットの定義 = 欠陥「ドット」とは何か：

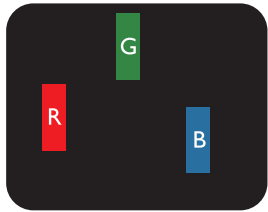
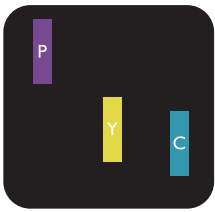
1つ以上の欠陥のある隣接するサブピクセルは、1つの「ドット」として定義されます。欠陥ドットを定義する際、欠陥のあるサブピクセルの数は関係ありません。つまり、欠陥ドットは、暗い状態または点灯した状態の1つ、2つ、あるいは3つの欠陥サブピクセルによって構成される場合があります。



1 ドット = 1 ピクセル。赤、緑、青の3つのサブピクセルで構成されます。

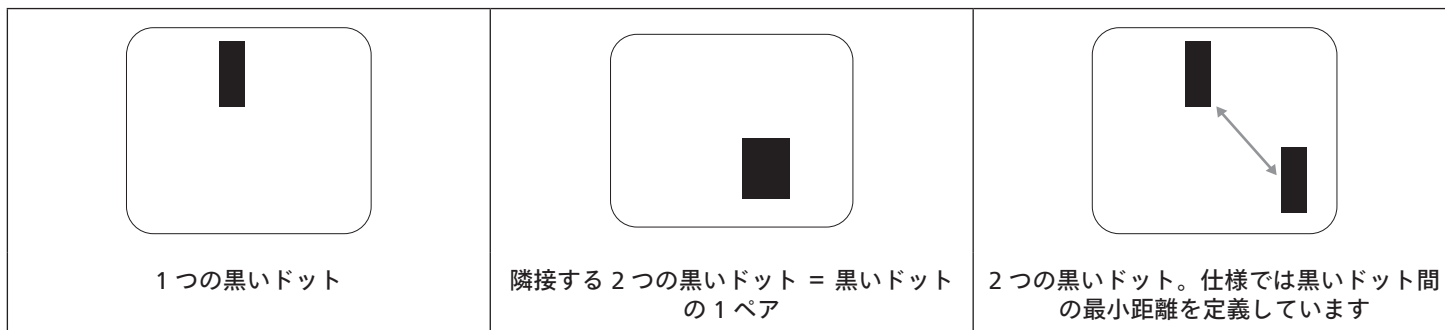
10.3. 輝点欠陥

輝点欠陥は、常に点灯している、または「オン」になっているピクセルやサブピクセルとして現れます。以下に輝点欠陥の例を示します。

 点灯している赤、緑、または青のサブピクセル1つ	 隣接して点灯しているサブピクセル2つ： 赤 + 青 = 紫 赤 + 緑 = 黄 緑 + 青 = シアン（水色）	 隣接して点灯しているサブピクセル3つ （白ピクセル1つ）
--	--	---

10.4. 黒点欠陥

黒点欠陥は、常に暗い、または「オフ」になっているピクセルやサブピクセルとして現れます。以下に黒点欠陥の例を示します。



10.5. ピクセル欠陥の近接性

同種のピクセルおよびサブピクセルの欠陥が互いに近接している場合、より目立つ可能性があるため、フィリップスはピクセル欠陥の近接性に関する許容値も規定しています。以下のテーブルで、次の仕様を確認できます：

- 許容される隣接する黒いドットの数 = (隣接する黒いドット = 黒いドットの1ペア)
- 黒いドット間の最小距離
- すべての欠陥ドットの合計数

10.6. ピクセル欠陥の許容値

保証期間中にピクセル欠陥による修理の対象となるためには、フィリップスのプラズマ / LCD ディスプレイの PDP / TFT パネルにおいて、以下のテーブルに記載された許容値を超えるピクセルまたはサブピクセルの欠陥が存在する必要があります。

輝点効果	許容レベル
1つの点灯したサブピクセル	2
黒点効果	許容レベル
1つの暗いサブピクセル	10
全種類のドット欠陥の合計	12

注：* 隣接する1つまたは2つのサブピクセル欠陥 = 1つのドット欠陥

10.7. ムラ

一部の液晶パネルには、暗い斑点や斑（まだら）状の模様が現れることがあります。これは業界では「ムラ」として知られており、「不均一」を意味する日本語です。特定の条件下で画面の均一性が損なわれ、不規則なパターンや領域が現れる状態を指す用語として使用されます。ムラは液晶配向層の劣化が原因であり、主に高温環境下での長期間の稼働によって発生します。これは業界全体で共通する現象であり、ムラは修理することができません。また、当社の保証条件の対象外となります。

ムラはLCD技術の導入当初から存在する現象です。画面の大型化や24時間365日の連続稼働が進み、多くのディスプレイが低照度の条件下で運用されている現在、これらの要因が重なり、ムラがディスプレイに影響を及ぼす可能性が高まっています。

ムラの確認方法

ムラにはさまざまな症状があり、その原因も複数存在します。そのうちのいくつかを以下に示します。

- 結晶マトリックス内の不純物または異物
- 製造時におけるLCDマトリックスの不均一な分布
- バックライトの輝度分布の不均一
- パネル組み立てによる応力
- 液晶セル内の欠陥
- 熱による応力 - 長時間にわたる高温での動作

ムラの回避方法

ムラを常に完全に排除できることを保証することはできませんが、一般的には以下の方法によりムラの発生を最小限に抑えることができます。

- バックライトの輝度を下げる
- スクリーンセーバーを使用する
- 本機周辺の環境温度を下げる

11. クリーニングとトラブルシューティング

11.1. クリーニング

ディスプレイ使用時の注意

- 手、顔、または物をディスプレイの通気孔に近づけないでください。排気が高温のため、通気孔から排出される空気によりディスプレイ上部は通常非常に高温になります。体の一部を近づけすぎると、やけどやけがをするおそれがあります。ディスプレイの上部付近に物を置くと、物およびディスプレイ自体に熱による損傷が生じるおそれがあります。
- モニターを移動する前に、必ずすべてのケーブルを取り外してください。ケーブルを接続したままモニターを移動すると、ケーブルが破損し、火災や感電の原因となるおそれがあります。
- 清掃またはメンテナンス作業を行う前に、安全上の注意として必ず壁面コンセントから電源プラグを抜いてください。

フロントパネルのクリーニング手順

- ディスプレイの前面には特殊な処理が施されています。クリーニングクロスまたは柔らかく毛羽立ちのない布のみを使用して、表面を優しく拭いてください。
- 表面が汚れた場合は、柔らかく毛羽立ちのない布を薄めた中性洗剤に浸し、余分な液が残らないようしっかりと絞ってください。その布でディスプレイの表面を拭いて汚れを取り除き、最後に同様の乾いた布で水分を拭き取ってください。
- 指や硬い物など、いかなるものでもパネルの表面を傷つけたり叩いたりしないでください。
- スプレー、溶剤、シンナーなどの揮発性物質を使用しないでください。

キャビネットのクリーニング手順

- キャビネットが汚れた場合は、柔らかい乾いた布で拭いてください。
- キャビネットの汚れがひどい場合は、毛羽立ちのない布を薄めた中性洗剤に浸し、水分がなるべく残らないようしっかりと絞ってからキャビネットを拭いてください。その後、別の乾いた布で表面が乾くまで拭き取ってください。
- プラスチック部品の清掃に油分を含む溶液を使用しないでください。そのような製品はプラスチック部品を損傷させ、保証を無効にする原因となります。
- 水や洗剤がディスプレイの表面に触れないようにしてください。水や湿気が本体内部に入ると、動作不良や感電の危険が生じるおそれがあります。
- 指や硬い物でキャビネットを傷つけたり、叩いたりしないでください。
- キャビネットにスプレー、溶剤、シンナーなどの揮発性物質を使用しないでください。
- ゴムやPVC製の物を長時間キャビネットの近くに置かないでください。

11.2. トラブルシューティング

症状	考えられる原因	対処方法
画像メニューが表示されない	1. 電源コードが接続されていません。 2. ディスプレイ背面の主電源スイッチがオンになっていません。 3. 選択した入力に接続がありません。 4. ディスプレイがスタンバイモードになっています。	1. 電源コードを接続してください。 2. 主電源スイッチがオンになっていることを確認してください。 3. 信号ケーブルをディスプレイに接続してください。
ディスプレイに干渉が表示される、または異音が聞こえる	周囲の電気機器または蛍光灯が原因です。	干渉が軽減されるかどうかを確認するため、ディスプレイを別の場所に移動してください。
色 (彩度) が異常です	信号ケーブルが正しく接続されていません。	信号ケーブルがディスプレイの背面にしっかりと接続されていることを確認してください。
画像が異常なパターンで歪んでいます	1. 信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 入力信号がディスプレイの対応能力を超えています。	1. 信号ケーブルがしっかりと接続されていることを確認してください。 2. 映像信号源がディスプレイの対応範囲を超えていないか確認してください。本ディスプレイの仕様セクションで仕様を確認してください。
表示画像が画面のフルサイズに表示されません	1. ズームモードが正しく設定されていません。 2. スキャンモードがアンダースキャンに誤って設定されている可能性があります。 3. 画像が画面サイズを超える場合は、スキャンモードをアンダースキャンに設定する必要があります。	画面メニューのズームモードまたはCUSTOM ZOOM 機能を使用して、ディスプレイのジオメトリおよび時間周波数パラメータを微調整してください。
音は聞こえますが、画像が表示されません	ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。	映像入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認してください。
画像は見えるが音声がか聞こえない	1. ソース信号ケーブルが正しく接続されていません。 2. 音量がすべて下げられています。 3. { ミュート } がオンになっています。 4. 外部スピーカーが接続されていません。	1. 映像入力と音声入力の両方が正しく接続されていることを確認してください。 2. 音声を出力するには、[+] ボタンまたは [ー] ボタンを押してください。 3. [静音] ボタンを使用して消音オフに切り替えてください。 4. 外部スピーカーを接続し、音量を適切なレベルに調整してください。
一部の画像要素が点灯しない	ディスプレイの一部のピクセルがオフになっています。	本ディスプレイは極めて高精度な技術を用いて設計されていますが、場合によってはディスプレイの一部のピクセルが表示されないことがあります。これは故障ではありません。
ディスプレイの電源をオフにした後でも、残像がディスプレイに表示されることがあります。(静止画の例には、ロゴ、ビデオゲーム、コンピューター画像、および 4:3 ノーマルモードで表示される画像が含まれます)	静止画像が過度に長い時間表示された場合	静止画像を長時間表示しないでください。ディスプレイに永久的な残像が残る原因となります。

リモコンを使用して、すべてのモニターを同時に、または個別に制御するためのメニュー設定はどのように行いますか？	IR ケーブルによるデイジーチェーン接続	1. 最初のディスプレイを OSD（アドバンスドオプションメニュー / リモコンロック項目）で「プライマリ」に設定し、その他のディスプレイを「セカンダリ」に設定します。 2. 設定 OSD がディスプレイの左上に表示されます。（消えた場合は MENU ボタンを切り替えると再表示されます） 3. デフォルト設定：ID NO: 0、GP NO: 0。この設定により、IR ですべてのディスプレイを制御できます。 「+」、「-」で「ID NO」を変更し、「モニター ID」によって単一のディスプレイを制御できます。 「UP」、「DOWN」で「GP NO」を変更し、「グループ ID」によって複数のディスプレイを制御できます。 * 最初のディスプレイは常に IR によって制御されます。
リモコンは正常に動作していますか？	デイジーチェーン：IR ケーブルの接続なし	設定は不要です。IR ケーブルで接続し、IR で制御してください。 * これにより同期ずれ現象が発生する場合があります。

12. 技術仕様

ディスプレイ：

項目	仕様		
	43BDL4150Q	50BDL4150Q	55BDL4150Q
画面サイズ（有効表示領域）	108 cm / 42.5 インチ	125.7 cm / 49.5 インチ	138.7 cm / 54.6 インチ
アスペクト比	16:9	16:9	16:9
ピクセル数	3840 (H) x 2160 (V)	3840 (H) x 2160 (V)	3840 (H) x 2160 (V)
ピクセルピッチ	0.2451 (H) x 0.2451 (V) [mm]	0.2854 (H) x 0.2854 (V) [mm]	0.315 (水平) x 0.315 (垂直) [mm]
表示色数	8 ビット +FRC、10.7 億色	8 ビット +FRC、10.7 億色	8 ビット +FRC、10.7 億色
輝度（画像）（標準値）	500 cd/m2	500 cd/m2	500 cd/m2
コントラスト比（標準値）	1200:1	4000:1	1200:1
視野角	178 度	178 度	178 度

入出力端子：

項目		仕様
スピーカー出力	内蔵スピーカー	10W (L) + 10W (R) [RMS]/8 Ω 82 dB/W/M/160 Hz - 13 KHz
オーディオ出力	3.5mm フォーンジャック x 1	0.5V [rms] (通常) / 2 チャンネル (L+R)
RS232	2.5mm フォーンジャック x 2	RS232 入力 / RS232 出力
RJ-45	RJ45 ポートジャック x 1 (8 ピン)	10/100 LAN ポート
HDMI 入力	HDMI ジャック x2 (タイプ A) (19 ピン)	デジタル RGB: TMDS (ビデオ + オーディオメニュー) 最大: ビデオ - 720p、1080p、3840 x 2160/60 Hz オーディオメニュー - 48 KHz / 2 チャンネル (L+R) LPCM のみ対応
IR 入力 / 出力	3.5mm x 2	IR パススルーまたは IR デイジーチェーン
USB 入力	USB3.0 タイプ A x2	USB 3.0、マルチメディア再生およびサービスポート
USB3.1 C	Type-C	5V/4.5W
拡張スロット	USB 3.0 x 1	CRD22 用予備
SD カード	microSD カード	1TB まで対応

一般：

項目	仕様		
	43BDL4150Q	50BDL4150Q	55BDL4150Q
電源入力	100 - 240V~, 50/60Hz	100 - 240V~, 50/60Hz	100 - 240V~, 50/60Hz
消費電力（最大）	119 W	107 W	175 W
消費電力（標準）	66 W	65 W	104 W
消費電力（スタンバイモードおよびオフモード）	<0.5 W	<0.5 W	<0.5 W
AC スイッチオフモード (W)	0 W	0 W	0 W
WiFi+ Bluetooth 機能	CRD22: WiFi 6 および Bluetooth V5.2 に対応		
寸法（スタンドなし）[幅 x 高さ x 奥行]	973.0 x 561.2 x 63.5 mm	1128.4 x 649.0 x 63.5 mm	1241.8 x 712.6 x 64.0 mm
重量（スタンドなし）	11.15 Kg	13.85 Kg	17.0 Kg
総重量（スタンドなし）	14.10 Kg	17.47 Kg	20.9 Kg

環境条件：

項目		仕様
温度	動作時	0 - 40° C
	保管時	-20 - 60° C
湿度	動作時	20 - 80% RH（結露なきこと）
	保管時	5 - 95% RH（結露なきこと）
高度	動作時	0 - 5,000 m
	保管 / 輸送時	0 - 9,000 m

フィリップスプロフェッショナルディスプレイの保証ポリシー

このフィリップス製品をご購入いただき、ありがとうございます。フィリップス製品は高い基準に基づいて設計および製造されており、高品質な性能、操作性の良さ、そして設置の容易さを提供します。ご使用中に何らかの問題が発生した場合は、まずユーザーマニュアル、またはウェブサイトのサポートセクションに記載されている情報をご参照ください。そこでは（製品の種類に応じて）、ダウンロード可能なユーザーマニュアル、よくある質問、説明ビデオ、またはサポートフォーラムをご利用いただけます。

限定保証

万が一、本製品にサービスが必要となった場合、製品がユーザーマニュアルに従って使用されていた（例：意図された環境での使用）ことを条件として、保証期間内であればフィリップス製品のサービスを無料で手配いたします。

これらの製品カテゴリーについては、フィリップスのパートナー企業である MMD Hong Kong Holding Limited が本製品の保証者となります。製品に付属の書類をご確認ください。

保証の対象者は？

保証期間は、製品の初回購入日から開始されます。保証サービスを受けるには、購入証明を提示する必要があります。有効な販売領収書、または製品を購入したことを示すその他の有効な書類が購入証明とみなされます。

保証の対象範囲は？

保証期間内に材料および / または製造上の欠陥による不具合が発生した場合、無料のサービスを手配いたします。修理が不可能または商業的に妥当でない場合、同等の機能を持つ新品または同等の再生品と交換する場合があります。交換は当社の裁量により提供され、保証は製品の初回購入日から継続されます。修理済みおよび交換済みの部品を含むすべて（All）の部品は、元の保証期間中のみ保証の対象となることにご注意ください。

保証の対象外となる事項：本保証は以下の項目をカバーしません。

- 結果的損害（データの損失や収入の損失を含みますが、これらに限定されません）、および定期メンテナンス、ファームウェアアップデートのインストール、データの保存または復元など、お客様ご自身で行われた作業に対する補償（一部の州では付随的損害または結果的損害の除外を認めていない場合があるため、上記の除外がお客様に適用されないことがあります。これには、著作権の有無にかかわらず、事前録画済みの素材が含まれますが、これらに限定されません）。
- 製品の設置または初期設定、製品上のユーザー側制御機能の調整、および各種外部デバイス（例：WiFi、アンテナ、USB ドングル、OPS タイプのデバイス）や製品外部のその他のシステムの設置または修理に要する作業費用。
- 本機外部の信号状態、ケーブル、またはアンテナシステムに起因する受信障害。
- 設計、製造、承認、および / または認可された国以外の国で使用可能とするための改造または適合を必要とする製品、あるいはそのような改造によって損傷した製品の修理。
- 製品上のモデル番号または製造番号が変更、削除、除去された場合、または判読不能にされた場合。

本保証は、製品が本来の用途に沿って適切に取り扱われ、かつ操作説明書に従って使用されたことを条件として適用されます。

保証サービスおよび情報の取得方法

詳細な保証範囲の情報、追加のサポート要件、およびヘルプラインについては、製品を購入した販売店および / またはシステムインテグレーターにお問い合わせください。なお、米国においては、本限定保証は米国本土、アラスカ、およびハワイで購入された製品にのみ有効です。

サービスを依頼する前に

サービスを依頼する前に、ユーザーマニュアルをご確認ください。同マニュアルに記載されているコントロールの調整を行うことで、修理依頼の手間を省ける場合があります。

保証期間

フィリップスサイネージディスプレイの保証期間は以下の通りです。このテーブルに記載されていない地域については、それぞれの保証規定に従ってください。

フィリップスサイネージディスプレイの標準保証期間は以下の通りです。このテーブルに記載されていない地域については、現地の保証規定に従ってください。

地域	標準保証期間
米国、カナダ	3 年
中国	3 年
日本	3 年
その他の地域	3 年
メキシコ	3 年
ブラジル	3 年
チリ	3 年
ペルー	3 年

プロフェッショナル製品については、販売契約または購入契約に定められた特定の保証条件が適用される場合がありますのでご注意ください。

索引

オーディオ機器の接続 16
カスタムアプリ 29
クリーニングとトラブルシューティング 54
コントロールパネル 9
パッケージの内容 6
ピクセル欠陥ポリシー 52
フィリップス プロフェッショナルディスプレイの保証ポリシー 59
ブラウザー 23
メディアプレーヤー 20
リモコン 12
リモコンの取り扱い 11
リモコンの操作範囲 11
リモコンへの電池の挿入 11
入出力端子 10
入力モード 50
各部の名称と機能 9
壁面への取り付け 7
外部機器の接続 16
安全に関する説明 1
対応メディアフォーマット 48
技術仕様 57
接続された映像ソースを視聴する 18
操作 18
概要 18
画像フォーマットの変更 18
縦長方向での取り付け 8
補足 40
設定 30
設置に関する注意事項 6
開梱と設置 4

A

AC スイッチカバー 16

I

IR パススルー接続 17

IR 接続 17

O

OSD メニュー 42

OSD メニューのナビゲーション 42

OSD メニューの概要 42

P

PC の接続 16

PDF プレーヤー 27



2026 © MMD Hong Kong Holding Limited. All rights reserved.

本製品はMMD Hong Kong Holding Limitedによって製造され、同社の責任のもとで販売されており、MMD Hong Kong Holding Limitedが本製品に関する保証者です。Philipsおよびフィリップスの盾型エンブレムはKoninklijke Philips N.V.の登録商標であり、ライセンスに基づいて使用されています。

仕様は予告なく変更される場合があります。

バージョン: V1.00 2026-09-16